

＜横浜市立南高等学校附属中学校 中期学校経営方針＞

中期計画期間	平成30年4月～平成33年3月
学校教育目標	<p>(教育理念) 知性・自主自立・創造</p> <p>(教育目標) ○学びへの飽くなき探究心を持つ人材の育成 ○自ら考え、自ら行動する力の育成 ○未来を切り拓く力の育成</p>
中期目標	<p>○言語活動の充実を通して、思考力・判断力・表現力等を一層重視し、各教科等で目指す資質・能力の育成を図る。</p> <p>○総合的な学習の時間“EGG”によって、「豊かなコミュニケーション能力」「論理的な思考力」「幅広い教養と社会性」「多様性を尊重する態度」等を育成し、将来を切り拓く力を育てる。</p> <p>○中高教職員が6年間を見通して協働し、特色ある教育課程の編成・実施・評価・改善を行う。</p>
目標設定の理由	<p>○本校では、6年間の安定しかつ充実した教育環境の中で、一人ひとりの可能性を伸ばし、豊かな人間性と高い学力、国際社会で活躍する力の育成を目指している。</p> <p>○中高一貫教育校として新学習指導要領を踏まえた教育課程編成に取り組む時期にある。</p>
学校の特色づくりのための重点目標	
重点取組項目	取組目標
1 中高一貫教育の充実	<p>○6年間を見通した教育内容の充実を図り、生徒と保護者の学校満足度を90%以上にする。</p> <p>○各教科で6年間を通して身に付ける資質・能力を共有し、指導と評価の改善を図る。</p> <p>○新学習指導要領を踏まえ中高がより円滑に接続する教育課程を編成する。</p>
2 指導力の向上	<p>○外部人材を活用した校内授業研修会と公開授業を開催し、指導力の一層の向上を図り、生徒の授業満足度を90%以上にする。</p>
3 学校広報の充実	<p>○学校広報活動の充実を図り、本校の特色、教育方針等を周知し、より多くの児童・生徒・保護者・地域等が本校の教育活動に対して関心を持てるようにする。</p>
人材育成の取組目標	
<p>○「思考力・判断力・表現力等」の育成に向けて、全教員が年間に1回以上研究授業を行い、授業力を高め合う。経験年数の少ない教員は学期に1回以上研究授業を実施し授業力を高める。</p> <p>○市教育委員会が実施する研修と連動させながらキャリアステージに応じた教師力の向上を図る。</p> <p>○学校全体で取り組むOJTの推進体制を確立する。</p>	

中期学校経営方針における 13 の取組分野

取組分野		取組目標
1	教育目標等の設定・実施	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者に向けての説明や、教育目標の意味を生徒に考えさせる活動等を通して、学校教育目標の周知を図る。 ○学校教育目標に基づいて各学年目標を設定し、具現化を図る。
2	組織運営 教職員研修	<ul style="list-style-type: none"> ○組織的・計画的に取り組めるような校内体制作りに取り組む。 ○若手職員を中心に校内研究授業を職員全員で実施し、指導力向上を図る。
3	教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ○E G G 全体計画を策定し、生徒の主体的な学習を実現する。 ○国語・数学・英語は週 5 時間、また、土曜日を活用して、週 33 時間授業を実施する。 ○6 年間で身に付ける資質・能力を共有し、指導と評価の改善を図る。
4	教科指導	<ul style="list-style-type: none"> ○数学・英語は少人数指導・理科は T T をより効果的に実施する。 ○各種テストの結果等から生徒の学習状況を把握し、授業改善を行う。 ○英語や数学等の補習を実施し、個々の生徒に対するきめ細かい指導の機会を設ける。
5	特別活動 部活動	<ul style="list-style-type: none"> ○学級指導や行事指導を通して、生徒の責任感や自主性等を育成する。 ○生徒会行事や部活動を通して、生徒の望ましい人間関係を育成する。
6	生徒指導 教育相談 (特別支援)	<ul style="list-style-type: none"> ○礼儀指導や規範意識を育成する指導に取り組む。 ○生徒の円滑な人間関係づくりを支援し、いじめの防止に取り組む。 ○教育相談や調査を実施し、全職員による生徒理解を推進する。
7	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア教育全体計画を策定し、E G G 等で社会の第一線で働く方々の講演や職場体験等を行う。 ○特活指導内のキャリア教育の内容を系統だてて計画する。
8	保健指導 環境美化	<ul style="list-style-type: none"> ○食育全体計画・学校保健計画・学校安全計画を策定し、食育・保健指導・安全点検等を実施する。
9	学校経理 施設・設備 情報の管理	<ul style="list-style-type: none"> ○各教室の掲示板やプロジェクターを活用し、視聴覚教育や教育の I C T 化を推進する。 ○学校情報の管理、誤記載のない成績文書作成を推進する。
10	保護者・地域等 との連携協力	<ul style="list-style-type: none"> ○授業参観や懇談会等を通して、保護者との連携協力を推進する。 ○体育祭や文化祭で、本校の教育活動を広く公開する。 ○本校同窓会と連携して地域清掃を定期的実施する。
11	危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ○学校防災・防犯プランをもとに、緊急物資の備蓄や防災指導・防犯指導等を充実させる。 ○緊急メール配信システムを適切に運用する。
12	学校に関する 情報公開	<ul style="list-style-type: none"> ○学校広報の内容を充実させる。 ○ホームページの適切な運用および充実を図る。 ○学校運営協議会及び第三者評価を活用した学校情報の公開を図る。
13	いじめに関する 項目	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止にかかわる研修を定期的実施し、教職員の共通理解を図り、適切な対応方法について研修を深める。 ○1 年生全員と校長面接を行い、一人ひとりが受け入れられていると実感できる環境を作り、いじめを許さない意識の向上を図る。 ○生徒に定期的なアンケートを行い、未然防止と早期発見に努める。

横浜市立南高等学校附属中学校
平成30年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

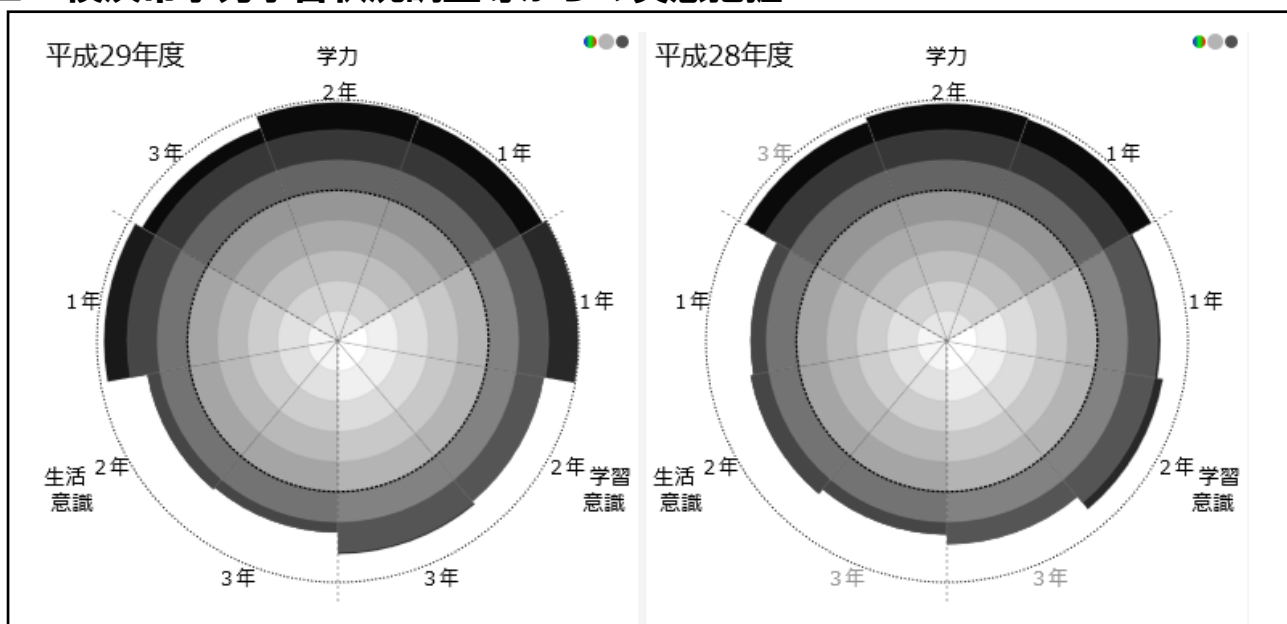
(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標
<p>○ 「チーム南高附属中」として全職員で活力と魅力のある学校づくりを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーション力の育成に対応した教育内容の充実を図り、生徒と保護者の学校満足度を90%以上にします。 ・ 外部人材を活用した校内授業研修会と公開授業を開催し、指導力の一層の向上を図り、生徒の授業満足度を90%以上にします。 ・ 学校広報活動の充実を図り、より多くの児童・生徒・保護者・地域等が本校の教育活動に対して関心を持てるようにします。

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
生徒の学習状況の把握ときめ細かな学習指導	学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」をしっかり伸ばす。	<p>① 全職員が参加する学力分析会を定期的実施し、それらの結果をもとに、生徒の学習状況に応じた教科指導や、教育相談を行っていく。</p> <p>② 生徒自身が日々の学習の計画を立て、記録をする「私の週プラン」を活用し、家庭学習の充実を図る。</p>
担当	学習指導部	

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

3学年すべての教科で、標準化得点、正答率ともに横浜市の平均を上回った。学力層は最上位のA層が最も多く、ほとんどの教科で80%を超える状況であった。下位のC層やD層はわずかであり、校内の基礎力診断テストや数学、英語の補習などの成果がみられる結果となった。

(2) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学力、学習意識に大きな経年変化はみられず、3学年ともに安定して高い状況にある。自発的に学習に取り組む生徒が多く、「私の週プラン」などを活用した家庭学習の習慣づけの成果がみられた。生活意識については概ね高いものの、自己意識の項目（特に進路）がやや低い傾向がみられた。高校入試がなく、自己の進路と向き合う機会が少ないことが要因と考えられるため、卒業生講演会の実施や、キャリア教育のより一層の充実を図り、自己意識の向上につなげたい。

3 平成30年度 学年・教科等としての具体的取組

国語

- 生活や社会に結び付いた課題を設定し、それを解決するための言語活動を通して生徒自らが主体的に学び、知識・技能の定着を図る。
- 目的や場面、意図等を意識して話したり聞いたり、書いたり、読んだりすることを通して、思考・判断・表現する力を育成する。

社会

- 自分の考えを表現できるようにするため、基礎的な知識や地図帳、資料集の活用方法を習得させる。
- 自分の考えを深めることができるように、社会的な事象に関する資料を活用した、少人数による話し合い活動を計画的に取り入れる。

数学

- 基礎・基本の定着を図るために、少人数指導等により数学的活動の楽しさや数学のよさを実感できるようにする。
- 生活や社会の事象を数理的に考察したり論理的に説明したりするなど、数学的活動を重視し、身近な生活と関連付けた学習を意識した授業の展開を心掛ける。

理科

- 単元を通して、科学的な探究活動を進めながら基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。
- 実験を計画したり事象を説明したりする活動を計画的に取り入れ、仮説の議論や結果の共有、考察の議論等において協働的に学ぶ場面を設定する。

音楽

- 生徒の実態にあわせて〔共通事項〕を焦点化した授業構成を行い、音楽活動の充実に必要な基礎的・基本的能力の伸長を図る。
- 生徒同士が音楽表現について意見交換する場を意図的に設定し、よりよい表現を目指すことのできる学習展開を工夫する。

美術

- 横浜版学習指導要領に示す「学習の主題」を基に、育成する力を明確にした題材設定をする。
- 題材全体の活動の中で、見通し・振り返りを大切に授業づくりを行い、生徒による授業評価等で検証し、授業改善を進める。

技術・家庭

- 小学校や他教科での既習事項や生活体験、興味・関心を把握し、生徒の資質・能力を踏まえ題材設定を行う。
- 習得した知識と技術を積極的に活用し、意欲をもって追究し、解決のための方策を探るなどの学習を繰り返し行う。

外国語

- 各ラウンドで生徒に身に付けさせる力を明確にして授業計画、評価計画を立てる。
- 授業で生徒が自分で英語を使って会話する場面やAETとの会話する場面など、具体的な課題を設定し、自分の言葉で自己表現できる力を育成する。

特別活動

- 年間を通じて学級活動や生徒会活動、学校行事に主体的に取り組むことを通して、生徒が活動の意義や大切さを感じるようにする。
- 学校生活や生徒会の取組、学校行事の関連などから問題を見付け、その解決に向け話し合ったり取り組んだりできる活動を設定する。

総合的な学習の時間

- 各教科等単独では取り組むことが難しい現代的な課題を、各教科で身に付けた力等を活用しながら探究的に学ぶことができるようにする。
- 「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という探究の過程が単元の中で何度も繰り返され、スパイラルに高まる学習過程になるようにする。

平成30年度横浜市立南高等学校附属中学校「豊かな心の育成」推進プラン

中期学校経営方針・人間形成達成目標

- 言語活動の充実を通して、思考力・判断力・表現力等を一層重視し、各教科等で目指す資質・能力の育成を図る。
- 総合的な学習の時間“EGG”によって、「豊かなコミュニケーション能力」「論理的な思考力」「幅広い教養と社会性」「多様性を尊重する態度」等を育成し、将来を切り拓く力を育てる。

児童(生徒)の実態(「豊かな心の育成」にかかわる課題)

- ・プライド高く、「よい子」であることを周囲から期待されてきた生徒が多く、素直に自分の失敗を認めない、他に責任を転嫁しようとするなどの場面が見られる。
- ・マナーやエチケットに関する事項は、頭では理解したつもりになっているが、行動に移すことができていないこともある。

「豊かな心の育成」に関する指導の目標・方針

- ・道徳の時間において、計画的に参加型学習を実施し、生徒自身が主体的に学習できるようにする。(「道徳の時間の充実」)
- ・総合的な学習の時間や校外学習において、計画的に体験型学習を実施し、生徒自身が主体的に行動できるようにする。(体験活動の充実)
- ・計画的に人権に関する学習や活動を実施し、校内に「人権尊重の文化」を構築する。(確かな人権感覚・意識の育成)
- ・読書活動を充実し、豊かな感性・情操を育む。(豊かな感性や情操の育成)

指針1 「特別の教科 道徳」の充実

【視点1】要となる「特別の教科 道徳」の指導

- ・道徳指導係が作成した指導案を学年会で検討し、道徳の時間の授業のねらい・方法などを共通理解した上で、授業を実施します。

【視点2】児童・生徒にとって魅力的な教材

- ・参加型学習を取り入れ、生徒が自ら学ぶ道徳の授業を展開します。
- ・道徳指導係が優れた読み物教材やアクティビティを用意します。

指針2 体験活動の充実

【視点3】望ましい集団活動

- ・「E G G体験」として「プロジェクトあしがらアドベンチャー」や「構成的グループエンカウンター研修」を実施します。

【視点4】発達の段階と照らした課題の位置付けとキャリア教育

- ・「E G G講座」として、様々な企業・機関・大学などと連携した多彩な講座を開設・実施します。

指針3 確かな人権感覚・意識の育成

【視点6】人権教育の充実

- ・「平成30年度 人権教育推進計画書」の作成・活用に取り組みます。
- ・「よこはま国際平和スピーチコンテスト」や「人権作文コンテスト」などに取り組みます。

【視点7】子どもの社会的スキルの育成と安全・安心な学級・学校風土の醸成

- ・年間2回、外部講師による「コミュニケーション研修」を1学年生徒全員が受講します。
- ・希望生徒に対し、スクールカウンセラーによる心の学習教室を実施します。

【視点8】特別支援教育の充実

- ・特別支援教育が必要な生徒に対する教職員研修を開催し、通級先の教員と連携を取りながら、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成・活用に取り組みます。

【視点9】国際理解教育の推進

- ・「英語集中研修」や「御殿場イングリッシュキャンプ」、「カナダ研修旅行」などに取り組みます。

指針4 豊かな感性や情操の育成

【視点10】優れた文化・芸術に触れる活動の充実

- ・本格的な演奏会場（みなとみらいホール）で、合唱コンクールを実施します。

【視点11】豊かな感性・情操を育む読書活動の充実

- ・「学校図書館教育指導計画」の活用に取り組みます。

横浜市立南高等学校附属中学校 平成 30 年度 体育・健康プラン

～体育・健康に関する指導の全体計画～

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標	
○	言語活動の充実を通して、思考力・判断力・表現力等を一層重視し、各教科等で目指す資質・能力の育成を図る。
○	総合的な学習の時間“EGG”によって、「豊かなコミュニケーション能力」「論理的な思考力」「幅広い教養と社会性」「多様性を尊重する態度」等を育成し、将来を切り拓く力を育てる。
○	中高教職員が6年間を見通して協働し、特色ある教育課程の編成・実施・評価・改善を行う。

(2) 体育・健康に関する指導の重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取組目標	具体的取組
健やかな体		生徒の体育・健康面の課題を明確にし、保健体育科を中心としながら、教育活動全体を通して日常生活の健康管理や体力の向上を図り、健やかな体の育成を目指す。	①日常生活における食事・睡眠・運動のバランスをとることの大切さを、教育課程全体で計画的に指導する。 ②体育祭など、学校行事を通して仲間と協力して運動に取り組む楽しさを味わわせる。 ③体力テストの結果から自己に応じたサーキットトレーニングを作成して実践したり、各自のレーダーチャートと望ましい運動の指針を渡して保護者と共有するなど、体力の向上・生活習慣の改善を図る。
	担当		

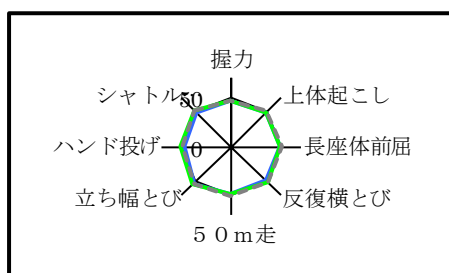
2 体育健康に関する実態把握

(1) 体育・健康に関する実態

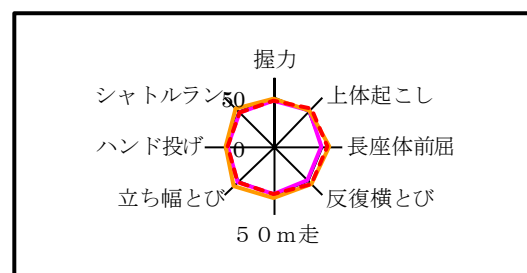
- ①男女とも身長は、国・県の平均を上回っているが、体重はやや軽くやせ型が多い。
- ②小学校高学年の受験勉強で、思いきり運動をする機会が少なかったためか、走り方、投げ方など動きの経験そのものが不足している生徒が多い。
- ③多くの生徒が電車・バス等で通学に時間がかかるため、1日の生活時間の中で運動する時間を確保することが困難である。

(2) 体力の概要と要因の分析

男子全体 青1年 緑2年 点線3年



女子全体 橙1年 赤2年 点線3年



男女ともに共通する傾向として、握力、ハンドボール投げが全国の平均を下回っている。これは、やせ型の生徒が多いため、筋肉の発達が不足している傾向があることと関係している。しかし、3年間の取り組みで少しずつ改善され、上記のレーダーチャートのように学年が進むにしたがって男女共に向上している。

3 体育・健康に関する具体的取組

教科

《体育科・保健体育科での取組》

- ・保健体育科では、運動の楽しさを味わい、積極的に運動に親しむ態度の育成を目指して、あらゆる場面で仲間と協力して取り組む授業を展開する。
- ・1、2年生では、単元の基本となる運動技能をしっかり身につけさせ、3年から高校の運動選択に生かせるようにする。
- ・体づくり運動では、自己の体力を分析し、必要な運動メニューを作成することで、主体的に体力向上を図ろうとする実践力を育成していく。

《他教科での取組》

- ・家庭科では、食育の観点から偏りのない栄養素の摂取について自分の生活を点検する。

道徳・特活・総合

- ・保健・安全指導では、教科の内容と合わせて日常生活の中で自らの健康・安全を確保することができるよう、具体的行動に結びつく教材を工夫して指導する。
- ・消防署と連携して、心肺蘇生法や心臓マッサージなど救急救命の実技を行い、非常時の行動の仕方や実践力を身につける活動を行う。
- ・体育祭では、学年種目として学級ごとに協力して取り組む種目を取り入れ、責任を持って自己の役割を果たし、仲間と協力する態度の育成を図る。

課外活動

- ・運動部活動の推進、特に短時間集中型の基本的なトレーニングの充実
- ・保健便りによる健康づくりの啓発活動

平成30年度 南高等学校附属中学校 体力向上実践運動

《名 称》 サーキットトレーニングを取り入れた運動実践

《ねらい》 自分自身で運動メニューを考え、短時間で総合的な体力（特に筋力・瞬発力）の向上を図る。

《内 容》 授業の準備運動の一環として一週300mのサーキットトレーニングを各自考え、毎時間実践する。

●指 標： 次年度体力テストのポイントアップ（各自総合判定5ポイント以上）

1年国語	
使用教科書	国語1(光村図書) 中学書写(教育出版)
補助教材	国語便覧(浜島書店) 新文法ノート(浜島書店) 漢字検定対応 級別漢字クラ ブ7級～準2級(東京法令出版) 中学国語標準長文(受験研究社) 国語辞典(各自購入)

年間総時数	175(書写20時間含む)
目標	目的や場面に応じて構成を工夫して話したり、話し手の意図を考えて聞いたり、構成を考えて的確に書いたりする力を育てるとともに、様々な種類の文章を読むことを通して、自分のものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。
評価	国語への関心・意欲・態度…授業中の活動の様子、ふりかえりの記述、家庭学習の取り組みなどで評価します。 話す・聞く能力…スピーチや話し合い活動などにおける取り組み等で評価します。 書く能力…レポートや体験文、報告文、短作文など成果物を中心に評価します。 読む能力…定期試験を中心に、授業で取り組むワークシート、課題等で評価します。 言語についての知識・理解・技能…定期試験や基礎力診断テスト、日常の小テスト、書写の作品等で評価します。

月	指導事項/ 領域	単元/教材	時数	学習目標	学習活動例
4	学習のガイダンス	中学校国語の学習の仕方について学び、新しい目標や課題を考える。	3	1年間の国語の学習への見通し、課題、目標を明らかにする。	①小学校時代の国語の学習を振り返り、自分の課題や中学校で身につけたい言葉の力を考える。 ②1年間の国語科学習の仕方を知る。
4	【読む】	想像しながら朗読する「野原はうたう」	5	表現の特徴やリズム、間を意識して音読の仕方を工夫する。	①音読や発表の仕方を考える。 ②詩の中の情景や心情を読み取る。 ③読み取ったことが聞き手に伝わるように、詩を朗読する。
4 5	【話す・聞く】	私の宝物紹介スピーチ(ショウ&テル)	6	話の構成や順序を工夫し、自分の伝えたいことを整理する。 声の大きさや話す速さなど、話し方を意識して聞き手にわかりやすい発表をする。	①自分の「宝物」として紹介する具体物を考える。 ②エピソードなどの具体例を入れてスピーチの内容を考える。 ③スピーチをし、感想を伝え合う。
5	【読む】	新聞記事を比べる	2	資料をもとに、同じ記事を報道する新聞記事と比較し、出来事(事実)を伝える視点の違いをとらえる。	①内容と表現(説明の仕方)の両面を、「見出し」「リード文」「本文」「写真」の4つの観点でとらえる。 ②二つの記事を比べながら読み、新聞記者がどこに注目して取材するかによって、記事の内容が変わってくることを知る。
5	【読む】	「花曇りの向こう」で朗読リーディング	6	場面や登場人物の描写に着目して、内容を読み取る。 心情の変化をとらえ、題名に込められた意味を考える。	①情景や心情を表す言葉に着目して本文を読む。 ②主人公の気持ちの変化を文章に沿って読み取る。 ③人物の気持ちの変化が情景描写に支えられていることなど、気づいたことをまとめ、意見を交流する。
5	【言語事項】	話し言葉と書き言葉	1	話し言葉と書き言葉の違いを理解する。	①教材文を読んで、話し言葉と書き言葉の特徴について知る。 ②教科書の課題や問題に取り組む。
5	【書く】	1枚レポートを書く	7	集めた材料を分類し、事実や考え、段落などを整理して文章を構成する。	①テーマを決める。 ②材料を集めて整理する。 ③構成を考えて書く。 ④意見を交流する。
6	【読む】	2つの説明文の構成を読む『ダイコンは大きな根?』『ちよつと立ち止まって』	7	文章中の問いと答えを整理し構成を考えながら読む。	①段落の役割に着目しながら全文を読む。 ②題名の付け方、説明の順序、文章の書き方についての特徴を考える。 ③文章構成の全体図を考え、説明する。
6	【言語事項】	文法1 言葉の単位	3	文・文節・単語など、言葉の単位について理解する。	①教材文を読んで、言葉の単位について知る。 ②教科書や「新文法ノート」の課題や問題に取り組む。
7	【話す・聞く】	学校紹介スピーチ	8	南高校附属中学校について集めた材料を整理して、聞き手を意識したスピーチを行う。	①附属中について紹介する項目を決め、スピーチを行うための材料を集める。 ②構成を考え、発表で利用するフリップを作成する。 ③スピーチ発表会を開き、代表生徒を選ぶ。
7	【言語事項】	文法2 文の組み立て	6	文節どうしの関係を理解し、文の組み立てを考える。	①教材文を読んで、文節の関係について知る。 ②教科書や「新文法ノート」の課題や問題に取り組む。
8 9	【話す・聞く】	ブックトークをする	8	文章の構成、表現の特徴について、自分の考えを明確にして本の紹介を行う。	①ブックトークにふさわしいテーマを決めて、紹介する本を複数選ぶ。 ②選んだ本について、テーマと関連させながら、ブックトークの内容を考える。 ③ブックトークを開き、互いの考えを交流し合う。
9	【読む】	『星の花が降る頃に』物語の続きを書く	8	場面の展開や登場人物の描写に着目して、作品を読み深める。	①場面の展開や情景描写・人物描写に着目して作品を読む。 ②人物の心情の変化を読み取り、それにもとづいて物語の続きを書く。 ③グループ内で交流する。

10	【読む】	大人になれなかった弟たちに	6	登場人物の行動や情景描写に着目して、心情をとらえる。 厳しい時代や状況を生きた人物の姿から、自分のものの見方や感じ方を見つめ直す。	①情景や場面の展開、心情を表す言葉に着目して本文を読む。 ②人物の心情の変化を文章に沿って読み取る。 ③題名の込められた作者の思いを想像する。
10	【読む】【伝統的な言語文化】	いろは歌 七夕に思う	4	さまざまな古典作品の音読を通して、古典に親しみを持ち、現代とのつながりを考える。	①小学校時代の古典の学習を振り返る。 ②全文を通読し、古典が現代まで読み継がれてきたことを理解する。 ③いろは歌、七夕を題材にした和歌、随筆などを音読する。
10	【読む】【伝統的な言語文化】	竹取物語を説明する	10	古典の文章の仮名遣いに注意したり、リズムを味わったりしながら音読し、古典の文章に読み慣れる。	①全文を通読し、古典のリズムや表現に親しむ。 ②古文と現代語訳を比較して、古文の特徴に気づく。 ③表現の特徴や作者のものの見方について考え、竹取物語のおもしろさを説明する。
10	【読む】【伝統的な言語文化】	百人一首に親しむ	7	作品の音読を通して、和歌のリズム、百人一首について理解する。	①小学校時代の古典の学習を振り返る。 ②百人一首について知り、古典和歌のリズムに親しむ。 ③百人一首を楽しむ。
11	【書く】【伝統的な言語文化】	今に生きる言葉(故事成語)	6	中国の古典に由来する言葉が、今も生活の中に生き続けていることを知り、漢文独特の言い回しに読み慣れる。	①故事成語の由来を音読する。 ②意味と由来を調べる。 ③故事成語を使って体験文を書く。
11	【読む】	「幻の魚は生きていた」でQ&A	8	中心となる文章に着目しながら文章の要旨をとらえる。 筆者の考えをもとに、人間の生活と生き物や環境との関係について、考えを深める。	①段落のまとまりに注意しながら全文を通読する。 ②文章中の問いと答えの関係に着目しながらQ&Aを作る。 ③作成したQ&Aを整理して、文章全体を要約する。
12	【言語事項】	文法3 単語の分類	5	言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	①教材文を読んで、単語の分類、自立語、付属語などを理解する。 ②教科書や「新文法ノート」の課題や問題に取り組む。
12	【言語事項】	指示する語句と接続する語句 さまざまな表現方法	5	指示語や接続語、言葉の特徴や表現の方法についての理解を深める。	①教材文を読んで、接続語や指示語が果たす役割などを理解する。 ②教材文を読んで、比喩や表現方法の効果を理解する。
1	【読む】	「少年の日の思い出」で全体討論をする	10	登場人物の描かれ方を通して、自分のものの見方や考え方を広げる。	①情景や心情を表す言葉に着目して本文を読む。 ②「僕」と「エーミール」の関係を読み取り、「僕」のものの見方を考える。 ③「エーミール」のものの見方を考える。 ④読み取ったことをまとめ、意見を交流する。 ④感想を交流する。
1	【言語事項】	漢字の音訓	2	言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	①漢字の音や訓について知る。 ②教科書の課題や問題に取り組む。
2	【言語事項】	漢字の成り立ち	2	言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	①漢字の成り立ちについて理解する。 ②教科書の課題や問題に取り組む。
2	【書く】	本の装丁の鑑賞文を書く	8	本の装丁の良さが読み手に伝わるように、根拠を明らかにして書く。	①鑑賞文を書くための題材を選ぶ。 ②観点を決めて構成メモを書く。 ③鑑賞文を書く。 ④完成した鑑賞文を交流する
3	【読む】	名作を読む (近代以降の文学作品)	10	課題に沿って小説を読み、引用しながら作品について紹介する。	①複数の小説を読み、他の人に紹介する文章を選ぶ。 ②小説を読む観点や視点を定め、引用しながら紹介するメモを作る。 ③グループ内で発表会を開き、交流する。
3	学習の振り返り	1年間の学習を振り返る	2	1年間で身についた力を確かめ、次の学年につなげる。	①1年間の学習振り返りシートに記述する。 ②来年への課題、継続したい目標などを記述する。

1年書写	20時間
教科書	教育出版「中学書写」
学習目標	身の回りの文字に関心をもち、文字文化に親しむとともに、社会生活や学習活動に生かそうとする態度を育てる。 ・字形を整え、文字の大きさや配列を理解して、楷書で書く。 ・漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書く。
学習の進め方	・時間割の「国/書写」の中で、書道室に移動して行う。 ・各自習字道具を準備する。

		単元/領域	学習内容
1 学期	4月～7月	1 これまでの書写の学習を振り返り、1学年の目標を立てる。書写の学習ガイダンス。 2 楷書で書く。	○中学校における書写の学習内容や目標を理解する。 ・正しい姿勢や用具の扱い方を確認する。 ・基本的な筆使いを練習する。 ○楷書の基本点画の筆使いを理解する。 ・筆の角度や筆圧の変化に注意して練習する。 ○楷書の字形・筆順を理解する。 ・美しいバランスがとれるように、余白との関係を意識し、字形の組み立て方や線の動きをイメージする。
2 学期	8月～12月	3 楷書と仮名を調和させて書く。 4 行書で書く。	○平仮名の筆使いを理解する。 ・「いろは歌」を手本に筆脈を意識して練習する。 ○楷書と仮名の調和体を理解する。 ・字形・筆脈・全体のバランスを意識して練習する。 ○楷書と行書の違い、行書の点画の特徴などを正しく理解する。
3 学期	1月～3月	5 書き初めを書く。 6 行書で書く。 7 1年間の学習のまとめを行う。	○文字の大きさや字間、行の中心などを理解して、配列よく書く。 ○連続性のある筆使いを理解する。 ・字形の変化や筆脈を意識して練習する。

1年社会	
使用教科書	中学生の地理(帝国書院) 新しい日本の歴史(育鵬社) 地図帳
補助教材	つながる歴史神奈川県版(浜島書店) アクティブ地理(浜島書店) 歴史の学習1(浜島書店) 地理の学習1(浜島書店) WinPass社会 全(文理出版)

年間総時数	105
目 標	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する。
評 価	関心・意欲・態度：学習への取り組みや提出物、授業中の課題などで評価します。 思考・判断・表現：授業中の課題・定期テストなどで評価します。 資料活用の技能：授業中の課題・定期テストなどで評価します。 知識・理解：授業中の課題・定期テストなどで評価します。

月	指導事項/ 領域	単元/教材	時 数	学習目標	学習活動例					
	オリエンテーション	今年度の授業計画等について	1	中学1年生で学習する内容等について確認する。						
4	【地理】 A 世界と日本の地域 構成	(1)地域構成	8	地球儀や世界地図を活用し、緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などの知識を身に付け、世界の地域構成の特色を多面的・多角的に考察し、表現する。	・世界地図パズル ・世界地図を描こう ・世界の国調べ					
5	【地理】 B 世界の様々な地域 環境	(1)世界各地の人々の生活と環境	8	世界の人々の生活や環境の多様性を理解し、その特色や変容の理由を自然・社会的条件などの着目して多面的・多角的に考察し、表現する。	・世界の様々な特徴のある土地について、調べ学習などを通して生活の様子やその背景を考察する。(ポスターセッションなど)					
6	【歴史】 A 歴史との対話	(1)私たちと歴史 (2)身近な地域の歴史	5	年代の表し方や時代区分についての基本的な内容を理解する。また、資料から情報を読み取ったり、年表などにまとめる技能を身に付ける。	・歴史年表づくり など					
7	【歴史】 B 近世までの日本と アジア	(1)古代までの日本	22	○世界の古代文明などを基に、世界の各地で文明が築かれたことを理解する。 ○東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解する。 ○東アジアの文物や制度を取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後天皇や貴族による政治が展開したことを理解する。 ○仏教の伝来や仮名文字の成立などを基に、国際的な要素をもった文化が栄え、そこから文化の国風化が進んだことを理解する。	・縄文時代の絵日記を描こう ・史料から当時の様子を読み解こう ・藤原氏の系図を書いてみよう ・飛鳥・天平・国風文化の特色調べ など					
8						【歴史】 B 近世までの日本と アジア	(2)中世の日本	14	○鎌倉幕府の成立、元寇などを基に、武士が台頭して、武家政権が成立したことを理解する。 ○南北朝の騒乱と室町幕府などを基に、武家政権の展開とともに、東アジアとの密接な関わりが見られたことを理解する。	・武士の暮らしを資料から読み取ろう ・鎌倉仏教を音から理解しよう ・鎌倉幕府と室町幕府の違いとは？ ・勘合貿易を行おう など
9										
12	【地理】 B 世界の様々な地域	(2)世界の諸地域 ①アジア ②ヨーロッパ ③アフリカ ④北アメリカ ⑤南アメリカ ⑥オセアニア	24	○アジア、ヨーロッパ、アフリカ、北アメリカ、南アメリカ、オセアニアなどの世界各地で顕在化している地球的課題は、地域的特色の影響を受けて現れ方が異なることを理解する。 ○世界の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し、理解する。 ○世界の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどの着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。	各州の特色を追求できるような主題を設け、調査する。 例)・なぜヨーロッパに多くの観光客が訪れるのか考えよう ・なぜアメリカでファストフード産業が盛んなのか考えよう など					
1						【地理】 C 日本の様々な地域	A 日本の地域構成	13	我が国の国土の位置、領域の範囲や変化とその特色などを理解し、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などの着目して多面的・多角的に考察し、表現する。	・日本の位置や我が国の領土について学習しよう
2	【地理】 C 日本の様々な地域	A 日本の地域構成	13	我が国の国土の位置、領域の範囲や変化とその特色などを理解し、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などの着目して多面的・多角的に考察し、表現する。	・日本の位置や我が国の領土について学習しよう					
3										

1年数学	
使用教科書	新しい数学1(東京書籍)
補助教材	体系数学 代数編 (数研出版) 体系数学 幾何編 (数研出版) 体系数学完成ノート 発展編 (数研出版) 基礎の計算練習(新学社) 新Aクラス中学数学問題集 (昇龍堂出版)

年間総時数	175
目 標	数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数学的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。
評 価	数学への関心・意欲・態度・・・学習の取り組み、発表、提出物、テスト、ノートをもとに評価します。 数学的な見方や考え方・・・定期テストや小テストをもとに評価します。 数学的な技能・・・定期テストや小テストをもとに評価します。 数量や図形などについての知識・理解・・・定期テストや小テストをもとに評価します。

月	指導事項/ 領域	単元/教材	時数	学習目標	学習活動例
4 5	学習のガイダンス	中学校数学の学習の仕方について学び、授業での約束事を確認する。	1		・教材ごとの学習のしかた ・授業内でのルール(発表をするとき)
	A 数と式	体系数学1 代数編 第1章 正の数と負の数 1 正の数と負の数 2 加法と減法 3 乗法と除法 4 四則の混じった計算 ■ 問題	22	具体的な場面を通して正の数と負の数について理解し、その四則計算ができるようにするとともに、正の数と負の数を用いて表現し考察することができるようにする。	・正の数と負の数を用いて表現し考察することができるようにする。 ・小学校で学習した数の四則計算と関連付けて、正の数と負の数の四則計算の意味を理解する。 ・正の数と負の数の四則計算をする。 ・具体的な場面での正の数と負の数を用いて表したり処理したりする。
5 6	A 数と式	第2章 式の計算 1 文字式 2 多項式の計算 3 単項式の乗法と除法 4 文字式の利用 ■ 問題	22	具体的な事象の中に数量の関係を見出し、それを文字を用いて式に表現したり式の意味を読み取ったりする能力を養うとともに、文字を用いた式の四則計算ができるようにする。	・簡単な整式の加法、減法及び単項式の乗法、除法の計算をすること。 ・文字を用いた式で数量及び数量の関係をとらえ説明できることを理解する。 ・目的に応じて、簡単な式を変形する。
6 7	A 数と式	第3章 方程式 1 方程式とその解 2 1次方程式の解き方 3 1次方程式の利用 4 連立方程式 5 連立方程式の利用 ■ 問題	28	方程式について理解し、一元一次方程式、連立二元一次方程式を用いて考察することができるようにする。	・方程式、連立二元一次方程式の必要性と意味及び方程式の中の文字や解の意味を理解する。 ・等式の性質を基にして、方程式が解けることを知る。 ・二元一次方程式とその解の意味を理解すること。 ・一元一次方程式、連立二元一次方程式を解くこと及びそれを具体的な場面で活用する。
9	A 数と式	第4章 不等式 1 不等式の性質 2 不等式の解き方 3 不等式の利用 4 連立不等式 ■ 問題	15	不等式について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。	式の見方を豊かにするとともに、一次不等式や連立不等式についての理解を深め、それらを活用できるようにする。
10	C 関数	第5章 1次関数 1 変化と関数 2 比例とそのグラフ 3 反比例とそのグラフ 4 比例、反比例の利用	15	具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、その変化や対応を調べることを通して、比例、反比例の関係についての理解を深めるとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を養う。	・関数関係の意味を理解する。 ・比例、反比例の意味を理解する。 ・座標の意味を理解する。 ・比例、反比例を表、式、グラフなどで表し、それらの特徴を理解する。 ・比例、反比例を用いて具体的な事象をとらえ説明する。
11	D 資料の活用	第6章 資料の整理と活用 1 資料の整理 2 代表値とちがらばり 3 近似値と誤差 ■ 問題	10	目的に応じて資料を収集し、コンピュータを用いたりするなどして表やグラフに整理し、代表値や資料の散らばりに着目してその資料の傾向を読み取ることができるようにする。	・ヒストグラムや代表値の必要性と意味を理解する。 ・ヒストグラムや代表値を用いて資料の傾向をとらえ説明する。
12 1	B 図形	体系数学1 幾何編 第1章 平面図形 1 平面図形の基礎 2 対称な図形 3 図形の移動 4 作図 5 面積と長さ ■ 問題	27	観察、操作や実験などの活動を通して、見直しをもって作図したり図形の関係について調べたりして平面図形についての理解を深めるとともに、論理的に考察し表現する能力を培う。	・角の二等分線、線分の垂直二等分線、垂線などの基本的な作図の方法を理解し、それを具体的な場面で活用する。 ・平行移動、対称移動及び回転移動について理解し、二つの図形の関係について調べる。
2	B 図形	第2章 空間図形 1 いろいろな立体 2 空間における平面と直線 3 立体のいろいろな見方 4 立体の表面積と体積 ■ 問題	25	観察、操作や実験などの活動を通して、空間図形についての理解を深めるとともに、図形の計量についての能力を伸ばす。	・空間における直線や平面の位置関係を知る。 ・空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されるものととらえたり、空間図形を平面上に表現して平面上の表現から空間図形の性質を読み取る。 ・扇形の弧の長さや面積並びに基本的な柱体、錐体及び球の表面積と体積を求める。
3	C 関数	第5章 1次関数 5 1次関数とそのグラフ 6 1次関数と方程式 7 1次関数の利用 ■ 問題 ■ 代数1の総復習	10	具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、その変化や対応を調べることを通して、比例、反比例、一次関数の関係についての理解を深めるとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を養う。	・一次関数を表、式、グラフなどで表し、それらの特徴を理解する。 ・一次関数を用いて具体的な事象をとらえ説明する。 ・二元一次方程式を関数を表す式とみる。

1年理科	
使用教科書	未来へひろがるサイエンス1 (新興出版社啓林館)
補助教材	最新理科便覧(浜島書店) WinPass1年(文理出版)

年間総時数	105
目 標	自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。
評 価	科学への関心・意欲・態度・・・ノート、提出物、自由研究等をもとに評価します。 科学的な見方や考え方・・・おもに定期テストをもとに評価します。 科学的な技能・・・定期テスト、技能テスト、提出物等をもとに評価します。 科学的な事象についての知識・理解・・・定期テスト、基礎力診断テスト等をもとに評価します。

月	指導事項/ 領域	単元/教材	時数	学習目標	学習活動例
4	学習のガイダンス	中学校理科の学習の仕方について学び、新しい目標や課題を考える。	1	1年間の理科の学習への見通し、課題、目標を明らかにする。	①小学校時代の理科の学習を振り返り、自分の課題や中学校で身につけたい言葉の力を考える。 ②1年間の理科学習の仕方を知る。
4	実験・観察のガイダンス1	身近な自然に目を向けてみよう	4	実験・観察の結果、考察、結果を発表し、レポートにまとめる。	①顕微鏡・双眼実態顕微鏡等の基本操作を学ぶ。 ②スケッチの仕方、レポートの書き方、観察記録の技能、調べ方等を学ぶ。 ③課題に基づいて「水槽の微生物の観察」等の実験・観察を行い、スケッチするなどの確に記録する。 ④与えられた課題について考察し、発表する。 ⑤主体的に今後の課題を発見する。 ⑥レポートを作成する。
4	生物	花のつくりとはたらき	5	植物の花のつくりの観察を行い、花のつくりの特徴を働きと関連づけてとらえる。	①花のつくりを観察し、その結果に基づいて花に共通する特徴を見つける。 ②花は種子をつくる生殖器官であることを理解する。また花粉・胚珠と種子、子房と果実の関連を理解する。 ③裸子植物(マツなど)の花を観察し、裸子植物の花と被子植物の花のつくりの違いを考える。 ◎補助教材等を用いて、中3の「生命の連続性」に関連させて「植物の生殖の過程」や高1で扱う「生物の共通性と多様性」等に触れる。
5	生物	水や栄養分を運ぶしくみ	5	植物の茎・根のつくりの観察を行い、茎・根のつくりの特徴を働きと関連づけて捉える。	①茎や根の断面の観察や実験を行い、水は根で吸収されること、根や茎にある維管束の中の道管を上昇することを理解する。 ②光合成によって生じた有機物は、師管を通して他の部位に運ばれることを理解する。
5	生物	栄養分をつくるしくみ	8	植物の葉のつくりの観察を行い、葉のつくりの特徴を働きと関連づけて捉える。	①葉の光合成を調べる実験を行い、光合成について理解する。葉の細胞中の葉緑体で光合成が行われていることを理解する。 ②葉の呼吸を調べる実験を行い、呼吸と光合成は気体の出入りでは逆の関係にあることを理解する。 ③葉の断面や気孔の観察と吸水の実験を行い、吸水と蒸散について理解する。 ◎補助教材等を用いて、中2「動物の生活と生物の変遷」、高1「細胞とエネルギー」と関連させて「光合成」「呼吸」について探究する。
5	生物	植物のなかま分け	5	植物のつくりの特徴に基づいて分類できることを見い出し、植物の種類を知る方法を身に付ける。	①同じ種類の植物は、花のつくりや葉脈の形状などが一定していることに気づき、それらを基準にした分類を基に、分類表などを作成する。 ②作成した分類表などを用いて、他の植物がどの仲間に入るかを考察し、つくりの特徴に基づく分類が有効であることを確かめる。 ③シダ植物やコケ植物を観察し、それぞれの特徴を理解する。 ④胞子の観察または調べて、胞子の役割について理解する。 ◎補助教材等を用いて、中2「動物の生活と生物の変遷」、高1「生物の共通性と多様性」と関連させて、「分類」「進化」に触れる。
6	物理	光による現象	9	光の反射や屈折、レンズの実験を行い、反射・屈折の規則性やレンズの働きを理解する。	①鏡や水槽、レンズなどの身近なものを用いて光の進み方の実験を行い、主体的に工夫させ興味・関心を高める。 ②光の反射・屈折の規則性に気付かせる。 ③凸レンズに光をあて、焦点に光が集まることを理解する。 ④凸レンズによって、虚像、実像が見えることを理解する。

6	物理	音による現象	5 音の性質についての実験を行い、音の伝わり方や音の性質と発音体の振動の関係を見出す。	実験・観察を通して発見した音の伝わり方や性質を発表し、発音体の振動の仕方との関係について話し合う。	①実験を通して物体が振動しているときに音が発生していることに気付く。 ②実験を通して、音を伝える物質があることに気付かせる。 ③空気中を伝わる音の速さについて考察する。 ④弦の振動と発生する音の高さや大きさの関係を理解する。 ◎補助教材等を用いて、高1「音と振動」に関連させて「音」を探究する。
---	----	--------	--	---	---

9	物理	力による現象	10	物体に働く力と物体の運動の関係や、力が大きさと向きで表現されることを知る。	実験・観察を通して発見した物体に働く力と運動の関係について話し合う。	①実験を通して、物体に働く力の大きさや向きと、物体の運動との関係を理解する。 ②ばねに加える力の大きさと、ばねの伸びの関係を考察する。 ③重さと質量の違いを理解し、質量と重力の大きさが比例することを知る。 ④1[N]の単位を理解し、力には向き、大きさ、作用点があり、力を矢印で表すことができることを知る。 ◎補助教材等を用いて、中3「力のつりあい」「力と物体の運動」、高1「様々な力と運動」と関連させて「力と運動」を探究する。
9	実験・観察のガイダンス2	実験を正しく安全に進めるために	4	実験・観察を通して、実験器具、ガスバーナー等の安全な基本操作を身に付ける。	実験・観察の結果、考察、結果を発表し、レポートにまとめる。	①実験器具、ガスバーナー等の安全な基本操作を学ぶ。 ②スケッチの仕方、レポートの書き方、観察記録の技能、調べ方等を確認する。 ③課題に基づいて実験・観察を行い、的確に記録する。 ④与えられた課題について考察し、発表する。 ⑤主体的に今後の課題を発見する。 ⑥レポートを作成する。
10	化学	いろいろな物質とその性質	7	実験・観察を通して、物質の性質や変化の調べ方の基礎を身に付ける。	実験・観察を通して見出した物質の性質や変化の様子を発表または報告する。	①金属などの様々な物質の密度を測定する実験を行い、密度の違いに気付く。 ②食塩や砂糖などの粉末を加熱するなどして区別し、それぞれの性質を理解する。 ③金属と非金属の違いについて理解する。 ④日常生活に役立っている物質とその性質を知る。 ◎補助教材等を用いて、中2「物質のなりたち」、高1「化学と人間生活」「物質の構成」と関連させて、「物質の性質や構成」に触れる。
10	化学	いろいろな気体とその性質	6	気体を発生させてその性質を調べる実験を行い、気体の性質を見出す。	実験・観察を通して見出した気体の性質を発表または報告する。	①気体の発生や捕集などの実験を行い、気体の発生方法や性質を理解する。また実験の技能を身に付ける。 ②捕集方法と気体の密度の関連について考察する。 ◎補助教材等を用いて、中2「物質のなりたち」、高1「化学と人間生活」「物質の構成」と関連させて、「気体の性質」に触れる。
11	化学	水溶液の性質	5	物質を水に溶かす実験や水溶液から溶質を取り出す実験を行い、水溶液の性質を理解する。	実験・観察を通して見出した水溶液の性質や変化の様子を発表または報告する。	①物質が水に溶ける様子を観察し、水溶液の溶質が均一になっていることを理解する。 ②水溶液の濃さの表し方に質量パーセント濃度があることを理解し、演習を行う。 ③水溶液から結晶をつくる実験を通して、溶質を分離できることを理解する。 ◎補助教材等を用いて、中3「水溶液」と関連して「水溶液の性質」について触れる。
11	化学	物質のすがたとその変化	7	物質の状態変化と温度の関係を知り、状態変化を利用して物質の分離ができることを見出す。	実験・観察を通して物質の状態変化の性質や様子について、発見したことを発表または報告する。	①物質を加熱したり冷却したりすると状態が変化することを観察し、融点や沸点などとの関連を理解する。 ②状態変化と体積の関連を理解するとともに、状態変化によって質量は変化しないことを知る。 ③融点や沸点を利用して、混合物から物質を分離できることを知る。 ◎補助教材等を用いて、高1「物質の三態」と関連させて、「状態変化」について探究する。
1	地学	大地がゆれる	6	地震の揺れの規則性に気づき、地震の原因を地球内部の動きと土地の変化に関連づけて理解する。	地震の記録を素に、地震の揺れの規則性を発見して発表し、地震の原因について話し合う。	①地震の揺れの特徴を地震計の記録の資料から理解する。 ②地震計の記録資料から、地震の揺れが伝わる速さを推定し、伝わり方を考える。 ③初期微動継続時間と震源からの距離の関係、震度とマグニチュードの違いについて理解する。 ④地震の原因がプレートの動きや火山活動で説明できることを理解する。 ⑤地震にともなう土地の変化や災害について理解する。 ◎補助教材等を用いて、中3「自然と人間」、高2「火山活動と地震」と関連させて、地震災害や地球内部のしくみとプレートの動きを探究する。
1	地学	大地が火をふく	6	火山の形、活動の様子、その噴出物の特徴をマグマの性質や成因と関連づけてとらえる。	火山の噴出物(岩石等)を観察した結果を発表し、火山の形、活動の様子、噴出物とマグマの性質や成因との関連について話し合う。	①資料などを使い、火山の溶岩の流出の様子から、地下にマグマがあることを知る。また、火山の形や噴火の様子、噴出物とマグマの性質の関連を理解する。 ②火山噴出物と火山災害を関連づけて理解する。 ③火成岩の種類と組織がマグマの性質や冷え方と関わっていることを理解する。 ◎補助教材等を用いて、中3「自然と人間」、高2「火山活動と地震」と関連させて、自然がもたらす恵みと災害に触れる。
2	地学	大地は語る	11	地層の規則性を見出すとともに、地層と化石を手掛かりに過去の出来事と年代を考察する。	地層を観察し、地層の規則性を発見して発表し、過去の出来事を考察した結果を発表する。	①地層を観察し、地層の様子、堆積物の種類や特徴をとらえる。化石標本を観察し、その特徴を知る。 ②地層の重なり方などの規則性をから地層のつき方考察する。 ③地層を対比し、地層の広がり方を知る。また褶曲や断層を知る。 ④堆積岩の特徴、示相化石から堆積環境を推定し、示準化石から地層の堆積年代がわかることを知る。

3	学習の振り返り	1年間の学習を振り返る	1	1年間で身についた力を確かめ、次の学年につなげる。	1年間の学びと次の学年への課題を報告する。	1年間の学びの内容と達成度を、自分自身で客観的に評価し、次の学年への課題を発見し報告書にまとめる。
---	---------	-------------	---	---------------------------	-----------------------	---

1年英語		
使用教科書		COLUMBUS 21English Course BOOK1(光村図書) COLUMBUS 21English Course BOOK2(光村図書)
補助教材		E-NAVI～耳からはいるペンマンシップ(秀学社) 80 Conversations (ET Productions) ★Talk & Talk Light Book1 (正進社) ⇒主に2年生で使用

年間総時数	175
目 標	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。
評 価	関心・意欲・態度…自己表現ノートや授業中のスピーキング活動の記録をもとに評価します。 外国語表現の能力…定期テスト内の書く力を測る問題や、スピーキングテストなどで評価します。 外国語理解の能力…定期テスト内のリスニングテストや読解の問題などで評価します。 言語・文化…授業内での単語テスト、文法テスト、定期テスト内の言語・文化の問題で評価します。

月	指導事項/指導領域	単元/教材	時数	学習目標	学習活動例
4	学習のガイダンス	中学校英語の学習の仕方について学び、授業での約束事を確認する。	1		小学校で触れてきた英語の確認 学習のしかた 重点をおく学習内容の確認 授業内でのルール(会話をするとき、発表をするとき他)
	聞く話す	ピクチャーカード 音声CD	10	身近なものを英語で言うことができる。 ・月日、曜日、天気 ・身の回りのもの	月・曜日・天気チャッツ 身の回りのものを表す語の練習 自分の部屋の紹介
4 5	聞く読む(文字の導入)	E-NAVI ピクチャーカード フラッシュカード 音声CD	10	アルファベットを見て、正しく発音できる。 アルファベットの太文字・小文字を正しく書くことができる。(5月まで継続的に) ローマ字のルールを知る。	アルファベットカードづくり アルファベットを使ったアクティビティ アルファベットのリスニング
5	聞く話す	教科書BOOK 1 教科書のリスニングによる内容理解 (Unit1～6) 基本表現	7	教科書のストーリーの概要を聞いて理解できる。 いろいろな会話表現を知り、試してみる。(I am/You are, This/That is, What time) 英語のリズムに慣れ、楽しんで発音することができる。	教科書の音声CDやピクチャーカードを使ったリスニング Tougue Twister などのリズムトレーニング 簡単な自己紹介活動 簡単な家族紹介活動 This / Thatを使ったアクティビティ
6		教科書BOOK 1 教科書のリスニングによる内容理解 (Unit7～11) 基本表現	10	フォニックスの基本的なルールを知る。 いろいろな動詞や形容詞に触れ、使うことができる。	What time＋一般動詞アクティビティ 形容詞アクティビティ
	聞く話す読む	教科書BOOK 1 教科書の本文を使った音文字一致 (Unit1～6) 基本表現 いろいろな文型の確認	10	教科書の本文の音情報と文字情報を一致させる。 A～Zの音、形に慣れる。	ワークシートを使った音文字一致のための活動 be動詞、一般動詞のフォームの確認(ワードサーチ、単語の種類分けなど) アルファベットの「音」に慣れる活動
7		教科書BOOK 1 教科書の本文を使った音文字一致 (Unit7～11) 基本表現 いろいろな文型の確認	15	Be動詞を使った文の形式の確認をする。 一般動詞を使ったやりとり慣れる。	色々なトピックでの会話活動
8 9	聞く話す読む	教科書BOOK 1 教科書の音読・新出単語の読み練習 (Unit1～11)	5 15	教科書の本文を、発音やイントネーションに気をつけながら、音読することができる。 教科書の単語を見て、正しく発音することができる。 教科書を見ながら、文章を正しく書き写すことができる。	教科書のストーリーに関するQ&A 色々な方法での音読練習 リーディングショー リーディングチェック 新出単語に慣れるための活動
10 11	聞く話す読む書く	教科書BOOK 1 文構造を意識したアウトプット (Unit1～11) グリーンブック (80Conversations)を使った定期的なリスニングトレーニング<3月まで>	15 15	教科書の本文を、文構造を意識しながら再生することができる。 いろいろな文型 (can, 疑問詞、S＋Vの形など)に気づき、使い方を整理する。 まとまった分量の英語を聞いて、内容を理解することができる。	新出単語の読み練習 穴あきリーディング 本文をもとにした自己表現活動 グラマーハント 疑問文作り What am Iアクティビティ 動詞表を活用した練習 日記を書く
	聞く話す読む書く	教科書BOOK 1 教科書の内容を使った retelling (Unit1～Unit6)	5	自分の言葉で、話の内容を伝えることができる。 既習事項を活用して、会話したり、英文を書いたりすることができる。	教科書のretelling活動(ペア、グループ、全体) 文法事項の確認(人称代名詞など)を含んだ言語活動 ※必要に応じて、副教材を使ったパターンプラクティス
12		教科書BOOK 1 教科書の内容を使った retelling (Unit7～Unit11)	15	触れてきた英文をもとに、文法事項を整理し、ルールを理解することができる。	
1 2 3	聞く話す読む書く	教科書BOOK 2 教科書のリスニングによる内容理解 (Unit1～3) 基本表現	15 12 15	教科書のストーリーの聞いて概要を理解できる。 既習事項を活用して、会話したり、英文を書いたりすることができる。	教科書CDやピクチャーカードを用いたリスニング なりきりリスニング 既習事項を使った本文に関するQ&A 既習事項を活用したwriting活動 BOOK1の復習retelling活動 マイクロンプスづくり

1年音楽		年間総時数		45	
使用教科書		中学生の音楽①(教育芸術社) 中学の器楽 (教育芸術社)		目 標	
補助教材		コーラスフェスティバル(正進社)		評 価	
月	指導事項/ 領域	単元/教材	時 数	学習目標	学習活動例
4	オリエンテーション 歌唱、器楽	校歌、エーデルワイス、 アルト笛、音楽の学習について	4	旋律のまとまりを生かして歌唱する。良い発声を学ぶ。アルト笛の運指	歌唱、アルトリコーダーの練習。
5	鑑賞、歌唱 器楽	エーデルワイス、「春」、 学年の合唱曲、リコー ダーテスト(エーデルワ イス)	6	合奏の形、楽器の種類。曲の全体をとらえる。発声の方法。	パートを決め、練習。鑑賞しレポートをまとめる。
6	歌唱	合唱コンクールのための 学年の合唱曲、歌唱 テスト。	7	自分のパートの楽譜を読み取り、表現出来るようにする。ハーモニーを感じて歌唱する。楽譜の基礎学習	全体で合わせ、良く聞き合う。美しいハーモニーを感じて合唱する。
7	歌唱、器楽	浜辺の歌、音程、ドレミ の歌 花祭り	3	日本語の抑揚に適した表現。リコーダーの運指	フレーズを生かした歌唱をする。アルトリコーダーの運指を覚える。
8	歌唱	主は冷たい土の中に	1	詩の意味、曲の背景を理解した表現。美しい音色。	良い発声で歌唱を楽しむ
9	鑑賞	魔王、楽譜の基礎	6	詩と旋律との関わりと表現の効果。日本語の特徴を生かした表現。音符の長さ、記譜の仕方、大譜表など	鑑賞してレポートをまとめる。音楽の基礎知識を理解する。
10	器楽 歌唱 鑑賞	花祭り 赤トンボ 箏曲 「六段の調べ」	6	曲の背景、内容を知り表現する。リコーダーの運指をさらに学ぶ 箏の仕組みについて学び古典の名曲を鑑賞する	詩の内容をイメージして表現する。リコーダーの練習 箏の歴史、仕組みなどを理解する
12	器楽	さくらさくら	3	「箏」の仕組みについての理解と演奏の練習。	「さくらさくら」の練習をする
1	器楽、歌唱	リコーダー「花祭り」、各 クラスの合唱曲 ソーラ ン節	6	日本民謡「ソーラン節」の成り立ちを知り歌う。少しレベルの高い合唱曲を学習。リコーダーの練習とテスト	ソーラン節を練習する。合唱曲の各パートを決めて練習する。
3	歌唱	歌唱テスト	3	合唱を楽しむ	3重唱をする

1年美術	
使用教科書	「美術1」（日本文教出版株式会社）
補助教材	美術資料「神奈川の美術」（秀学社）

年間総時数	45
目 標	(1)美術への関心・意欲・態度について ・表現や鑑賞の活動を通してすすんで創作活動に取り組み、美術を愛好する心と豊かな情操を育てる。 (2)発想・構想の能力について ・対象を深く見つめて感じとり、想像力を高め、豊かな発想や構想する力を育てる。 (3)創造的な技能について ・美術の基礎的な能力を伸ばし、意図に応じて創意工夫する力を育てる。 (4)鑑賞の能力について ・美術作品や文化財に親しみ、造形的な美しさや作者の心情、意図、表現の工夫を感じ味わう態度を育てる。
評 価	(1)学習活動への参加の仕方や態度、提出作品やレポート等で評価します。 (2)授業への取り組みや提出作品で評価します。 (3)授業への取り組みや提出作品で評価します。 (4)鑑賞の態度、鑑賞レポート等で評価します。

月	指導事項/ 領域	単元/教材	時数	学習目標
4	オリエンテーション A表現	美術の授業について 名前のデザイン	2	様々な書体について学ぶ 分かりやすく伝える
5	鑑賞 A表現	美しい構成 季節感のあるデザイン	18	形や色彩の工夫を学ぶ
6				
7				
8	A表現	静物画	5	描き方の方法を知る
9				
10	A表現	風景画	6	描き方の方法を知る 自然の表情を感じる
11	A表現	絵文字	4	文字や形の工夫で楽しく伝える
12				
1	B表現	木工芸(手で作る心)	10	使いやすさの工夫 木のぬくもり、やさしさを知る
2				
3				

1年保健体育	
使用教科書	中学保健体育(学研)
補助教材	中学体育実技(学研) 新体力テスト(第一学習社)

年間総時数	105
目 標	(1)「自ら学び」、「課題を解決する」ための基礎的・基本的な知識・技能を身につけさせる。 (2)計画的に運動に親しむことができる資質や能力を育てる。 (3)健康を保持増進できる資質と能力を育てる。
評 価	(1)運動や健康・安全への関心・意欲・態度 (2)運動や健康・安全についての思考・判断 (3)運動の技能 (4)運動や健康・安全についての知識・理解 ※(1)～(4)の項目それぞれにおいて、活動への取り組み、学習カード、自己評価の記録、授業内での質疑、提出物、定期テストなどで評価します。

月	指導事項/ 領域	単元/教材	時数	学習目標	学習活動例
4 ・ 5	オリエンテーション ・ 新体力テスト ・ 体づくり運動	・体育学習の進め方 ・各体力テスト種目 ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	1 8	・自分自身の体力の状況を分析し、課題に応じて合理的な運動の実践のしかたを理解する。	・体力テストの結果から、自分の体力を高める運動メニューを作成する。 ・リラクゼーション
5 ・ 6	陸上競技 保 健	・短距離走・リレー ・走り幅跳び ・走り高跳び ・体の発育・発達	12 6	・走運動、跳躍運動における合理的なフォームを身につけ、自己の記録を向上させる。 ・リレーチームで協力してバトンをつなぎ、競争する楽しさを味わう。 ・身体機能の発達・生殖機能の発達のしかたについて正しい知識を身につける。	・50m走 ・600mリレー ・跳躍の踏切練習 ・空中フォームの練習 ・記録会
7 ・ 8	保 健 水 泳	・心の発達 ・クロール ・平泳ぎ	5 8	・心の発達について正しい知識を身につける。 ・自己の能力に応じた泳法を身につけ、より速く泳げるようにする。	・コース別学習 ・タイムトライアル
9 ・ 10	器械運動	・マット運動	12	・回転系や巧技系の基本的な技をなめらかに行うことができる。 ・技を組み合わせて、自分の演技構成をすることができる。	・できる技のチェック ・課題別学習活動 ・4種目以上の技を組み合わせた演技構成
10 ・ 11 ・ 12	ダンス 武 道	・現代的なリズムのダンス ・創作ダンス ・フォークダンス、民謡 ・柔 道	10 10	・リズムに乗って全身で楽しく動き、まとまりのある小作品を作る。・各種のダンスの特性を理解し、仲間との交流を深めて踊る楽しさを味わう。 ・柔道の正しい礼法を理解し、実践することができる。 ・安全な受け身を取ることができる。 ・固め技の基本的な姿勢を身につけ、相手との攻防を行うことができる。	・動きの効果を取り入れた小作品作り ・曲想からイメージを描いて創作 ・作品発表会 ・礼、黙想 ・いろいろな姿勢からの受け身練習 ・背中合わせからの固め技 ・押さえ込み試合
1	体育理論	・運動やスポーツの多様性	3	・スポーツの多様性を理解し、いろいろな関わり方により生活や文化に必要なものであることを理解する。	横浜発祥スポーツの調査
1 ・ 2 ・ 3	球 技	・バスケットボール ・サッカー	12 12	・パス、ドリブル、シュートなど基本的な技能を身につけ、チームで協力して攻防する。 ・得点を競い合ってゲームに取り組む楽しさを味わう。 ・ルールや練習のしかたを理解し、お互いに教え合って学習に取り組むことができる。	・ドリブルリレー ・連続シュート ・パスリレー ・3対2の攻防 ・4対1、4対2のボール回し ・4対4のゲーム ・リーグ戦
3	保 健	・心の健康	6	・欲求やストレスについて正しい知識を身につけ、心の健康を保つ方法を理解する。	・ストレスチェック

1年技術家庭 (技術分野)	
使用教科書	技術・家庭(東京書籍)技術 分野
補助教材	技術・家庭(新学社)技術・ 家庭資料集

年間総時数	35
目 標	①学習の目標を知る。コンピュータの仕組みを知ろう ②デジタル化について考えよう ③データのやり取りと量を知ろう ④情報とネットワークのを知ろう ⑤セキュリティを学ぶ ⑥プログラムの制御を知り、制御プログラムを作ろう ⑦情報に関する技術の評価・活用を未来に生かそう ・現代社会を支える技術について関心をもち、主体的に活用しようとする態度を育 てる。
評 価	※i①～⑦の項目それぞれにおいて、活動への取り組み、提出物、定期テストなど で評価します。 ※技術分野は「技術家庭科」として家庭分野とあわせて評価します。

月	指導事項/ 領域	単元/教材	時数	学習目標
4	・ガイダンス コンピュータと情報b ネットワーク ○コンピュータと情報通信ネット ワークの活用	(コンピュータの仕組みを 知ろう) (つながるコンピュータ)	2	・生活の中の情報技術について調べる。 ・情報通信ネットワークを利用したサービスなどを調べる。
4	セキュリティ技術を知る	・情報機器の操作と方法を 知る	1	・機器操作を中心に情報機器について理解を深める ・情報を安全に利用できるスキルを学ぼう
5	○コンピュータと情報通信ネット ワークの活用	・情報のネットワークを利用 し作品づくりを行う	6	・保存と方法についてデータの保存を理解する
6	○コンピュータと情報通信ネット ワークの活用	・ネットワークを利用し作品 づくりとデジタル処理につ いて理解する	7	・情報のデジタル化の方法と情報の量について知る。 ・情報通信ネットワークの基本的な構成を調べる。 ・個人を特定する仕組みを知る。
7	○プログラミングによる計測制御	プログラムの意味を理解し 作成の方法と実践を行う	7	・計測制御の仕組みを知りその役割を考える ・制御・プログラムを作成して実行する
8,9	情報に関する技術の評価・活用	これからの生活に活用す る	2	学習のまとめとして情報機器の活用を今後どのようにするかを考えまとめる
10	家庭分野			
11				
1				
3				

1年技術家庭 (家庭分野)		年間総時数	35
使用教科書	新しい技術・家庭 家庭分野 (東京書籍)	目 標	(1)生活や技術への関心・意欲・態度について ・自分や家族の生活に関心を持ち意欲的に学び、技術を習得し、実践する態度を育てる。 (2)知識・理解について ・人の生活や環境に関する知識を身につけ、自分の生活と関連付けて考えたり説明したりする力を育てる。 (3)生活の技能について ・実習に際し、必要な用具を適切に使用し、安全に配慮しながら適切な操作ができる力を育てる。 (4)創意・工夫について ・家族の生活について見直し、課題を見つけ、その解決を目指して家庭生活をよりよくするために工夫し創造する力を育てる。
補助教材	新・技術・家庭資料集 (新学社)	評 価	(1)学習活動への参加の仕方や態度、提出物や自己評価表等で評価します。 (2)定期テストやワークシートで評価します。 (3)提出作品や実技テスト、発表活動で評価します。 (4)レポートや提出作品、発表活動などで評価します。 ※家庭分野は技術家庭科として、技術分野とあわせて評価します。

月	指導事項/ 領域	単元/教材	時数	学習目標	学習活動例
4					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
技術分野					
10	食生活と栄養	・食生活と自立 ・食事の役割 ・栄養素の種類と働きを知る。	8	・自分や家族の食生活を振り返り、よりよい食生活を送るためにできることを考える。	・食生活チェック ・食事の役割 ・5大栄養素の種類と役割
12	住生活と自立	・家族と住まいのかかわり ・安全に住むために ・健康で快適な室内空間	3	・人間らしく幸せにそして安全に住むための住まいの条件を知り、生きていくうえで必要な知識と技術を身につける。	・家の間取りと空間の考え方 ・我が家の安全点検(地震対策) ・住まいと環境
2	衣生活と自立	・着る目的 ・必要な衣服の選択	7	・衣生活に関する基本的・基礎的な知識・技術を習得し、学習したことを生かして生活を豊かにする方法を工夫する。	・自分の衣服の点検と計画 ・手入れと収納 ・着用の目的と個性の表現 ・必要な衣服の選択とリサイクル
3	衣生活と自立	・生活を豊かにする物を作る。	6	・布を用いた物の製作を行い、生活を豊かにするための工夫と安全に配慮した技術を習得する。	・ブックカバーの製作

1年特別活動	年間総時数35
特別活動の目標	集団生活を通して、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育て、人間としての生き方について自覚を深め、自己を生かす能力を育てます。
学級活動 生徒会活動 学校行事 の目標	○学級活動を通して集団の一員として、よりよい生活づくりに参画し、自主的・自発的に課題を解決しようとする態度を育てます。 ○生徒会活動を通してのぞましい人間関係を形成し、協力して諸課題を解決しようとする態度を育てます。 ○学校行事を通して集団への連帯感を深め、公共の精神、よりよい学校生活を築こうとする態度を育てます。

内容					
月	主な行事	活動・題材	ねらい	学級活動の内容(例)	他教科等との関連
4	始業式 入学式	中学生になって 1年間の目標を表そう。 学級組織、学級目標作り	中学校生活に対する抱負や目標を立て、中学生としての自覚をもつ。	・新入生ガイダンス ・自己紹介 ・学校生活のルール ・学級目標、組織作り ・生徒会の心得・生徒会委員選出	学級活動 EGG、
5	体育祭 生徒総会	生徒会総会に向けて 体育祭への取組	・生徒総会への関心をもち、生徒会の一員としての自覚をもつ。 ・体育祭の意義、目的を理解する。	・集団作り、人間関係作り ・体育祭の種目について ・学級旗作り ・生徒総会の意義、参加について	
6	合唱コンクール	合唱コンクールへの取組 体育祭への取組	・合唱コンクールの意義や目的を理解し、一人ひとりが果たせる役割を考える。 ・体育祭への意義、目的を確認し、積極的に参加する。	・体育祭の振り返り ・合唱コンクールへの取り組み 全体練習	(音楽科:合唱コンクール)
7		夏休みの計画 文化祭への取組	・定期試験に向けて、計画的な学習の必要性を理解する。 ・学習面、生活面ともに、有意義な夏休みを過ごすことができるようにする。	・合唱コンクールの振り返り ・1学期期末試験に向けて ・夏休みの過ごし方 ・文化祭展示の部の参加 ・1学期の反省	EGGゼミ、南高祭への展示
8 9	南高祭	防災安全学習 文化祭・展示の部への参加	・防災訓練の意味を理解し、日頃から安全に気をつけて生活するよう心がける。 ・南高祭の意義、目的を確認し、学年としての有意義な参加ができるよう考える。	・災害時の安全確保 ・文化祭展示の部への取組	EGGゼミ、南高祭への展示
10		後期学級組織再編	・よりよい集団作りを目指して、学級での自分の役割を考える。	・学級活動の見直し	
11	生徒会役員選挙	生徒会役員選挙	・生徒会活動についての理解と関心を高め、よりよい生徒会活動になるよう、協力する。 ・男女ともに互いの成長を認めあえるよう、協力する。	・生徒会役員選挙に向けて 応援活動、投票について	
12		冬休みの計画 将来の夢	・生活面、学習面ともに、規則正しい冬休みの生活をおくることの重要性を理解する。 ・自らの意志と責任で進路選択をすることの重要性を理解する。	・冬休みの過ごし方 ・働く目的と意義を考える ・2学期の反省 ・百人一首大会に向けて	EGG、キャリア教育
1	百人一首大会	新年を迎えて 百人一首大会への取組 いろいろな職業	・学級の仲間と協力し、互いに競い、高め合うことの大切さを理解する。 ・さまざまな職業について知り、働く目的、意義について考える。	・新年の抱負 ・百人一首大会に向けて ・働く目的と意義を考える	(国語科:百人一首大会) EGG、キャリア教育
2		友だちへの思い 自己をみつめる	・自分の良い面を積極的に伸ばし、周囲の人とより良い関係を築くように心がける。	・より良い友だちとの関係 ・学級活動の見直し、自分の長所・短所を知る	
3	修了式	1年間の反省 2年生に向けて	・1年間の活動を振り返り、集団生活の向上について考える。 ・生活面、学習面ともに2年生での生活の目標を考える。	・1年間の反省 ・お世話になった身近な人への感謝 ・1年間の振り返り ・2年生への目標	

1年道徳	年間総時数35
使用するテキスト	「私たちの道徳」「生きる」
道徳の目標	<p>A主として自分自身に関すること 自己の在り方を自分自身との関わりで捉え、望ましい自己の形成を図る。</p> <p>B主として人との関わりに関すること 自己を人との関わりにおいて捉え、望ましい人間関係の構築を図る。</p> <p>C主として集団や社会との関わりに関すること 自己を様々な社会集団や郷土、国家、国際社会との関わりにおいて捉え、国際社会と向き合いことが求められているという自覚に立ち、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な道徳性を培う。</p> <p>D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること 自己を生命や自然、美しいもの、気高いもの、崇高なものとの関わりにおいて捉え、人間としての自覚を深める。</p>

内容

月	内容項目・主題	ねらい	教材例(自分をみつめる/他)	他教科等との関連
4	A-2 節度・節制 C-15 よりよい学校生活	・自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任を持つ態度を養う。 ・教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員として自覚をもち協力し合ってよりよい校風をつくるとともに、様々な集団の充実に努める態度を養う。	「人生設計図」をつくってみよう 「私が学校に行く理由」	学級活動
5	D-19 生命の尊さ 生命の尊さ C-16 郷土の伝統と文化の尊重 C-14 家族愛 家庭生活の充実	・生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重する態度を養う。 ・郷土の伝統と文化を大切に、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努める態度を養う。	「はだしのゲンが伝えたいこと」 「家族の一員としてできること」	体育祭 合唱コンクール
6	D-21 感動 畏敬の念 A-3 個性の伸長 A-1 自主 自律 自由と責任	・美しいものや気高いものに感動する心を持ち、人間の力を越えたものに対する畏敬の念を深める。 ・自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして、充実した生き方を追求する。	「アイデンティティーの競売」 「権利の熱気球」	よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト
7	C-18 国際理解 国際貢献 C-10 遵法精神 A-2 節度・節制	・世界の中の日本人としての自覚を持ち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与する態度を養う。 ・法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切に、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努める態度を養う。	「世界がもし100人の村だったら」 「権利と責任」	人権作文コンテストに応募
9	C-13 勤労 A-1 自主 自律 自由と責任 C-11 社会正義	・勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献する態度を育てる。 ・正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努める態度を養う。	「インターネットの使い方」 「夏休みを終えて 選択EGGで学んだこと」	進路
10	D-19 生命の尊さ	・生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重する態度を養う。	「屋外生活者(ホームレス)について考える」	
11	C-12 公共の精神 B-8 友情 信頼	・社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努める態度を養う。 ・友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていく。	「くらしに欲しいもの必要なもの」	
12	A-2 節度 節制 B-6 思いやり 感謝	・自立に精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任を持つ態度を養う。 ・思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深める。	「めぐみ」北朝鮮拉致被害者 「先生ばかり住んでいるマンション」	
1	C-17 我が国の伝統と文化の尊重 A-4 希望と勇気、克己と強い意志	・優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展に努める態度を養う。 ・より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気をもち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げる態度を養う。	「百人一首大会に向けて」 「見つけよう！自己コントロール法」	百人一首大会
2	B-7 礼儀 D-20 自然愛護 D-21 感動 畏敬の念	・礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。 ・自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努める態度を養う。	「他者への配慮、思いやり」 「季節を感じよう」	
3	B-9 相互理解 A-5 真理の探究 創造 D-22 よりよく生きる喜び	・自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自ら高めしていく態度を養う。 ・真実を大切に、真理を探究して新しいものを生み出そうと努める態度を養う。	「ちがいのちがいの」	

2年国語		年間総時数	175(書写20時間含む)
使用教科書	国語2(光村図書) 中学書写(教育出版)	目 標	目的や場面に応じて構成を工夫して話したり、話し手の意図を考えて聞いたり、構成を考えて的確に書いたりする力を育てるとともに、様々な種類の文章を読むことを通して、自分のものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。
補助教材	国語便覧 (浜島書店) 問題中心の新文法ノート (浜島書店) 漢字検定対応 級別漢字クラブ 7級～2級(東京法令出版) ハイクラステスト国語長文 (受験研究社)	評 価	国語への関心・意欲・態度…授業中の言語活動の様子、振り返りの記述、家庭学習の状況、課題の提出状況などで評価します。 話す・聞く能力…スピーチや話し合い活動などにおける取り組みを中心に評価します。 書く能力…レポートや感想文・体験文・報告文・短作文など成果物を中心に評価します。 読む能力…定期テストを中心に、授業で取り組むワークシート、課題を参考に評価します。 言語についての知識・理解・技能…基礎力診断テストや定期テスト、書写作品を中心に評価します。

月	領域	単元/教材	時数	学習目標	学習活動例
4	学習のガイダンス	附属中学校での国語科学習の仕方について学び、新しい目標や課題を考える。	2	1年間の国語の学習への見通し、課題、目標を明らかにする。	①1年生の国語の学習を振り返り、自分の課題や2年生で身につけたい国語の力について考える。 ②1年間の国語科学習の仕方(授業、家庭学習)を確認する。 ・チャレンジ漢字&新聞 ・読書マラソン
4	【読む】	見えないだけ	6	言葉に込められた作者の思いを読み取り、説明する。	詩の表現の特徴や主題を考え、この詩を贈りたい相手を設定して、自分の知識や経験と関連付けて手紙を書く。
4	【読む】	アイスプラネット	6	登場人物の言動や心情を表す表現に着目し、人物の関係や心情の変化をとらえる。	①登場人物の言動に着目して、人間関係や心情の変化をとらえ、内容理解に役立てる。 ②登場人物の考え方や生き方について、自分の知識や経験などと関連付けて考えをまとめる。
5	【話す・聞く】	南高附属中ポスターに掲載する「キャッチコピー」を考える	7	立場や場面、目的に応じたキャッチコピーを考える。	学校案内ポスターに掲載することを目的に、効果的なキャッチコピーを考え、発表し、決定する。
5	【書く】	「私流 枕草子」を書く	6	作者のものの見方や感じ方に触れ、自分が感じる四季の趣を考える。	清少納言のものの見方や考え方をとらえながら、「私流」枕草子を考えて書く。
5	【言語】	熟語の構成	2	熟語の成り立ちの仕組みを理解し、漢字のもつ造語力に気づく。	①漢字の構成について理解する。 ②教科書の課題や練習問題に取り組む。
6	【読む】	生命が記録する科学ーバイオロギングの可能性	6	文章の構成や、事実と考への示し方に着目して、説明の仕方の特徴をとらえる。	文章の構成や、説明の内容を的確にとらえ、説明の仕方について考えたことを話し合う。
6	【言語】	類義語・対義語・多義語	2	言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	①類義語・対義語の関係、多義語について理解する。 ②教科書の課題や練習問題に取り組む。
6	【読む】	新しい短歌のために	3	筆者のものの見方や言葉遣い、表現の仕方を読み味わい、短歌の世界に親しむ。	筆者のものの見方や短歌の表現の仕方を理解し、短歌を首読する。
7	【読む】	短歌を味わう	4	歌われている情景や作者の思いを想像しながら読み、内容や表現の仕方について考える。	歌われている情景や作者の思いを想像しながら読み、内容や表現の仕方について話し合う。
7	【言語】	活用する自立語/用言の活用	6	言葉の特徴やきまりについての理解を深める。	①活用する自立語について復習する。 ②用言の活用について理解する。 ③教科書の課題やワークの問題に取り組む。
8	【読む】	新書本を紹介するポップを作る	6	選んだ新書本の特徴をわかりやすく伝えるために、文章の構成や表現の工夫に注意して、ポップを作る。	学校図書館の利用について振り返り、自分の読んだ新書本の中から1年生にお薦めする本を紹介するポップを作る。

9	【読む】	盆土産	6	作品の構成や登場人物の描写に注意して、人柄や心情を読み取る。	登場人物の言動や描写、心情を表す言葉をとらえながら、作品の特徴を話し合う。
9	【読む】	字のない葉書	5	作品に描かれる父親に対する筆者の思いを読み取る。	作品に描かれる父親像を理解して、筆者の立場から父に手紙を書く。
9	【読む】	モアイは語る	6	根拠となる事実を確かめながら、文章の構成や表現の仕方をとらえる。	事実と意見を整理して、それを支える根拠を確かめながら、文章の構成や表現方法について説明する。
10	【言語】	敬語	3	敬語の正しい使い方について理解を深める。	①敬語の種類、使い方について理解する。 ②教科書の課題やワークの練習問題に取り組む。
10	【言語】	同じ訓、同じ音を持つ漢字	2	言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	①同音異義語などについて理解する。 ②教科書の課題や練習問題に取り組む。
10	【書く】	説明の仕方を工夫する	7	伝える事柄の特徴や共通点、相違点などを明確にしてわかりやすい説明の仕方や効果を考える。	「イングリッシュキャンプ」を題材として、目的に合ったわかりやすい説明や表現方法について考え、さまざまな文章スタイルで書く。
11	【話す・聞く】	登場人物の視点から「扇の的」を読み、想像したことをプレゼンする	8	登場人物の心情を想像しながら作品を読み、古典の世界に描かれたものの見方や考え方を理解する。	古典のリズムや仮名遣いに注意して、「扇の的」を音読する。 主な登場人物の生き方や、心情、ものの見方などについて考え、プレゼンテーションをする。
11	【読む】	徒然草 仁和寺にある法師	8	文章を読み味わい、作者のものの見方や感じ方にふれる。	古典のリズムや仮名遣いに注意して、徒然草を音読する。 作者のものの見方や考え方を参考にして、作品244段を書く。
12	【読む】	漢詩の風景	7	漢詩を音読し、歌われている情景を想像しながら、作者の思いをとらえる。	漢詩特有の言葉遣いや調子を意識して、音読する。 漢詩の特徴や表現の仕方をとらえて、漢詩を現代詩に書き換える。
12	【読む】	君は「最後の晩餐」を知っているか	7	評論文の論理の展開のしかたや、示されている根拠に着目し、筆者のものの見方や考え方を読み取る。	評論文の論理の展開のしかたや、示されている根拠に着目し、筆者の考えを読み取る。 筆者の絵画の見方や感じ方に対して、自分の考えを根拠を明らかにして述べる。
1	【話す・聞く】	話し合って考えを広げよう /パネルディスカッション	6	相手の立場を尊重しながら話し合い、自分の考えを広げる。	テーマに対して相手の立場を尊重しながらパネルディスカッションを行う。
1	【読む】	話し合いを通して「走れメロス」を読み深める	8	作品を読み、登場人物の行動や考え方について自分の考えをもつ。	「走れメロス」に出てくる登場人物の行動や考え方について話し合い、作品を読み深める。
1	【書く】	意見文を書く	7	立場とそれを支える根拠を明らかにして、意見文を書く。	立場とそれを支える根拠を明らかにして、意見文を書く。
2	【言語】	活用のない自立語 /副詞 連体詞 接続詞 感動詞	4	言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	①活用のない自立語について復習する。 ②副詞や連体詞の使い方について理解する。 ③教科書の課題やワークの問題に取り組む。
2	【言語】	付属語の種類 /助詞・助動詞	6	言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	①付属語について復習する。 ②助詞・助動詞について理解する。 ③教科書の課題やワークの問題に取り組む。
2	【言語】	方言と共通語	2	方言と共通語、それぞれの良さについて理解する。	方言と共通語、それぞれの良さについて理解する。
3	【読む】	名作を読む	6	課題に沿って小説を読み、引用しながら作品について紹介する。	小説を読む観点や視点を定めながら、引用して紹介するためのメモを作る。 グループ内で、発表会を開く。
3	学習の振り返り	1年間の学習を振り返る	1	1年間で身についた力を確かめ、次の学年につなげる。	①1年間の学習振り返りシートに記述する。 ②来年への課題、継続したい目標などを記述する。

2年書写	20時間
教科書	教育出版「中学書写」
学習目標	身の周りの文字に関心を持ち、文字文化に親しむとともに、社会生活や学習活動に生かそうとする態度を育てる。 ・漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書く。 ・目的や必要に応じて、楷書または行書を選んで書く。
学習の進め方	・時間割の中の 国/書写_で行う。 ・教室または書道教室で行う。

	単元/領域	学習内容
一学期	4月～7月 1 昨年の書写の学習を振り返り2学年の目標を立てる。学習のガイダンス。 2 楷書で書く。	○中学2年生における書写の学習内容や目標を理解する。 ・正しい姿勢や用具の扱い方を再確認する。 ・基本的な筆使いを復習する。 ・美しいバランスがとれるように余白との関係をよく見て、字形の組み立て方や線の動きをイメージする。
二学期	8～12月 1 楷書と仮名を調和させて書く。 2 行書で書く。	○楷書の基本点画の筆使いを理解する。 ・筆の角度や筆圧の変化に注意して練習する。 ○平仮名の筆使いを理解する。 ・「いろは歌」を手本に筆脈を意識して練習する。 ○楷書と仮名の調和体を理解する。 ・字形・筆脈・全体のバランスを意識して練習する。 ○行書の点画の特徴などを正しく理解する。
三学期	1～3月 1 書き初めを書く。 2 仮名と漢字の調和を意識して行書で書く。	○連続性のある筆使いを理解する。 ・字形の変化や筆脈を意識して練習する。 ○文字の大きさや字間、行の中心などに配慮して今までの学習の成果を出せるように表現する。

2年社会	
使用教科書	中学生の地理(帝国書院) 新しい日本の歴史(育鵬社) 地図帳
補助教材	つながる歴史神奈川県版(浜島書店) アクティブ地理(浜島書店) 歴史の学習 ②・③(浜島書店) 地理の学習 ②(浜島書店) WinPass(全)(文理出版)

年間総時数	105
目標	広い視野に立って、社会に関する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。
評価	関心・意欲・態度:発表や授業中の課題など学習への取り組み、提出物、ワークシートなどをもとに評価します。 思考・判断・表現:授業中の課題や定期テストなどをもとに評価します。 資料活用:資料の活用:授業中の課題や定期テストなどをもとに評価します。 知識・理解:授業中の課題や定期テスト、基礎力診断テストなどをもとに評価します。

月	指導事項/領域	単元/教材	時数	学習目標	学習活動例
4	オリエンテーション		1	・年間学習計画等の確認を行う。	
5	【地理】 日本の様々な地域	●世界と比べた日本の地域的特色	18	・世界的視野から日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色を理解するとともに、自然災害と防災への努力を取り上げ、日本の自然環境に関する特色を大観する。 ・日本の人口と人口密度、少子高齢化の課題を理解し、国内の人口分布、過疎・過密問題を取り上げ、日本の人口に関する特色を大観する。 ・日本の資源・エネルギーの現状や、交通・通信網の発達を理解し、日本と世界の結びつきなどについて理解する。	・日本の自然環境や人口、資源・エネルギー、地域間の結びつきの特色を世界との比較の中から考察する。
6	【歴史】 近世の日本	●ヨーロッパとの出会い ●信長・秀吉の全国統一 ●江戸幕府の成立と幕藩体制 ●産業や文化の発達 ●社会の変動、新しい学問・思想の動き	18	・ヨーロッパ人來航の背景とその影響、織田・豊田による統一事業とその当時の対外関係などを基に、近世社会の基礎がつけられたことを理解する。 ・江戸幕府の成立と大名統制、鎖国政策、身分制度の確立及び農村の様子、鎖国下の対外関係などを通して、江戸幕府の政治の特色を考えさせ、幕府と藩による支配が確立したことを理解する。 ・産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを通して、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解する。 ・社会の変動や新しい学問・思想の動きなどを通して、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解する。	・江戸幕府の政策のランキング付けなどを行い、江戸幕府の政治の特色を考察する。 ・江戸時代の文化相関図・見出し語作りなどを行い、江戸時代の文化的特色を当時の社会的背景を踏まえて考察する。
8	夏休みの課題				
9	【地理】 日本の様々な地域	●日本の諸地域 ・九州地方 ・中国・四国地方 ・近畿地方 ・中部地方 ・関東地方 ・東北地方 ・北海道地方	35	・日本を7つに区分し、それぞれの地域ごとに以下に示した項目より学習テーマを設定し、考察を深めることで地域的特色を捉える。 ・他地域との結びつきを中核とした考察 →地域の交通・通信網に関する事象を取り上げる。 ・生活・文化を中核とした考察 →地域の伝統的な生活・文化に関する事象を取り上げる。 ・環境問題や環境保全を中核とした考察 →地域の環境問題や環境保全の取り組みを取り上げる。 ・産業を中核とした考察 →地域の農業や工業などの産業に関する事象を取り上げる。 ・人口や都市・村落を中核とした考察 →地域の人口分布や都市・村落の機能などについて取り上げる。 ・自然環境を中核とした考察 →地域の地形や気候などの自然環境に関する事象を取り上げる。 ・歴史的背景を中核とした考察 →地域の産業、文化の歴史的背景などについて取り上げる。	・各地域をそれぞれに設定したテーマのもと、調べ学習や課題解決学習を行い、各地方の地域的特色を考察する。
12	【歴史】 近代の日本と世界	●欧米諸国の進出と幕末 ●開国と明治維新 ●立憲制国家の成立 ●近代産業の発展と近代文化	29	・欧米諸国における市民革命や産業革命、アジア諸国の動きなどを通して、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解する。 ・開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化など新政府による改革の特色を考え、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて人々の生活が大きく変化したことを理解する。 ・自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正などを通して、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的地位が向上したことを理解する。 ・我が国の近代産業が発展し、国民生活の変化や、学問、教育、科学、芸術が発展するなどを通して、近代文化が形成されたことを理解する。	・江戸時代末から明治初期にかけての構造図を作りを行い、日本の近代化政策の特色を考察する。 ・明治期における日本の諸政策の構造図作りを行い、近代日本の外交政策の特色を考察する。
3	【地理】 日本の様々な地域	●身近な地域の調査	4	・自らが生活している土地に対する理解と関心を深め、地域の課題を見出し、地域社会の形成に参画しその発展に努力しようとする態度を養う。	・地形図を読みとる ・身近な地域を調査し、課題を発見し、その解決を考える。

2年数学	
使用教科書	新しい数学2(東京書籍)
補助教材	体系数学1代数編(数研出版) 体系数学1幾何編(数研出版) 体系数学2代数編(数研出版) 体系数学2幾何編(数研出版) 体系数学ノート発展編(数研出版) 基礎の計算練習(新学社) 新Aクラス中学数学問題集(昇龍堂出版)

年間総時数	175
目 標	数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を知り、事象を数学的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。
評 価	数学への関心・意欲・態度・・・学習の取り組み、発表、提出物、テスト、ノートをもとに評価します。 数学的な見方や考え方・・・定期テストや小テストをもとに評価します。 数学的な技能・・・定期テストや小テストをもとに評価します。 数量や図形などについての知識・理解・・・定期テストや小テストをもとに評価します。

月	指導事項/ 領域	単元/教材	時数	学習目標	学習活動例
	学習のガイダンス	中学校2年生数学の学習の仕方について学び、授業での約束事を確認する。	1		・教材ごとの学習のしかた ・授業内でのルール(発表をするとき)
4 5	C 関数	第5章 1次関数 5 1次関数とそのグラフ 6 1次関数と方程式 7 1次関数の利用 ■ 問題 ■ 代数1の総復習	10	具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、比例、反比例、一次関数の関係についての理解を深めるとともに、関数関係を見いだし表現し考察する能力を養う。	・一次関数を表、式、グラフなどで表し、それらの特徴を理解する。 ・一次関数を用いて具体的な事象をとらえ説明する。 ・二元一次方程式を関数を表す式とみる。
	B 図形	体系数学1 幾何編 第3章 図形と合同 1 平行線と角 2 多角形の内角と外角 3 三角形の合同条件 4 証明のすすめ方 ■ 問題	20	観察、操作や実験などの活動を通して、基本的な平面図形の性質を見だし、平行線の性質を基にしてそれらを確認することができるようにする。図形の合同について理解し図形についての見方を深める。	・平行線や角の性質を理解し、それに基づいて図形の性質を確認し説明すること。 ・平行線の性質や三角形の角についての性質を基にして、多角形の角についての性質を見いだせることを知ること。 ・平面図形の合同の意味および三角形の合同条件について理解すること。 ・証明の必要性和意味およびその方法について理解すること。
5 6	B 図形	第4章 三角形と四角形 1 二等辺三角形 2 直角三角形の合同 3 三角形の辺と角の大小 4 平行四辺形 5 平行線と面積 ■ 問題	25	図形の合同について理解し、図形の性質を三角形の合同条件などを基にして確かめ、論理的に考察し表現する能力を養う。	・三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり、図形の性質の証明を読んで新たな性質を見いだしたりすること。
6 7	A 数と式	体系数学2 代数編 第1章 式の計算 1 多項式の計算 2 因数分解 3 式の計算の利用 ■ 問題	22	文字を用いた簡単な多項式について、式の展開や因数分解ができるようにするとともに、目的に応じて式を変形したりその意味を読み取ったりする能力を伸ばす。	・単項式と多項式の乗法及び多項式を単項式で割る除法の計算をすること。 ・簡単な一次式の乗法の計算及び次の公式を用いる簡単な式の展開や因数分解をすること。 ・文字を用いた式で数量及び数量の関係をとらえ説明すること。
7 8 9	A 数と式	第2章 平方根 1 平方根 2 根号を含む式の計算 3 有理数と無理数 ■ 問題	18	正の数の平方根について理解し、それを用いて表現し考察することができるようにする。	・数の平方根の必要性和意味を理解すること。 ・数の平方根を含む簡単な式の計算をすること。 ・具体的な場面で数の平方根を用いて表したり処理したりすること。
9 10	A 数と式	第3章 2次方程式 1 2次方程式の解き方 2 2次方程式の応用 ■ 問題	18	2次方程式について理解し、それを用いて考察することができるようにする。	・2次方程式の必要性和意味及びその解の意味を理解すること。 ・因数分解したり平方の形に変形したりして2次方程式を解くこと。 ・解の公式を知り、それを用いて2次方程式を解くこと。 ・2次方程式を具体的な場面で活用すること。
10 11	D 資料の活用	第5章 確率と標本調査 1 場合の数 2 確率の計算 3 標本調査 ■ 問題	22	不確かな事象についての確率を理解し、それを用いて考察し表現することができるようにする。母集団から標本を取り出し、標本の傾向を調べることで、母集団の傾向が読み取れることを理解できるようにする。	・確率の必要性和意味を理解し、簡単な場合について確率を求めること。 ・確率を用いて不確かな事象をとらえ説明すること。 ・標本調査の必要性和意味を理解すること。 ・簡単な場合について標本調査を行い、母集団の傾向をとらえ説明すること。
12 1	C 関数	第4章 関数 $y=ax^2$ 1 関数 $y=ax^2$ 2 関数 $y=ax^2$ のグラフ 3 関数 $y=ax^2$ の値の変化 4 関数 $y=ax^2$ の応用 5 いろいろな関数 ■ 問題	25	具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらのそれらの変化や対応を調べることを通して、関数 $y=ax^2$ について理解するとともに、関数関係を見いだし表現し考察する能力を伸ばす。	・事象の中には関数 $y=ax^2$ としてとらえられるものがあることを知ること。 ・関数 $y=ax^2$ について、表、式、グラフを相互に関連づけて理解すること。 ・関数 $y=ax^2$ を用いて具体的な事象を捉え説明すること。 ・いろいろな事象の中に、関数関係があることを理解する。
2 3	B 図形	体系数学2 幾何編 第1章 図形と相似 1 相似な図形 2 三角形の相似条件 3 平行線と線分の比 4 中点連結定理 5 相似な図形と面積比、体積比 ■ 問題	14	図形の性質を三角形の相似条件などを基にして確かめ、論理的に考察し表現する能力を伸ばし、相似な図形の性質を用いて考察することができるようにする。	・平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解すること。 ・三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめること。 ・平行線と線分の比についての性質を見だし、それらを確認すること。 ・基本的な立体の相似の意味と、相似な図形の相似比と面積比および体積比の関係について理解すること。 ・相似な図形の性質を具体的な場面で活用すること。

2年理科		年間総時数	140
使用教科書	未来へひろがるサイエンス2 (新興出版社啓林館)	目 標	自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。
補助教材	最新理科便覧(浜島書店) WinPass2年(文理出版)	評 価	科学への関心・意欲・態度・・・ノート、提出物、自由研究等をもとに評価します。 科学的な見方や考え方・・・おもに定期テストをもとに評価します。 科学的な技能・・・定期テスト、技能テスト、提出物等をもとに評価します。 科学的な事象についての知識・理解・・・定期テスト、基礎力診断テスト等をもとに評価します。

月	指導事項/ 領域	単元/教材	時数	学習目標	学習活動例
4	学習のガイダンス	中学校2年生の理科の学習の仕方について学び、新しい目標や課題を考える。	1	1年間の理科の学習への見直し、課題、目標を明らかにする。	<ul style="list-style-type: none"> 1年生の時の理科の学習を振り返り、自分の課題や今後身につけたい力を考える。 1年間の理科学習の仕方を知る。
4,5	物理	1章 電流の性質	18	回路の基本的な性質や、電圧と電流との関係について規則性を見いだせるとともに、実験機器の操作や実験結果の処理についての技能を習得させる。	<ul style="list-style-type: none"> 電流回路の基本的な性質を理解する。 回路の様子を回路図を使って表したり、回路図を見て回路を組み立てることができるようにする。 日常生活と関連づけて、電流についての理解を深める。 直列回路や並列回路について、実験を通して回路の各部分を通る電流の関係を見いだす。 直列回路や並列回路について、実験を通して回路の各部分に加わる電圧の関係を見いだす。 実験を通して、電圧と電流との間の規則性を見いださせ、オームの法則について理解する。 電気抵抗の概念や、物質による電気抵抗の違いを理解する。 2個の抵抗を使った回路について、それぞれの抵抗と回路全体の抵抗との関係を見いだす。 電流には熱や光、音などを発生させたり物体を動かしたりする能力があり、これを電気エネルギーということを理解させる。 電気器具のW(ワット)数によって、発生する熱や光などの量に違いがあることを実験を通して見いださせる。 電力は電流のはたらきの大きさを表す量で、電圧と電流との積であることを理解させる。 電力量は電流が消費したエネルギー量であり、電力と時間との積であることを理解させる。 電流による発熱に基づいて熱の量が定義できることを指摘し、熱量は電力量と同じ単位(Jジュール)で表されることを理解させる。
5	物理	2章 電流の正体	6	日常生活と関連づけながら静電気の性質について調べさせ、静電気と電流には関係があることを見いださせ、真空放電の実験から、電流の正体について理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> 物質どうしのまさつで静電気が起こることを理解する。 帯電した物体間で、互いに力がはたらくことを理解する。 電気の間にはたらく力は2種類あることを見いだす。 静電気は電流と関係があることを見いだす。 放電は、電気が空間を移動したり、たまっていた電気が流れ出す現象であることを理解する。 真空放電の実験から、電流の正体は電子の流れであることを理解する。
6	物理	3章 電流と磁界	8	日常生活と関連づけながら、電流の磁気作用や電流と磁界との相互作用を理解させ、直流と交流の違いをとらえさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 磁石のまわりの磁界の様子について理解する。 電流がつくる磁界の規則性を見いだす。 電流が磁界から受ける力を調べることにより、電流と力との間の規則性を見いだす。 電磁誘導の実験を通して、誘導電流の向きや強さの規則性について理解する。 日常生活と関連づけながら、電流と磁界の相互作用について理解を深める。 直流と交流について理解する。
6	実験・観察のガイダンス1	1章 生物の体をつくる細胞	4	生物の組織などの観察を行い、生物の体が細胞からできていること、および植物と動物の細胞のつくりの特徴を見いださせる。	<ul style="list-style-type: none"> 観察を通して、生物の体が細胞からできていること、動物と植物の細胞の共通点と相違点を見いださせる。また、生物には、体が1つの細胞からなる単細胞生物と、多数の細胞からなる多細胞生物があることを理解させる。また、多細胞生物は、細胞が集まって組織をつくり、組織が集まって器官を、器官が集まって個体ができていることを理解する。
7	生物	2章 生命を維持するはたらき	10	消化や呼吸、血液の循環についての観察、実験を行い、動物の体が必要な物質を取り入れ運搬しているしくみを観察・実験の結果と関連づけて捉えさせる。また、不要となった物質を排出するしくみがあることを理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> 動物には肉食動物と草食動物とがあり、食物に適した特徴があることを理解する。 唾液による消化の実験などを通して、動物の体には消化液のはたらきで栄養分を分解するはたらきがあることを見いだす。 消化器官のはたらきや消化された栄養分が小腸で吸収されるしくみ、栄養分から細胞呼吸によってエネルギーが取り出されるしくみ、肺のつくりとはたらきについて理解する。 血液循環の原動力である心臓と、血液循環の経路、不要な物質を排出する腎臓などのしくみについて理解させ、動物の体には物質を運搬するしくみがあることを理解する。
9	生物	3章 感覚と運動のしくみ	6	動物が外界の刺激に適切に反応している様子の観察を行い、そのしくみを感覚器官、神経および運動器官のつくりと関連づけて捉えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 動物には外界の刺激を受け入れる感覚器官が発達していること、脳を中心とする発達した神経があり、外界からの刺激に対して適切に反応できること、発達した筋肉や骨格があり活発な運動ができることを、実験などを通してヒトの感覚器官を中心に理解する。

9.10	生物	4章 動物のなかまと生物の進化	16	<p>脊椎動物の観察記録に基づいて、体のつくりや子の生まれ方などの特徴を比較、整理し、脊椎動物がいくつかのなかまに分類できることを見いださせる。また、無脊椎動物などの観察を行い、その観察記録に基づいて、それらの動物の特徴を見いださせる。</p> <p>さらに、現存の生物および化石の比較などをもとに、現存の生物は過去の生物が変化して生きてきたものであることを体のつくりと関連づけて捉えさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 脊椎動物には背骨をもつという共通の特徴があることを理解させる。また、脊椎動物はそれぞれの特徴から5つのなかまに分けられることを見いだす。 動物には背骨をもたない無脊椎動物がいることを理解させるとともに、観察を通して、無脊椎動物のおもななかまの特徴を見いだす。 脊椎動物の5つのなかまを中心に、それぞれの特徴の比較や化石の観察などを通して、動物が長い地球の歴史の中で少しずつ進化してきたことを見いだす。
10.11	地学	1章 空気中の水の変化	8	<p>地球上の水はさまざまな状態で存在し、霧、雲、雨や雪はその循環の一部であることを認識させるとともに、空気中の水の変化について理解させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 霧のでき方を調べ、温度によって空気中の水の状態が変化することを理解する。 空気中の水蒸気の量を考えさせ、露点を調べる実験を通して理解する。 空気中の湿り気の度合いを湿度で表し、温度と水蒸気量によって変化することを理解する。 雲のでき方を、空気の垂直方向の動きや体積の変化に伴う温度変化と関連づけて理解する。 雲の発達が降水の原因になることを理解する。 太陽光のエネルギーによって地表付近の水が状態を変えながら循環していることを認識する。
11	地学	2章 大気の動きと天気の変化	8	<p>大気の動きを立体的に捉えさせたり、大気の状態を観測させたりして、天気との関係を見いださせる。また、日本周辺にできる気団や日本付近の大気の動き方の規則性と関連づけながら天気の変化を捉えさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 気圧の分布の様子は等圧線で表されること、天気や風の様子は記号を用いて表されることを理解する。 高気圧や低気圧付近の風を大気の動きとして捉え、それらと天気の関係を見いだす。 さまざまな気象要素の観測方法を知らせて気象観測を行わせ、観測データを適切な方法で整理して天気との関係を見いだす。 気象観測を行って集めたデータは、天気を予測する上で役立てられていることを理解する。 気団のでき方と性質、前線の種類と発達について理解する。 寒冷前線や温暖前線の通過に伴う天気の変化を捉える。 日本付近の低気圧や高気圧の移動や高層の大気の動きから、天気の変化の規則性を偏西風と関連づけて捉える。
12	地学	3章 大気の動きと日本の四季	6	<p>地球の表層で生じる地球規模の大気の動きが緯度による温度差と関係して起こる自然現象であることを理解させ、その一部としての偏西風を認識させる。また、大陸と海洋の温度差によって生じる大気の動きが、日本の気象に影響を与えることを理解させる。さらに、日本付近で盛衰する3つの気団と関連づけながら、日本の四季の天気の特徴とそれが生じるしくみを理解させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 偏西風は地球規模の大気の動きの一部であることを認識する。 地球規模の大気の動きは緯度による温度差と関係して起こることを理解する。 日本が大きな大陸と大きな海洋の境界に位置していることに気づかせるとともに、陸と海の境界では、地面と海面の温度差によって生じる風がふくことを理解する。 日本付近では、シベリア気団、オホーツク海気団、小笠原気団が1年周期で盛衰を繰り返し、日本の四季の気象に影響を与えていることを理解する。 日本の冬、春、梅雨、夏、秋の天気の特徴とそれが生じるしくみや、台風について理解する。 日本の天気の変化と生活のかかわりを認識させ、自然とうまくつき合って生活するために大切なことについて考える。
1	化学	1章 物質の成り立ち	12	<p>物質を分解する実験を行い、分解して生成した物質から元の物質の成分が推定できることを見いださせる。また、物質は原子や分子からできていることを理解させ、原子は記号で表されることを知らせる。さらに、化学変化は原子や分子のモデルで説明できること、化合物の組成は化学式で表されることを理解させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 身のまわりの物質の分解実験を行い、物質の分解から物質をつくっているものは何かという興味・関心を喚起する。 原子や分子のモデルによって化学変化を説明できること、化学式・化学反応式によって、物質の組成や化学変化が簡潔に記述できることを理解する。
2	化学	2章 さまざまな化学変化	10	<p>2種類の物質を化合させる実験を行い、反応前とは異なる物質が生成することを見いださせる。さまざまな化学変化を原子や分子のモデルを用いて説明できること、化学反応式で表すことができることを理解させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 酸素との化合について取り上げ、酸化と酸化物という用語を定義し、酸素と化合する化学変化についての理解を深める。 還元の実験を通して、還元が酸化と逆の反応であることを理解させ、酸化と還元が同時に起きていることに気づく。 鉄などの金属のさびや、有機物の燃焼、また鉄の製錬など、身近な酸化還元反応を紹介し、日常生活の中で多くの酸化還元反応が起こり、利用されていることに気づく。 熱の入出力を伴う実験を行い、化学変化には熱の入出力が伴うことを理解する。
3	化学	3章 化学変化と物質の質量の規則性	6	<p>化学変化に関する物質の質量を測定する実験を行い、化学変化の前後では物質の質量の総和が等しいこと、および反応する物質の質量の間には一定の関係があることを見いださせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 原子のモデルを使って、化学変化の前後で全体の質量が変化しないことを理解する。 金属と酸素が化合するときの金属と酸素の質量の関係を測定する実験で得られたデータを、必要な情報をグラフに変換することができるように練習させ、量的関係の規則性に気づく。
3	学習の振り返り		1	<p>1年間で身につけた力を確かめ、次の学年につなげる。</p>	<p>1年間の学びの内容と達成度を、自分自身で客観的に評価し、次の学年への課題を発見し報告書にまとめる。</p>

2年英語		
使用教科書		COLUMBUS 21English Course BOOK2(光村図書) COLUMBUS 21English Course BOOK3(光村図書)
補助教材		Talk & Talk Light Book1、2 (正進社) Grammar Book(アルク) 80 More Conversations (ET Productions)

年間総時数	175
目 標	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。
評 価	関心・意欲・態度…自己表現ノートや授業中のスピーキング活動の記録をもとに評価します。 外国語表現の能力…定期テスト内の書く力を測る問題や、スピーキングテストなどで評価します。 外国語理解の能力…定期テスト内のリスニングテストや読解の問題などで評価します。 言語・文化…授業内での単語テスト、文法テスト、定期テスト内の言語・文化の問題で評価します。

月	指導事項/指導領域	単元/教材	時数	学習目標	学習活動例
4	聞く 話す 読む 書く	教科書 BOOK 2	40	教科書本文の内容理解をすることができる。 教科書のストーリーの聞いて概要を理解できる。 既習事項を活用して、会話したり、英文を書いたりすることができる。	教科書扉のQA。 ピクチャーカード並び替え。 教科書ストーリーをパートナーに伝える。 自分の言葉で教科書ストーリーを書く。 過去の出来事などをトピックに、ペアで会話する。 話した内容を、ライティングする。
5					
6	読む書く	教科書 BOOK 2	18	理解した教科書本文を音読することができる。 音読できた本文を書き写すことができる。 既習事項を活用して、会話したり、英文を書いたりすることができる。	音読 教科書本文書き写し トピックについて、グループで会話する。他の人が話したことについて、まとめてレポートする。
7					
8	聞く 話す 読む 書く	教科書 BOOK 2	29	教科書の本文を、文構造を意識しながら再生することができる。 いろいろな文型に気づき、使い方を整理する。 初見の英文(100語程度)を読んで、大まかに状況やトピックをつかむことができる。	穴あきリーディング 本文をもとにした自己表現活動 初見の英文の読み取りや音読、その内容にちなんだ会話活動
9					
10					
11	聞く 話す 読む 書く	教科書 BOOK 2	30	自分の言葉で、話の内容を伝えることができる。 既習事項を活用して、会話したり、英文を書いたりすることができる。 触れてきた英文をもとに、文法事項を整理し、ルールを理解することができる。	教科書のretelling活動(ペア、グループ、全体) 文法事項の確認(人称代名詞など)を含んだ言語活動
12					
1	聞く 話す 読む 書く	教科書 BOOK 3	23	教科書のストーリーの聞いて概要を理解できる。 既習事項を活用して、会話したり、英文を書いたりすることができる。	教科書扉のQA。 ピクチャーカード並び替え。 教科書ストーリーをパートナーに伝える。 自分の言葉で教科書ストーリーを書く。
2					
3					

※年間を通じ週1時間、リスニング教材(80 More Conversations)を使用した多聴、また、Graded Readersを使用した多読を展開。(35時間)

2年音楽	
使用教科書	中学生の音楽2、3上(教育芸術社) 中学生の器楽(教育芸術社)
補助教材	新版「コーラスフェスティバル」

年間総時数	35
目 標	(1)音楽への関心・意欲・態度について ・音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。 (2)表現の能力について ・基礎的な表現の技能を身に付け、多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、創意工夫して表現する能力を育てる。 (3)鑑賞の能力について ・多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。
評 価	(1)学習活動への参加の仕方や態度、レポート等で評価します。 (2)授業への取り組みや実技テストで評価します。 (3)鑑賞の態度、鑑賞レポート等で評価します。 (4)小テストなどを実施し、評価の対象とします。

月	指導事項/ 領域	単元/教材	時数	学習目標	学習活動例
4	オリエンテーション 歌唱、器楽	校歌、夢の世界を、アルト笛、「コンドルは飛んで行くⅠ」音楽の学習について	3	旋律の流れを生かして歌唱する。良い発声を学ぶ。アルト笛の運指	歌唱、リコーダーの練習。
5	鑑賞、歌唱	「小フーガ短調」、各クラスの合唱曲 リコーダーテスト	4	フーガの構成、パイプオルガンの仕組みと特徴。曲の内容を理解して表現方法の工夫。発声の方法。アルト笛の運指の復習	パートを決め、練習。鑑賞しレポートをまとめる。
6	歌唱	各クラスの合唱曲、歌唱テスト。	4	曲の山、曲全体の構成をとらえて表現出来るようにする。ハーモニーを感じて歌唱する。	全体で合わせ、良く聞き合う。美しいハーモニーを感じて合唱表現を工夫して合唱する。歌唱テスト
7	歌唱、器楽	夏の思い出、、「コンドルは飛んで行くⅠ」	2	日本語の抑揚に適した表現。リコーダーの運指	フレーズを生かした歌唱をする。アルトリコーダーの運指を覚える。
8	歌唱 器楽	校歌の低音	1	音程をしっかりと取り、ハーモニーを感じて歌う	アンサンブルを楽しむ 良い発声で歌う
9	鑑賞 器楽	交響曲第5番ハ短調から「第1楽章」「コンドルは飛んで行くⅡ」	3	ソナタ形式の理解。オーケストラの楽器を理解する交響曲の構成を理解する	4つの楽章の違い特徴を感得する。いろいろな楽器について理解する。鑑賞してレポートをまとめる。リコーダー練習
10	歌唱、器楽	「サンタ・ルチア」「荒城の月」「コンドルは飛んでいくⅠ」	3	曲の背景を理解して、美しい音色と旋律を生かす表現。リコーダーのアンサンブル力をつける	リコーダーアンサンブルの練習とテスト。深い表現と良い発声で歌う
11	歌唱	歌唱テスト「予感」	4	曲の内容、背景を理解する。交響曲との比較。	鑑賞をしてレポートをまとめる。歌唱テスト。
12	歌唱	「花の季節」	3	テンポ、情景の変化を感じて表現する	良い発声で美しい表現で演奏する。
1	歌唱	「アカペラの曲」	3	3部合唱曲で合唱の基本の無伴奏のハーモニーを楽しむ	各パートを決めて練習する。曲想をつけて美しいハーモニーをかんじながら表現する。
2	歌唱 鑑賞	合唱曲、歌舞伎「勸進帳」から。	2	合唱を楽しむ。作品の時代背景を学習。歌舞伎、勸進帳、演奏楽器の種類などを理解する。	パートリーダーを中心に高い透明感のあるハーモニーをめざす。鑑賞してレポートをまとめる
3	歌唱	歌唱テスト	3	良い発声で表現力をのばす。	アカペラで、3重唱をする

2年美術	
使用教科書	「美術2.3」(日本文教出版株式会社)
補助教材	美術資料「神奈川の美術」(秀学社)

年間総時数	35
目 標	(1)美術への関心・意欲・態度について ・表現や鑑賞の活動を通してすすんで創作活動に取り組み、美術を愛好する心と豊かな情操を育てる。 (2)発想・構想の能力について ・対象を深く見つめて感じとり、想像力を高め、豊かな発想や構想する力を育てる。 (3)創造的な技能について ・美術の基礎的な能力を伸ばし、意図に応じて創意工夫する力を育てる。 (4)鑑賞の能力について ・美術作品や文化財に親しみ、造形的な美しさや作者の心情、意図、表現の工夫を感じ味わう態度を育てる。
評 価	(1)学習活動への参加の仕方や態度、提出作品やレポート等で評価します。 (2)授業への取り組みや提出作品で評価します。 (3)授業への取り組みや提出作品で評価します。 (4)鑑賞の態度、鑑賞レポート等で評価します。

月	指導事項/ 領域	単元/教材	時数	学習目標	学習活動例
4	オリエンテーション A表現	美術の授業について 名前のデザイン	3	様々な書体について学ぶ 分かりやすく伝える	年間計画 制作
5	A表現	私の部屋	4	透視法を知る	制作
6			6	立体感のある彩色	
7					
8	鑑賞	色を学ぶ	2	色について知り、色の使い方を学ぶ	
9	B表現	立体で飛び出すカード	10	様々な仕掛けを学ぶ	制作
10					
11					
12					
1	A表現	ちぎり絵	10	和の心を知り、日本的な表現をする	制作
2					
3					

2年保健体育		年間総時数	105		
使用教科書	中学保健体育(学研)	目 標	(1)「自ら学ぶ」ために、また、自分(たち)の課題を解決するために、全単元で「考える」態度を培う。 (2)計画的に運動に親しむことができる資質や能力を育てる。 (3)健康を保持増進できる資質や能力を育てる。		
補助教材	中学体育実技(学研) 新体力テスト(第一学習社)	評 価	(1)運動や健康・安全への関心・意欲・態度 (2)運動や健康・安全についての思考・判断 (3)運動の技能 (4)運動や健康・安全についての知識・理解 ※(1)～(4)の項目それぞれにおいて、活動への取り組み、学習カード、自己評価の記録、授業内での質疑、提出物、定期テストなどで評価します。		
月	指導事項/ 領域	単元/教材	時数	学習目標	学習活動例
4 ・ 5	オリエンテーション 新体力テスト 体づくり運動	・体育学習の進め方 ・各体力テスト種目 ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	1 8	・自分自身の体力の状況を分析し、課題に応じて合理的な運動の実践のしかたを理解する。	・体力テストの結果から、自分の体力を高める運動メニューを作成する。 ・リラクゼーション
5 ・ 6	陸上競技 保 健	・短距離走・リレー ・ハードル走 ・走り幅跳び ・走り高跳び ・環境の変化と適応能力 ・快適な環境の条件 ・水の利用と確保 ・環境の汚染と保全	12 5	・走運動、跳躍運動における合理的なフォームを身につけ、自己の記録を向上させる。 ・リレーチームで協力してバトンをつなぎ、競争する楽しさを味わう。 ・環境と健康とのかかわりについて正しい知識を身につけ、環境を改善する実践力を身につける。	・50mハードル ・600mリレー ・跳躍の助走～踏切練習 ・空中フォームの練習 ・記録会
7 ・ 8	保 健 水 泳	・自然災害に備えて ・応急手当の意義と基本 ・クロール ・平泳ぎ	6 8	・自然災害に対する心構えと備えについて正しい知識を身につける。 ・応急処置について正しい知識と実践力を身につける。 ・自己の能力に応じた泳法を身につけ、より速く泳げるようにする。	・心肺蘇生法実習 ・AEDの使用法講習会(芹が谷消防署) ・コース別学習 ・タイムトライアル
9 ・ 10	器械運動	・マット運動 ・跳び箱運動	12	・回転系や巧技系の基本的な技をなめらかに行うことができる。 ・技を組み合わせて、自分の演技構成をすることかできる。 ・自分の技能に応じた高さで、回転系や切り返し系の跳び方を発表することができる。	・できる技のチェック ・課題別学習活動 ・5種目以上の技を組み合わせた演技構成 ・演技発表会
11 ・ 12	球 技	・バレーボール	12	・パス、トス、サーブの基本的な技能を身につけ、チームで協力してボールをつなげて攻防する。 ・得点を競い合ってゲームに取り組む楽しさを味わう。	・ソフトバレーボール ・パスラリーを中心としたゲーム ・リーグ戦
12 ・ 1	球 技	・ソフトボール ・体育理論	12 3	・捕球と送球の基本的な技能を身につけ、チームで協力して攻防する。 ・打撃の基本的な技能を身につけ、的確にボールをとらえることができるようにする。 ・打撃による得点を競い合ってゲームに取り組む楽しさを味わう。 ・スポーツが心身に及ぼす効果と、安全に行う方法についての正しい知識を身につける。	・キャッチボール ・的当てスローイング ・ティーバッティング ・簡易ゲーム ・スポーツ障害について調べ学習
1 ・ 2	ダンス	・創作ダンス ・フォークダンス ・民踊 ・現代的なリズムのダンス	11	・各種のダンスの特性を理解し、仲間との交流を深めて踊る楽しさを味わう。 ・リズムに乗って全身で楽しく動き、まとまりのある作品を創ることができる。	・曲想からイメージを描いて創作 ・動きの効果をとり入れた小作品作り ・作品発表会
2 ・ 3	武 道 保 健	・柔 道 ・傷害の原因と防止 ・交通事故の現状と原因	11 4	・柔道の正しい礼法を理解し、実践することができる。 ・安全な受け身を取ることができる。 ・安全な投げ技と固め技を身につけ、相手との攻防を行うことができる。 ・傷害や事故の発生要因を分析し、防止するための方策を立てることができるようにする。	・礼法 ・いろいろな姿勢からの受け身練習 ・約束練習 ・簡易試合 ・安全マップの作成

2年技術家庭 (技術分野)	
使用教科書	新しい技術・家庭 (東京書籍)
補助教材	新技術・家庭資料集 (新学社)

年間総時数	35
目 標	(1)生活や技術への関心・意欲・態度 ・現代社会を支える技術について関心を持ち、主体的に活用しようとする態度を育てる。 (2)生活を工夫し創造する能力 ・技術と社会や環境とのかかわりについての理解に基づき、工夫し創造して技術を評価したり活用したりすることができる能力を育てる。 (3)生活の技能 ・材料、加工等の技術を適切に活用するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けさせる。 (4)生活や技術についての知識・理解 ・技術と社会や環境とは相互に影響し合う関係にあることを理解させる。
評 価	※(1)～(4)の項目それぞれにおいて、活動への取り組み、提出物、定期テストなどで評価します。 ※技術分野は「技術家庭科」として家庭分野とあわせて評価します。

月	指導事項/ 領域	単元/教材	時数	学習目標	学習活動例
4	家庭分野				
5					
6					
7					
8,9					
10	○ガイダンス ・身の回りの技術 ・技術と環境 ・これからの学習	A(2)材料と加工法 ・材料の基本的な性質 ・材料に適した加工法	6	・材料の特性調べ目的に適した材料を考える ・身の回りに使われている材料を調べ目的にあったものを選択できるように調べる。	・自分の身の回りにあるものを考えなぜそのレポートにまとめるかを考えを等角図に表す。
11	○材料を使って制作できる加工法を知る	A(2)(3)材料と加工法から制作品を構想し設計してみる。	12	・作品を構想し部品図までの設計をする。 ・限られた材料から学習した工具や機械を選択する ・設計図・部品図から材料にけがき作業を行う	・適切に工具を選び使用できるか観察する。 ・工程表通りに行われているか確認させる。 ・工具を適切に使用できているか。 ・作業は正確に図面通りに仕上げているか。
12	完成した作品を評価しよう	A(3)作品を自己評価し発表する	2	・製品の評価観点を決め、自己PRと説明を氏あう	・多くの意見から自己の発想生を確認し成就感・達成感を感じ取れるよう発表させる。
1	○ガイダンス ・身の回りの技術 ・技術と環境 ・これからの学習	・身に回りにあるエネルギーをまとめる ・エネルギーの伝達方法を知る	8	・身の回りにあるエネルギー野例について調べさせる。 ・電気エネルギーについて発電方法と変換について考えをまとめ発表する。	・社会に利用される機器はどのような歴史をたどってきたか考える。 ・利用と知識を身につける
2	○エネルギー変換を利用した製品を製作する	・機能、構造、加工法、安全を検討構想する。	6	・安全な暮らしのため役立つ製品を考える。 ・適切な工具を使用でき省エネとは何かを考えさせる。	・学習した内容を今後の生活に利用することを考えさせる。 ・エネルギーの新しい考えを模索させ今後のような技術が必要か知らせる
3	○エネルギーの有効利用について考えさせる。	・エネルギーの環境技術や安全と活用方法を調べ	1	・現在のエネルギー消費量の傾向と課題について考えさせる。・身の回りのエネルギーを将来どのようすればよいか話し合わせる。	・レポートにまとめ話し合った結果を発表させる。

2年技術家庭 (家庭分野)		年間総時数	35
使用教科書	新しい技術・家庭 家庭分野 (東京書籍)	目 標	(1)生活や技術への関心・意欲・態度について ・自分や家族の生活に関心を持ち意欲的に学び、技術を習得し、実践する態度を育てる。 (2)知識・理解について ・人の生活や環境に関する知識を身につけ、自分の生活と関連付けて考えたり説明したりする力を育てる。 (3)生活の技能について ・実習に際し、必要な用具を適切に使用し、安全に配慮しながら適切な操作ができる力を育てる。 (4)創意・工夫について ・家族の生活について見直し、課題を見つけ、その解決を目指して家庭生活をよりよくするために工夫し創造する力を育てる。
補助教材	新技術・家庭資料集 (新学社)	評 価	(1)学習活動への参加の仕方や態度、提出物や自己評価表等で評価します。 (2)定期テストやワークシートで評価します。 (3)提出作品や実技テスト、発表活動で評価します。 (4)レポートや提出作品、発表活動などで評価します。 ※家庭分野は技術家庭科として、技術分野とあわせて評価します。

月	指導事項/ 領域	単元/教材	時数	学習目標	学習活動例
4	・ガイダンス ・献立づくりと食品の選択 ・調理と食文化	・食品に含まれる栄養素を知ろう ・何をどのくらい食べればよいか考えよう。 ・日常食の調理をしよう。①	4 2	・食品の栄養的特質や中学生の1日に必要な食品の種類と概量について知ること。 ・基礎的な日常食の調理ができる。また、安全と衛生に留意し、食品や調理用具等の適切な管理ができる。 ・食材、水、エネルギーの無駄使いをしない工夫が調理実習できる。	・食品成分表を使い、身近な食品の栄養的特徴を調べる。 ・食中毒の予防について考える。 ・調理実習①ドライカレー、 コールスローサラダ ・実技テスト…玉ねぎのみじん切り
5	献立づくりと食品の選択	・バランスの取れた食生活を考えよう ・日常食の調理をしよう。②	4 2	・中学生に必要な栄養を満たす1日分の献立を考えることができる。 ・食品の調理上の性質を知り、適切に調理することができる。 ・食材、水、エネルギーの無駄使いをしない工夫が調理実習できる。	・献立づくり ・調理実習②ハンバーグ、 ポテトサラダ ・実技テスト…きゅうりのうす切りテスト
6	被服製作	・エプロンを製作し、調理実習に役立てよう。 ・エプロンの製作	10	・エプロン製作を通して、被服製作の基本的な技能(ミシンでの縫い方・アイロンのかけ方・待ち針の打ち方・まつり縫いの縫い方等)を身に付け、日常生活に活用できる。	・エプロン製作 裁断・ポケット口・わき縫い・袖ぐり・胸上・すそ・ひもつけ・ポケットの創意工夫・等
7	衣生活と自立 献立づくりと食品の選択	被服の素材の特徴 お弁当作りの計画	3 2	・衣服に使われている素材の特徴を理解する。 ・バランスのとれたお弁当を考えることができる。	・繊維の名称とその特徴 ・日常着に使われている繊維の種類調べ ・お弁当の献立を考える。
8	献立づくりと食品の選択	お弁当作りの実践と報告	4	・中学生にふさわしい栄養のバランスがとれたお弁当を自分で作るすることができる。	・お弁当作りの実践と報告
9	献立づくりと食品の選択	・食品の選び方を考えよう ・日常食の調理をしよう。 ③	2 2	・身近な食品の品質を見分けることができる。 ・用途に応じて食品を適切に選択することができる。 ・食材、水、エネルギーの無駄使いをしない工夫が調理実習で実践できる。	・生鮮食品の新鮮さの見分け方。 ・食品表示の見方。 ・調理実習③ 魚のムニエル、粉ふきいも ・実技テスト…ジャガイモの皮むき
10	<h1>技術分野</h1>				
11					
12					
1					
2					
3					

2年特別活動	年間総時数35
特別活動の目標	集団生活を通して、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育て、人間としての生き方について自覚を深め、自己を生かす能力を育てます。
学級活動 生徒会活動 学校行事 の目標	○学級活動を通して集団の一員として、よりよい生活づくりに参画し、自主的・自発的に課題を解決しようとする態度を育てます。 ○生徒会活動を通してのぞましい人間関係を形成し、協力して諸課題を解決しようとする態度を育てます。 ○学校行事を通して集団への連帯感を深め、公共の精神、よりよい学校生活を築こうとする態度を育てます。

月	主な行事	活動・題材	ねらい	学級活動の内容(例)	他教科等との関連
4	始業式 入学式	2年生になって 1年間の目標を表そう。 学級組織、学級目標作り	中学校生活に対する抱負や目標を立て、中学生としての自覚をもつ。	・新入生ガイダンス ・2年生になって 作文 ・自己紹介 ・学校生活のルール ・学級目標、組織作り ・生徒会の心得・生徒会委員選出	学級活動 EGG、
5	生徒総会 体育祭	生徒会総会に向けて 体育祭への取組	・生徒総会への関心を持ち、生徒会の一員としての自覚をもつ。 ・体育祭の意義、目的を理解し、積極的に参加する。	・集団作り、人間関係作り ・体育祭の種目について ・学級旗作り ・生徒総会の意義、参加について	
6	合唱コンクール	合唱コンクールへの取組 イングリッシュキャンプへの取組	・合唱コンクールの意義や目的を理解し、一人ひとりが果たせる役割を考える。 ・イングリッシュキャンプに向けて、目的や係の仕事を話し合う。	・体育祭の振り返り ・合唱コンクールへの取り組み 全体練習 ・学級活動の見直し	(音楽科:合唱コンクール)
7		夏休みの計画 文化祭への取組	・定期試験に向けて、計画的な学習の必要性を理解する。 ・学習面、生活面ともに、有意義な夏休みを過ごすことができるようにする。	・合唱コンクールの振り返り ・1学期期末試験に向けて ・夏休みの過ごし方 ・文化祭展示の部の参加 ・1学期の反省	EGGゼミ、南高祭への展示
8 9	南高祭	防災安全学習 文化祭・展示の部への参加	・防災訓練の意味を理解し、日頃から安全に気をつけて生活するよう心がける。 ・南高祭の意義、目的を確認し、学年としての有意義な参加ができるよう考える。	・災害時の安全確保 ・文化祭展示の部への取組	EGGゼミ、南高祭への展示
10		イングリッシュキャンプへの取り組み	・よりよい集団作りを目指して、学級での自分の役割を考える。	・学級活動の見直し ・イングリッシュキャンプの最終確認	
11	生徒会役員選挙	生徒会役員選挙 保健指導	・生徒会活動についての理解と関心を高め、よりよい生徒会活動になるよう、協力する。 ・男女ともに互いの成長を認めあえるよう、協力する。	・生徒会役員選挙に向けて 応援活動、投票について ・保健指導(思春期の心と体) ・2学期期末試験に向けて	
12		冬休みの計画 将来の夢	・生活面、学習面ともに、規則正しい冬休みの生活をおくることの重要性を理解する。 ・自らの意志と責任で進路選択をすることの重要性を理解する。	・冬休みの過ごし方 ・働く目的と意義を考える ・百人一首大会に向けて ・2学期の反省	EGG、キャリア教育
1	百人一首大会	新年を迎えて 百人一首大会への取組 いろいろな職業	・学級の仲間と協力し、互いに競い、高め合うことの大切さを理解する。 ・さまざまな職業について知り、働く目的、意義について考える。	・新年の抱負 ・百人一首大会に向けて ・働く目的と意義を考える	(国語科:百人一首大会) EGG、キャリア教育
2		友だちへの思い 自己をみつめる	・自分の良い面を積極的に伸ばし、周囲の人とより良い関係を築くように心がける。	・より良い友だちとの関係 ・学級活動の見直し、自分の長所・短所を知る ・3学期期末試験に向けて	
3	修了式	1年間の反省 3年生に向けて	・1年間の活動を振り返り、集団生活の向上について考える。 ・生活面、学習面ともに3年生での生活の目標を考える。	・お世話になった身近な人への感謝 ・1年間の振り返り ・3年生への目標	

2年道徳	年間総時数35
使用するテキスト	「私たちの道徳」「生きる」「きみがいちばんひかるとき」(光村図書)
道徳の目標	A主として自分自身に関すること 自己の在り方を自分自身との関わりで捉え、望ましい自己の形成を図る。 B主として人との関わりに関すること 自己を人との関わりにおいて捉え、望ましい人間関係の構築を図る。 C主として集団や社会との関わりに関すること 自己を様々な社会集団や郷土、国家、国際社会との関わりにおいて捉え、国際社会と向き合いことが求められているという自覚に立ち、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な道徳性を培う。 D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること 自己を生命や自然、美しいもの、気高いもの、崇高なものとの関わりにおいて捉え、人間としての自覚を深める。

内容

月	内容項目・主題	ねらい	教材例(自分をみつめる/他)	他教科等との関連
4	A-4 希望と勇氣 克己と強い心 A-1 自主 自律	・より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇氣をもち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げる態度を養う。 ・自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任を持つ態度を養う。	「未来予想図」 「カードで理想の生活リズム！」	学級活動
5	B-8 友情 信頼 C-18 国際理解 国際貢献	・友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていく。 ・世界の中の日本人としての自覚を持ち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与する態度を養う。	「伝えよう、合唱のイメージ」 「ナイス！アイデア！」	体育祭 合唱コンクール
6	B-6 思いやり 感謝 B-7 礼儀 D-21 感動 畏敬の念	・思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深める。 ・礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。	「国際平和のために、今自分にできること」 「指揮者のミス」	よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト
7	B-9 相互理解 寛容 C-10 遵法の精神 公德心	・自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自ら高めていく態度を養う。 ・法やまじりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努める態度を養う。	「みんなで伝え合おう」 「学校に携帯電話をもってくこと」	人権作文コンテストに応募
9	C-13 社会参画 公共の精神 C-13 勤労	・社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努める態度を養う。 ・勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献する態度を育てる。	「逆転田舎工場世界を制す」	進路
10	C-13 勤労 C-14 家族愛 C-14 家族愛 家庭生活の充実	・父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。	「仕事が社会を支えている」	イングリッシュキャンプ
11	A-5 真理の探究 創造	・真実を大切に、真理を探究して新しいものを生み出そうと努める態度を養う。	「子どもの権利条約カードゲーム」	
12	C-11 公正 公平 社会正義 C-15 よりよい学校生活	・正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努める態度を養う。 ・教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員として自覚をもち協力し合っってよりよい校風をつくるとともに、様々な集団の充実に努める態度を養う。	「正義と思いやり」 「人に迷惑をかけなければいいの？」	
1	C-17 我が国の伝統と文化の尊重 C-18 国際理解 国際貢献	・優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展に努める態度を養う。	「百人一首大会に向けて」 「貧困はどこから」	百人一首大会
2	D-19 生命の尊さ C-16 郷土の伝統と文化の尊重	・生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえない生命を尊重する態度を養う。 ・郷土の伝統と文化を大切に、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努める態度を養う。	「学校Ⅱ」 「ただ一撃にかける」	
3	B-8 友情 信頼 D-20 自然愛護 A-3 個性の伸長	・友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていく。 ・自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努める態度を養う。	「友だちの良いところを見つけよう」 「季節を感じよう」	

3年国語(古典) 国語総合	70時間
教科書	国語3(光村図書) プログレス古文総演習(いづな書店) 古典文法・用言 活用シート(京都書房編集部)
学習の進め方	・時間割の中の 国/国総 で行う。前半は中学校の教科書を中心に、後半はプログレス古文総演習を中心に学習を進めていく。 ・多読を通して古典に親しむ。
評価	・音読やノートの記述、文法教材など、日常の取り組みに加えて、定期テストにおける到達状況を評価する。

	月	単元/教材	学習内容(ねらい)
一学期	4月～5月	★中学校の教科書を中心に学習 論語～学びて時に之を習ふ～	○論語の文章を音読、暗誦する。 (角川ビギナーズクラシックス 論語全文を読む。) ○自分の日常生活に置き換えながら、論語における孔子の考え方について理解する。 ・「日常生活に生かす論語」の視点でお気に入りの言葉を紹介する。 ●漢文のきまりを理解する。
	5月～6月	おくの細道	○おくの細道を通読し、プレゼンテーションという形式で芭蕉の人生観を考える。 (角川ビギナーズクラシックス おくの細道全文を読む。) ●多様な古典の作品に触れて、古典の基礎的な知識を理解する。
	6月～7月	万葉集・古今和歌集・新古今和歌集	○百人一首の復習 ○「この人に贈る一首」という学習活動を通して、三大和歌集の特徴やものの見方、考え方を学ぶ。 ・和歌を引用しながら文章を書く。 ・国語便覧に掲載されている和歌も参考にする。 ●和歌の修辞技法や表現上の特色、リズムを確かめながら繰り返し音読する。
二学期	8～9月	★プログレス古文総演習と古典文法・用言活用シートを中心に学習。	●文語のきまりを理解する。(動詞・形容詞・形容動詞) ・活用と口語文法との活用形の違いとその意味・用法について理解する。 ・動詞の活用について理解する。 ・形容詞・形容動詞の活用について理解する。 ●簡単な説話を読み、古文と現代文の違いについて考えさせ、指摘させる。 ・今後の学習の動機づけをするとともに、古文の学習に興味を持たせる。 ・現代語に無い言葉や意味の異なる言葉、省略された助詞等を理解する。
	10月	伊勢物語	○「東下り」の原文を精読し、内容を正確に理解する。 ・主語を常に意識し、述語から主語を考えさせる。 ・内容把握のために、助詞の一部についての学習を行い理解を深める。 (角川ビギナーズクラシックス 伊勢物語全文を読む。) ○「芥川」「筒井筒」を読み、現代版「わたしの伊勢物語」に書き換える。
	11月～12月	プログレス古文総演習と古典文法・用言活用シートを中心に学習。	○説話を読み、編者の視点から内容の面白さや特徴を把握する。 ・文法事項については、用言の定着をはかるための反復学習を行う。 ・一部の助詞・助動詞の学習を行う。
三学期	1月	プログレス古文総演習と古典文法・用言活用シートを中心に学習。	○土佐日記を読んで人間・社会などに対する作者の思想や考えを読み取る。 ●文語のきまりを理解する。(用言・助詞・助動詞の一部・副詞の学習) ●多様な古典の作品に触れて、古典の基礎的な知識を理解する。
	2月～3月	漢文・漢詩 中国の代表的な文章・思想	○漢詩を音読し、訓読文で理解する。 ●漢詩の基礎的な知識、きまりを理解する。 ●多様な古典の作品に触れて、古典の基礎的な知識を理解する。

3年国語	
使用教科書	国語3(光村図書) 中学書写(教育出版)
補助教材	国語便覧 (浜島書店) 問題中心の新文法ノート (浜島書店) 漢字検定対応 級別漢字クラブ 7級～準2級(東京法令出版) 新中学問題集国語発展編(教育 開発出版)

年間総時数	105(書写を含む)
目 標	目的や場面に応じて構成を工夫して話したり、話し手の意図を考えて聞いたり、構成を考えて的確に書いたりする力を育てるとともに、様々な種類の文章を読むことを通して、自分のものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。
評 価	国語への関心・意欲・態度…授業中の言語活動の様子、振り返りの記述、提出物などで評価します。 話す・聞く能力…スピーチや話し合い活動などにおける取り組みなどで評価します。 書く能力…レポートや体験文、報告文、短作文など提出物を中心に評価します。 読む能力…定期テストを中心に、授業で取り組むワークシート、課題などで評価します。 言語についての知識・理解・技能…定期テストや日常の小テスト、書写の作品などで評価します。

月	領域	単元/教材	時数	学習目標	学習活動例
4	学習のガイダンス	中学校国語の学習の仕方について学び、新しい目標や課題を考える。	1	1年間の国語の学習への見通し、課題、目標を明らかにする。	①2年間の国語の学習を振り返り、自分の課題や3年生で身につけたい国語の力を考える。 ②1年間の国語科学習の流れを知る。 ・国語総合の授業について ・読書マラソン ・ノートの使い方
4	【書く】	握手	7	批評することを通して、物語を読み深める。	登場人物の生き方や考え方をとらえ、作品の特徴的表現を観点に批評文を書く。
5	【書く】	説得力のある考えを述べよう ～批評文を書く～	6	論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書く。	社会生活の中から関心のある事柄を選び、説得力のある文章を書く。
5	【言語】	付属語の種類 /助詞・助動詞	5	言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	①付属語について復習する。 ②助詞・助動詞について理解する。 ③文法ノートの課題や問題に取り組む。
5	【読む】	月の起源を探る	5	文脈の中での語句や図の使い方などに注意して読み、筆者の論の展開をとらえる。	文章の小見出しや図の役割について考え、それぞれの持つ役割、効果などを話し合う。
5	【言語】	和語・漢語・外来語	1	言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	①和語・漢語・外来語の関係について理解する。 ②教科書の課題や問題に取り組む。
6	【読む】	俳句の可能性 俳句十六句	5	筆者のものの見方や言葉遣い、表現の仕方を読み味わい、俳句の世界に親しむ。	筆者のものの見方や俳句の表現の仕方を理解し、鑑賞文を書く。
6	【言語 書写】	俳句を書写する	2	紙面や文字のバランスなどを考えて書写する。	心に残る俳句を短冊に書く。
6	【言語】	熟語の読み方	1	言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	①二字熟語、三字熟語など、熟語の構成について理解する。 ②教科書の課題や問題に取り組む。
6 7	【読む】	高瀬舟	6	作品を読み、登場人物の行動や考え方について自分の考えをもつ。	登場人物の生き方や、心情、価値観などについて考え、ディスカッションをする。
8 9	【話す・聞く】	パブリックスピーチをする	6	聞き手の求める情報などを的確にとらえ、経験や知識を整理して話す。	聞き手の反応などを確かめて、説明や話し方を工夫して話す。
9	【読む】 読書活動	ビブリオバトルをしよう	5	さまざまなジャンルの本に親しみ、興味や関心を広げ自分の考えをまとめる。	読書教材を中心にさまざまな分野の本を読み、興味・関心を持ったことや、内容、工夫について考えたことを話し合う。

9	【読む】	挨拶		詩の表現に着目して読み、人間や社会について、自分の考えをもつ。	詩に表されている内容と、現実の世界のあり方を対比させながら読む。
			3		
10	【読む】	故郷		作品を通して、人間と社会とのかかわりについて自分の意見を持つ。	登場人物の言動や描写、心情を表す言葉、社会的背景をとらえながら、作品の特徴を話し合う。
			6		
10	【言語】	慣用句・ことわざ・故事成語		言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	①今まで学習した慣用句・故事成語の種類、使い方について理解する。 ②教科書の課題や問題に取り組む。
			2		
10 11	【書く】	文章の形態を選んで書く		文章の構成や表現の工夫などを評価し合い、もの見方や考え方を広げる。	内容にふさわしい文章の形態を選び、研修旅行の記録をまとめる。
			6		
11	【読む】	新聞の社説を比較して読む		論説を読み比べ、主張や論理の展開、表現の仕方を評価する。	論説を読み比べ、主張や論理の展開、表現の仕方を評価する。
			5		
11	【読む】	作られた「物語」を超えて		筆者のもの見方や考え方を踏まえて、人間、社会、自然について自分の考えをもつ。	筆者の考えを表す語句や、論理の展開に着目して主張をとらえ、整理する。
			5		
11	【言語】	漢字の造語力		言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	①同音異義語などについて理解する。 ②教科書の課題や問題に取り組む。
			1		
12	【話す・聞く】	話し合って提案をまとめよう		社会生活の中からテーマを見つけ、その解決に向けて説得力のある提案をする。	ブレインストーミングなど、話し合いが効果的に展開するよう進行を工夫し、課題解決に向けて会議を開く。
			7		
12	【言語 書写】	書き初め		行書の特徴を復習し、連続性のある筆使いを理解する。	字形の変化や連続性を意識して画仙紙に書く。
			3		
1	【言語】	漢字のまとめ		言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	①中学校で学習した漢字の音訓を確認する。 ②教科書の課題や問題に取り組む。
			1		
1	【書く】	アンソロジーを編む		これまでの読書生活を振り返り、本とのかかわりかたについて考える。	自分の読書傾向を分析し、テーマに沿ってアンソロジーを作成する。
			5		
2	【言語 書写】	創作書写		楷書や行書の特徴を整理し、作品にふさわしい筆使いを理解する。	文字の大きさ、バランス、行の中心や筆使いなどを考え、これまでの学習の成果が表れるようにアンソロジーを清書する。
			3		
2 3	【読む】	評論を読む		論理の展開を確かめながら、いくつかの評論を読む。	事実と筆者の意見を整理して、それを支える根拠を確かめながら、論理の展開を説明する。
			4		
3	【話す・聞く】	3年間の歩みをスピーチする		3年間の歩みを整理し、わかりやすく効果的に伝える。	3年間を振り返り、学習や人との関わりなど、自分のこれまでの歩みを整理して、スピーチの会を開く。
			3		
3	学習の振り返り	1年間の学習を振り返る		1年間で身についた力を確かめ、高校の学習につなげる。	①1年間の学習振り返りシートに記述する。 ②来年への課題、継続したい目標などを記述する。
			1		

3年社会		年間総時数	140
使用教科書	『新しい日本の歴史』(育鵬社) 『新しいみんなの公民』(育鵬社) 地図帳	目 標	広い視野に立って、社会に関する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。
補助教材	『つながる歴史』(浜島書店) 『新しい公民』(浜島書店) 歴史の学習②③(浜島書店) 公民の学習(浜島書店) WinPass(全)(文理出版)	評 価	関心・意欲・態度…日々の学習への取り組みや、課題の提出状況等で評価します。 思考・判断・表現…授業中における課題や、定期試験の結果等をもとに評価します。 資料活用…授業中における課題や、定期試験の結果等をもとに評価します。 知識・理解…授業中における課題、基礎力診断テスト、定期試験の結果等をもとに評価します。

月	指導事項/ 領域	単元/教材	時 数	学習目標	学習活動例
4	オリエンテーション	今年度の授業計画等について	1	・中学3年生で取り扱う社会科とその学習計画について確認する。	
5	【歴史】 (5)近代の日本と世界	●二度の世界大戦と日本 ・第一次世界大戦前後の日本と世界 ・第二次世界大戦前後の日本と世界①	25	・第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動き、我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを通して、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力が成されたことを理解させる。	・第一次世界大戦が起こった当時の世界情勢を図化する。 ・大戦後の国際情勢や我が国への様子を考察する。
6	【歴史】 (5)近代の日本と世界 (6)現代の日本と世界	●二度の世界大戦と日本 ・第二次世界大戦前後の日本と世界② ●現代の日本と世界 ・第二次世界大戦前後の民主化と再建	20	・昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動きなどを通して、軍部の対等から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる。 ・冷戦、我が国の民主化と再建の過程などを通して、第二次世界大戦後の諸改革の特色を考えさせ、新しい日本の建設が進められたことを理解させる。 ・高度経済成長、国際社会とのかわりなどを通して、我が国の経済が急速に発展して国民生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解させる。	・第二次世界大戦後の日本の改革の特色を考察する。 ・冷戦が世界や日本に及ぼした影響を考察する。
7	【公民】 (1)私たちと現代社会	●私たちが生きる現代社会と文化	2	・現代日本の特色を、少子高齢化、グローバル化などからみられることを理解させ	少子高齢化が日本の政治・経済に及ぼす影響を考察する。
8					
9	【公民】 (1)私たちと現代社会	●現代社会をとらえる見方や考え方	8	るとともに、それらが政治、経済、国際関係に影響を与えていることに気付かせる。 ・社会生活におけるきまりの意義などについて考えさせ、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などについて理解させる。	・現代社会を捉える見方や考え方を養う。
10	【公民】 (3)私たちと政治	●人間の尊重と日本国憲法の基本的原則 ●民主政治と政治参加	20	・人間の尊重についての考え方を基本的な人権を中心に深めさせ、法の意義を理解させるとともに、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解させ、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について考えさせる。また、日本国憲法が基本的な人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについての理解を深め、日本国及び日本国民統治の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解させる。	・基本的な人権のピラミッドランキングづけを行うことで、日本国憲法における人間の尊重についての考え方を考察する。
11	【公民】 (3)私たちと政治	●民主政治と政治参加	22	・地方自治の基本的な考え方について理解させる。その際、地方公共団体の政治の仕組みについて理解させるとともに、住民の権利や義務に関連させて、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てる。また、国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解させ、議会制民主主義の意義について考えさせるとともに、多数決の原理とその運用の在り方について理解を深めさせる。さらに、国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解させるとともに、民主政治の推進と、公正な世論の形成や国民の政治参加との関連について考えさせる。その際、選挙の意義について考えさせる。	港南区の課題を、諸資料をもとに分析し、その解決策を考える。
12	【公民】 (2)私たちと経済	●市場の働きと経済 ●国民の生活と政府の役割	22	・身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる。また、現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解させるとともに、社会における企業の役割と責任について考えさせる。その際、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神と関連付けて考えさせる。 ・国民の生活と福祉の向上を図るために、社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、社会保障の充実、消費者の保護など、市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たしている役割について考えさせる。その際、租税の意義と役割について考えさせるとともに、国民の納税の義務について理解させる。	・市場における企業の役割を考察する。 ・金融の仕組みと働きを考察する。
1					
2	【公民】 (4)私たちと政治	●私たちと国際社会の諸課題 ●世界平和と人類の福祉の増大	12	・世界平和の実現と人類の福祉のためには、国家間の尊重と協力、各国国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを認識させる。その際、日本国憲法の平和主義について理解を深め、我が国の安全と防衛及び国際貢献について考えさせるとともに、核兵器などの脅威に着目させ、世界平和を確立するための熱意と協力の態度を育てる。また、地球環境、貧困などの課題の解決のために様々な協力が大切であることを理解させる。	・地球規模の様々な課題解決のために様々な活動を蜘蛛の巣ゲームを通して考察する。
3	3年間のまとめ	地理・歴史・公民のまとめ	8	・中学校3年間の学習の総括として、身に付けた知識をもとに地理・歴史・公民三分野の関連性を見出し、そのつながりについて知るとともに、社会の中においてこれからの自分たちが果たすべき役割や責任などについて考えを深めさせる。	・自分の興味のある分野について調べると共に、周囲の意見等を知ること、自身の知見を広げ、これからの自分が果たすべき役割を考察する。

3年数学	
使用教科書	新しい数学3(東京書籍)
補助教材	体系数学2幾何編(数研出版) 体系数学3数式・関数編(数研出版) 体系数学ノート発展編(数研出版) 体系問題集数学3数式・関数編(数研出版) 基礎の計算練習(新学社) 新Aクラス中学数学問題集(昇龍堂出版)

年間総時数	175
目 標	数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数学的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。
評 価	数学への関心・意欲・態度・・・学習の取り組み、発表、提出物、テスト、ノートをもとに評価します。 数学的な見方や考え方・・・定期テストや小テストをもとに評価します。 数学的な技能・・・定期テストや小テストをもとに評価します。 数量や図形などについての知識・理解・・・定期テストや小テストをもとに評価します。

月	指導事項/ 領域	単元/教材	時数	学習目標	学習活動例
4 5	学習のガイダンス	中学校3年生数学の学習の仕方について学び、授業での約束事を確認する。	1		・教材ごとの学習のしかた ・授業内でのルール(発表をするとき)
	B 図形	体系数学2 幾何編 第1章 図形と相似 1 相似な図形 2 三角形の相似条件 3 平行線と線分の比 4 中点連結定理 5 相似な図形と面積比、体積比 ■ 問題	20	図形の性質を三角形の相似条件などを基にして確かめ、論理的に考察し表現する能力を伸ばし、相似な図形の性質を用いて考察することができるようにする。	・平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解すること。 ・三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめること。 ・平行線と線分の比についての性質を見だし、それらを確かめること。 ・基本的な立体の相似の意味と、相似な図形の相似比と面積比および体積比の関係について理解すること。 ・相似な図形の性質を具体的な場面で活用すること。
5	B 図形	第3章 円 3 円に内接する四角形 4 円の接線 5 接線と弦のつくる角 6 方べきの定理 7 2つの円 ■ 問題	20	観察、操作や実験などの活動を通して、円周角と中心角の関係を見だして理解し、それを用いて考察することができるようにする。円の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	・円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用すること。 ・円に関する基本的な性質について、それらが成り立つことを証明すること。
6 7	B 図形	第4章 三平方の定理 1 三平方の定理 2 三平方の定理と平面図形 3 三平方の定理と空間図形 ■ 問題	30	観察、操作や実験などの活動を通して、三平方の定理を見だして理解し、それを用いて考察することができるようにする。	・三平方の定理の意味を理解し、それが証明できることを知ること。 ・三平方の定理を具体的な場面で活用すること。 ・三平方の定理を利用して、空間内の線分の長さや、距離を求めるなど、空間図形で活用すること。
8 9 10	B 図形	第2章 線分の比と計量 1 三角形の重心 2 線分の比と面積比 3 チェバの定理 4 メネラウスの定理 ■ 問題	25	平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	・三角形に関する基本的な性質について理解し、それらが成り立つことを証明すること。 ・チェバの定理、メネラウスの定理を理解し、三角形に現れる線分の比や図形の面積比を求める問題に活用すること。
10 11 12	A 数と式	体系数学3 数式・関数編 第1章 数と式 1 整式 2 因数分解 3 整式の割り算 4 分数式 5 指数の拡張 6 実数 ■ 問題	35	数を実数まで拡張する意義や基本的概念を理解できるようにする。整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにする。また、式を多面的にみたり処理したり、活用できるようにする。	・数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な四則計算をすること ・2次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深め、式を多面的にみたり目的に応じて式を適切に変形したりすること。 ・整式の除法や分数式の四則計算について理解し、簡単な場合について計算をすること。
1 2 3	C 関数	第3章 2次関数とグラフ 1 2次関数のグラフ 2 関数のグラフの移動 3 2次関数の最大値、最小値 4 2次関数の決定 5 2次関数のグラフと方程式 6 2次不等式 7 2次不等式の応用	35	2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。	・事象から2次関数で表される関係を見出すこと。また、2次関数のグラフの特徴について理解すること。 ・2次関数の値の変化について、グラフを用いて考察したり最大値や最小値を求めたりすること。 ・2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解するとともに、数量の関係を2次方程式で表し2次関数のグラフを利用してその解を求めること。

3年理科	
使用教科書	未来へひろがるサイエンス3 (新興出版社啓林館)
補助教材	最新理科便覧(浜島書店) WinPass3年(文理出版) 冬期テキスト(教育研究出版)

年間総時数	140
目 標	自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。
評 価	科学への関心・意欲・態度・・・ノート、提出物、自由研究等をもとに評価します。 科学的な見方や考え方・・・おもに定期テストをもとに評価します。 科学的な技能・・・定期テスト、技能テスト、提出物等をもとに評価します。 科学的な事象についての知識・理解・・・定期テスト、基礎力診断テスト等をもとに評価します。

月	指導事項/ 領域	単元/教材	時数	学習目標	学習活動例
4	学習のガイダンス	中学校3年生の理科の学習の仕方について学び、新しい目標や課題を考える。	1	1年間の理科の学習への見通し、課題、目標を明らかにする。	・2年生の時の理科の学習を振り返り、自分の課題や今後身につけたい力を考える。 ・1年間の理科学習の仕方を知る。
通年 (週1時間)	地学	1章 地球とその外側の世界 2章 太陽と恒星の動き 3章 月と金星の動きと見え方	30	大昔から太陽や星の動きをもとに暦をつくって生活しているように、天体の動きはわたしたちの生活と密接に結びついていることに気づかせる。現在では、望遠鏡や探査衛星によって、惑星やより遠い宇宙の構造や誕生、地球外生命の探査が行われていることを捉えさせて、宇宙への関心を高めさせる。 太陽や星の見かけの動きから、地球の自転や公転という運動を見いださせる。 太陽系の天体の特徴を知るとともに、惑星の動きや見え方、月の満ち欠けと日食・月食について理解させる。 太陽の特徴を知るとともに、太陽系は銀河系に属すること、銀河系の外には別の銀河が多数存在することを理解させる。	・太陽や星の日周運動は、地球の自転によって起こることを理解させる。 ・季節によって見ることのできる星座が違うことや、太陽が1年を通して星座の星の間を動く運動は、地球の公転によって起こる年周運動であることを理解させる。 ・季節による太陽の南中高度や昼間の長さの変化は、地球が地軸を傾けたまま自転しながら公転しているためであることを理解させる。 ・太陽系の天体の特徴や、惑星・小惑星・衛星・すい星などが、太陽のまわりを公転していることを理解させる。 ・惑星は、太陽や星座の星とは異なった動きをし、望遠鏡での見え方にも特徴があることを理解させる。 ・月の見え方の変化は、太陽・月・地球の位置関係の変化によって起こることを理解させる。 ・太陽・月・地球が一直線上に位置すると日食や月食が起こることを理解させる。 ・太陽の観察や写真を通して、太陽の特徴を理解させる。 ・太陽は銀河系の恒星の1つであり、宇宙には銀河系のような星の集団が多数あることを理解させる。
4,5	化学	1章 水溶液とイオン		まず水溶液に電流を通す実験を行い、水溶液には電流を通すものと通さないものがあることを見いださせる。次に電気分解の実験より、イオンの存在を見いださせ、イオンの生成が原子の成り立ちに関係することを理解させる。また、電池の実験を行い、電池は化学エネルギーが電気エネルギーに変換されていることに気づかせるとともに、イオンのモデルを用いて電池の原理が説明できるようにする。	・電気伝導性の実験 ・塩化銅水溶液や塩酸の電気分解、塩化銅水溶液の電気泳動の実験 ・原子のつくりの説明を行い、原子は原子核と電子からできていること、原子核は陽子と中性子からできていることを知らせる。 ・イオンの定義を行い、原子の構造と陽イオン・陰イオンの生成の関係を理解させる。 ・電離の説明を行い、電離の様子をイオン式で表すことができるようになる。
6	化学	2章 酸・アルカリと塩	30	まず酸やアルカリの水溶液を用いた実験を行い、酸やアルカリのそれぞれの特性が水素イオンと水酸化物イオンによることを見いださせるとともに、電離の様子をイオンのモデルを使って説明できるようにする。次に、中和反応の実験により、酸とアルカリが反応すると水と塩ができることを見いださせるとともに、中和反応をイオンのモデルを使って説明できるようにする。	・身のまわりには、酸性やアルカリ性を示す水溶液が多くあることに気づかせる。 ・酸性やアルカリ性の水溶液の性質を調べる実験を行い、それぞれに共通の性質があることを見いださせる。 ・酸やアルカリの特性は、水素イオンと水酸化物イオンによることを見いださせ、イオンのモデルを使って説明できるようにする。 ・酸と金属の反応を、化学反応式で説明できるようにする。 ・酸とアルカリを混ぜると液性が変化することに気づかせ、中和に興味をもたせる。 ・中和の実験を行い、中和により塩と水ができることに気づかせ、イオンのモデルを使って説明できるようにする。 ・中和滴定の実験を行い、水溶液の変化をイオンのモデルを使って考えさせ、中和と中性の違いを理解させる。
7,8	生物	1章 生物の成長とふえ方	25	細胞のつくりを思い起こさせ、種子から根ののびる様子を観察させたり、細胞分裂の観察を行わせて、生物の成長を細胞の分裂と関連づけて捉えさせる。	・根ののびる様子の観察結果を確認することで、細胞分裂によって細胞の数をふやし、さらにふえた細胞が体積をふやすことで、根や茎の先端付近が成長することを理解させる。 ・細胞分裂の観察を通して、その過程を確かめさせるとともに、細胞分裂時の染色体のふるまいを理解させ、さらに、植物、動物に共通していることを理解させる。 ・親の体の一部から子ができる無性生殖では、親とまったく同じ形質をもつ子ができることに気づかせる。 ・有性生殖では、受精によって新しい個体が生じ、受精卵が体細胞分裂を繰り返して複雑な体をつくっていくことを理解させる。 ・有性生殖では、減数分裂によってできる生殖細胞が受精することで、子に両親の形質がいろいろ組み合わせられて受けつがれることに気づかせる。
9	生物	2章 遺伝の規則性と遺伝子		卵細胞と精子、5種類の動物の親子、染色体の顕微鏡写真をもとに、親から子への生命のつながりが広く生物界で起こっており、今、わたしたちがいることはどうかを改めて思い起こさせ、生命はつながっているということへの関心を高めさせる。	・優性形質を現す親と劣性形質を現す親との間に生まれた子はすべて優性形質を現し、その間に生まれた孫は、優性形質を現すものと劣性形質を現すものが3:1の割合で生じることを理解させる。 ・遺伝のしくみは遺伝子が受けつがれることで説明できることを理解させる。 ・遺伝子の本体はDNAであり、遺伝子は不変ではなく変化することがあることを理解させる。 ・現在の遺伝子やDNAに関する研究やその研究成果がどのように利用されているかを知り、理解を深めさせる。

10	物理	1章 力のつり合い	2力がつり合う条件を見いださせ、2力のつり合いを理解させる。次に、合力を導入し、作図によって合力を求めることができるようになる。最後に、分力の求め方を理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・2力がつり合うために必要な3条件を実験によって見いださせる。 ・つり合っている2力の1つが与えられたとき、もう1つの力を発見できるようにする。 ・一直線上ではたらく2力の合力を、向きが同じ場合と反対の場合のそれぞれについて理解させる。 ・角度をもってはたらく2力の合力について、「力の平行四辺形の法則」を実験によって見いださせるとともに、定規を用いた作図にも習熟させる。 ・作図によって分力を求めることができるようになる。
11	物理	2章 物体の運動	記録タイマーやストロボ写真をもとに、物体の速さや運動の様子を調べる方法を身につけさせ、物体にはたらく力と運動との関係を理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・速さの求め方と速さの単位を理解させ、速さには平均の速さと瞬間の速さがあることを理解させる。 ・記録タイマーの使い方やテープの処理のしかたに習熟させる。 ・斜面を下りる台車の運動の実験を通して、力と運動の関係を理解させる。 ・平面上を動く物体にはまさつ力がはたらくことを理解させる。 ・力がはたらかないときに物体は等速直線運動をすることを理解させる。 ・慣性の法則を理解させ、慣性の法則で説明できる身近な現象に対して、興味・関心をもたせる。
12	物理	3章 仕事とエネルギー	仕事の量の求め方を理解させ、仕事の原理を見いださせる。また、仕事をする能力としてエネルギーを定義し、位置エネルギーや運動エネルギーの大きさと物体の高さや質量、速さとの関係を見いださせる。最後に、まさつ力や空気の抵抗がなければ力学的エネルギーが保存されることを理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事の量の求め方と単位J(ジュール)を理解させる。 ・道具を使っても使わなくても仕事の量は同じであること(仕事の原理)を見いださせる。 ・仕事率の求め方と単位W(ワット)を理解させる。 ・他の物体に仕事をする能力としてエネルギーを定義し、エネルギーには、位置エネルギーと運動エネルギーがあることを理解させる。 ・位置エネルギーと物体の高さや質量との関係、運動エネルギーと物体の速さや質量との関係を見いださせる。 ・位置エネルギーと運動エネルギーが互いに移り変わることに基づかせ、まさつ力や空気の抵抗がなければ力学的エネルギーは保存されることを理解させる。
1	物理	4章 多様なエネルギーとその移り変わり 5章 エネルギー資源とその利用	身のまわりにあるいろいろなエネルギーについて気づかせ、それらのエネルギーはどのように移り変わるか理解させるとともに、エネルギーの総量は一定に保たれることを理解させる。 人間は多様なエネルギー資源を消費して活動していることを知るとともに、将来にわたってエネルギー資源を確保し、安全で有効な利用と環境保全をはかることの重要性を認識させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな種類のエネルギーがあり、それらは互いに移り変わることができることを理解させる。 ・エネルギーは互いに移り変わっても総量は変化しないこと(エネルギー保存の法則)を理解させる。 ・エネルギーをすべて有効に利用できるわけではなく、利用効率を高めることの重要性を理解させる。 ・熱の伝わり方には、熱伝導や対流、熱放射があることを理解させる。 ・エネルギー資源のおもなものは何かを知らせ、それらが有限であることを理解させる。 ・エネルギー資源の多くは電気エネルギーに変換して利用されていることを、変換のしくみとあわせて理解させる。 ・放射線の性質と利用について理解させる。 ・新しいエネルギー資源や資源を有効利用する方法を理解させる。 ・資源の利用による環境問題に目を向けさせる。
2	環境	1章 自然界のつり合い 2章 人間と環境	植物、動物および微生物を栄養摂取の面から相互に関連づけて捉えたとともに、自然界では、これらの生物がつり合いを保って生活していることを見いださせる。 学校周辺の身近な自然環境について調べ、人間の生活が自然環境に影響を及ぼしていることを理解させるとともに、自然環境を保全することの重要性を認識させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自然界の生物の間には、食物連鎖が見られることを理解させる。 ・ある地域の生物の数量的な関係は、つり合いが保たれていることを見いださせる。 ・食物連鎖の数量的なつり合いの変化とその理由について理解させる。 ・落ち葉の下や土の中でも、落ち葉などを出发点とする食物連鎖があることを理解させる。 ・実験を通して、土の中の微生物は有機物を無機物に分解して生活していることを見いださせる。 ・炭素などの物質は、食物連鎖でつながっている生物とそれを取り巻く外界との間を循環していることに気づかせる。 ・人間は自然界の中の1つの生物であり、自然環境とさまざまなかわりをもちながら生活していることを理解させる。 ・学校周辺の水や空気などの自然環境を調べ、人間の生活が自然環境に影響を及ぼしていることを理解させる。 ・人間の活動が原因となっている環境問題について科学的に考察させるとともに、自然環境を保全することの重要性を理解させる。
3	環境	3章 自然が人間の生活におよぼす影響 4章 科学技術と人間 5章 科学技術の利用と環境保全	日本の自然について、今まで学習してきたことを思い出させ、さらに地域の自然を調査し、自然からの恵みと災害についての理解を深めさせる。自然現象の監視や防災・減災などについても調べ、自然との共生の在り方について考えさせる。 科学技術の発展の過程について、どのようなものがあるかを理解させ、さまざまな科学技術の利用によって人間の生活が豊かになったことを認識させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・地球表層の環境を考えさせ、人間がどのような所で生活しているかを理解させる。 ・地域の自然を調査させて、その自然による災害や恵みを調べさせる。 ・火山活動や地震がどんな所で起こっているかを思い出させ、それらが人々の生活にどのような影響を与えてきたかを考えさせるとともにその恵みについても理解させる。 ・火山活動や地震の災害をどのようにして防止、あるいは減少させることができるかを理解させる。 ・日本の気候変化の特徴を思い出させ、それらによる災害と恵みについて考えさせる。 ・自然をよく理解して適切に対応することによって、豊かな生活ができることに気づかせる。 ・科学技術の発展の過程を具体例をもとに理解させる。 ・新しい科学技術や素材の例を知らせ、それらによって、人間の生活が豊かで便利になったことを認識させる。
3	学習の振り返り		1年間で身についた力を確かめ、次の学年につなげる。	1年間の学びの内容と達成度を、自分自身で客観的に評価し、次の学年への課題を発見し報告書にまとめる。

3年英語		
使用教科書		COLUMBUS 21English Course BOOK3(光村図書) Q:Skills for Success Reading and Writing(Oxford)
補助教材		Another 80 More Conversations (ET Productions) 総合英語One Grammar Book (アルク) トーク・アンド・トーク・ライト Book 2(正進社)

年間総時数	175
目 標	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。
評 価	関心・意欲・態度…自己表現ノートや授業中のスピーキング活動の記録をもとに評価します。 外国語表現の能力…定期テスト内の書く力を測る問題や、スピーキングテストなどで評価します。 外国語理解の能力…定期テスト内のリスニングテストや読解の問題などで評価します。 言語・文化…授業内での単語テスト、文法テスト、定期テスト内の言語・文化の問題で評価します。

月	指導事項/指導領域	単元/教材	時数	学習目標	学習活動例	
4	聞く 話す 読む 書く	教科書 BOOK3	教科書のリスニングによる内容理解(Unit4~Unit7) 音声CD ピクチャーカード	15	教科書本文の内容理解をすることができる。 初見の英文(100語程度)をすばやく読み、概要を理解することができる。 読んだ英文に関して、自分のコメントを述べることができる。(7月頃まで継続)	教科書扉のQA。 ピクチャーカード並び替え。 教科書ストーリーをパートナーに伝える。 自分の言葉で教科書ストーリーを書く。 初見の英文を大まかに理解したあと、音読や会話につなげる。(7月頃まで継続)
5	聞く 話す 読む 書く	教科書 BOOK3	音読(Unit1~Unit7) 音声CD ピクチャーカード	10	理解した教科書本文を音読することができる。 音読できた本文を書き写すことができる。	音読 教科書本文書き写し
6	聞く 話す 読む 書く	教科書 BOOK3	文構造を意識したアウトプット (Unit1~7)	20	教科書の本文を、文構造を意識しながら再生することができる。 いろいろな文型に気づき、使い方を整理する。	穴あきリーディング 本文をもとにした自己表現活動
7						
8	聞く 話す 読む 書く	教科書 BOOK3	教科書の内容を使った retelling(Unit1~Unit7)	39	自分の言葉で、話の内容を伝えることができる。 既習事項を活用して、会話したり、英文を書いたりすることができる。 触れてきた英文をもとに、文法事項を整理し、ルールを理解することができる。	教科書のretelling活動(ペア、グループ、全体) 文法事項の確認(人称代名詞など)を含んだ言語活動
9						
10						
11						
12	聞く 話す 読む 書く	Oxford Q: Skills for Success Reading and Writing	教科書のリスニング・リーディングによる内容理解(10Lessonのうち5Lessonを扱う)	56	聞く活動や読む活動を通じ、本文の概要を大まかに理解することができる。 中学校の教科書で出会ってきた文構造のしくみに気づき、自分の表現に活かすことができる。	高校で学習内容を扱った発展的な教材を、自分の力で聞いたり読んだりする活動 大まかにつかんだ本文の流れにちなんだ内容を会話する活動 文型カードなどを用いて、過去に触れてきた文構造のしくみを確認する活動
1						
2						
3						

※年間を通じ週1時間、リスニング教材を使用した多聴、また、Graded Readersを使用した多読を展開。(35時間)
※総合英語One Grammar Book を利用した問題演習(家庭学習)

3年音楽	
使用教科書	中学生の音楽(上、下)教育芸術社) 中学器楽、音楽のおくりもの(教育出版)
補助教材	新版「コーラスフェスティバル」

年間総時数	35
目 標	(1)音楽への関心・意欲・態度について ・音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。 (2)表現の能力について ・基礎的な表現の技能を身に付け、多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り創意工夫して表現する能力を育てる。 (3)鑑賞の能力について ・多様な音楽のよさや美しさ味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。
評 価	(1)学習活動への参加の仕方や態度、レポート等で評価します。 (2)授業への取り組みや実技テストで評価します。 (3)鑑賞の態度、鑑賞レポート等で評価します。 (4)定期テストを実施し、評価の対象とします。

月	指導事項/ 領域	単元/教材	時数	学習目標	学習活動例
4	オリエンテーション 歌唱、器楽	花、アルト笛(イエスタデイ)	3	旋律のフレーズを考えて歌唱する。良い発声を学ぶ。アルト笛の連指	歌唱、リコーダーの練習。
5	鑑賞、歌唱	「アランフェス協奏曲」、各クラスの合唱曲	3	協奏曲についての理解。独奏楽器とオーケストラとの関係、ギターの色、奏法を理解する。発声の方法を再確認する。	パートを決め、練習。鑑賞しレポートをまとめる。リコーダーテスト
6	歌唱	各クラスの合唱曲、歌唱テスト。	4	音程をしっかりと美しい、ハーモニーを作る	全体で合わせ、良く聞き合う。美しいハーモニーを感じて合唱する。表現力を高める。
7	歌唱、器楽	「花」「イエスタデワンスモア」	3	詩の言葉の意味をよく理解し日本語の抑揚に適した表現。リコーダーの連指と表現。	日本語の抑揚を生かした表現をする。アルトリコーダーの連指、呼吸をそろえた演奏の練習。
8	歌唱、	「花の街」	1	美しい旋律の表現。	日本語を生かした表現をする。
9	歌唱、器楽	「帰れソレントへ」 イエスタデワンスモア」	3	イタリア語の発音の理解。カンツォーネの理解。曲の速度の変化、転調を生かした表現の効果。4重奏を楽しむ	良い発声で、曲の特徴をとらえて表現をする。4つのメロディの重なりをよく聞き取りながらアンサンブルを楽しむ
10	歌唱、鑑賞	歌唱テスト オペラ「アイーダ」	3	総合芸術「オペラ」についての理解。物語の内容を理解し、オーケストラ、歌唱、演技、ダンス、パレー、舞台美術などの学習。イタリア語での歌唱を学習する	鑑賞をしてレポートをまとめる。イタリア語の歌唱を学び表現する喜びを感得する
11	鑑賞、器楽	オペラ「アイーダ」「イエスタデワンスモア」	4	楽器音色など特色や役柄などとの関連を理解する リコーダーテスト	鑑賞をしてレポートをまとめる。リコーダーの練習
12	歌唱 鑑賞	「早春賦」 ブルタバ	3	アンサンブルを楽しむ。日本語を生かした歌曲を理解する。曲の作られた背景を学習して作曲者の思いをよく理解する	日本語の抑揚に注意する。歴史の背景を理解して鑑賞しレポートをまとめる
1	歌唱	合唱曲、「大地讃頌」「卒業式の歌」	3	卒業に向かってのまとめの歌を学年全体で表現、演奏できるようにする。	各パートを決めて練習する。
2	歌唱	合唱曲、「大地讃頌」	2	混声4部合唱の豊かなハーモニーを感じて良い発声で歌う。	パートリーダーを中心に、より質の高い透明感のある豊かなハーモニーをめざす。
3	歌唱	歌唱テスト	3	良い発声で表現力を高める。	4重唱をする。他のパートを聞きながらハーモニーを感じて歌う。

3年美術	
使用教科書	「美術2.3」(日本文教出版株式会社)
補助教材	美術資料「神奈川の美術」(秀学社)

年間総時数	35
目 標	(1)美術への関心・意欲・態度について ・表現や鑑賞の活動を通してすすんで創作活動に取り組み、美術を愛好する心と豊かな情操を育てる。 (2)発想・構想の能力について ・対象を深く見つめて感じとり、想像力を高め、豊かな発想や構想する力を育てる。 (3)創造的な技能について ・美術の基礎的な能力を伸ばし、意図に応じて創意工夫する力を育てる。 (4)鑑賞の能力について ・美術作品や文化財に親しみ、造形的な美しさや作者の心情、意図、表現の工夫を感じ味わう態度を育てる。
評 価	(1)学習活動への参加の仕方や態度、提出作品やレポート等で評価します。 (2)授業への取り組みや提出作品で評価します。 (3)授業への取り組みや提出作品で評価します。 (4)鑑賞の態度、鑑賞レポート等で評価します。

月	指導事項/ 領域	単元/教材	時数	学習目標	学習活動例
4	オリエンテーション	美術の授業について	1	1年間の授業計画、課題、目標を明らかにする。	授業計画の把握
5	A表現	絵画模写 (作品提出)	10	元となる原画を観察し、表現方法を学ぶ	制作
6					
7					
8	A表現	木目込みの穂のデザイン	3	美しい配色や形を考えてデザインする (アイデアスケッチ)	制作
9	B表現	木目込みの穂の制作	9	伝統技法の「木目込み」を学ぶ	制作
10					
11					
12	A表現	木目込みの穂のデザイン (作品提出)	2	決定案のデザインスケッチ (提出用)を描く	制作
1	B表現	木目込みの穂の制作 (作品提出)	10	伝統技法の「木目込み」を学ぶ	制作
2					
3					

3年保健体育	
使用教科書	中学保健体育(学研)
補助教材	中学体育実技(学研) 新体力テスト(第一学習社)

年間総時数	105
目 標	(1)「自ら学ぶ」ために、種目を選択して練習計画を立て、仲間とともにスポーツを楽しむ態度を身につける (2)生涯にわたって計画的に運動に親しむことができる資質や能力を育てる。 (3)生涯にわたって健康を保持増進できる資質と能力を育てる。
評 価	(1)運動や健康・安全への関心・意欲・態度 (2)運動や健康・安全についての思考・判断 (3)運動の技能 (4)運動や健康・安全についての知識・理解 ※(1)～(4)の項目それぞれにおいて、活動への取り組み、学習カード、自己評価の記録、授業内での質疑、提出物、定期テストなどで評価します。

月	指導事項/ 領域	単元/教材	時数	学習目標	学習活動例
4 5	オリエンテーション ・新体力テスト 体づくり運動	体育学習の進め方 各体力テスト種目 跳躍運動から1種目選択 体ほぐしの運動 体力を高める運動	1 8	・自分自身の体力の状況を分析し、課題に応じて合理的な運動の実践のしかたを理解する。	・体力テストの結果から、自分の体力を高める運動メニューを作成する。 ・日常生活に活かせるリラクゼーション
5 6	○陸上競技 ○器械運動 ※1単元選択 保健 体育理論	<陸上> 走運動から1種目選択 跳躍運動から1種目選択 <器械運動> ・マット運動、跳び箱運動 <保健> ・健康の成立 <理論> ・文化としてのスポーツ①	15 2 1	・走運動、跳躍運動における合理的なフォームを身につけ、自己の記録を向上させる。 ・回転系や巧技系の基本的な技をなめらかに行うことができる。 ・技を組み合わせ、自分の演技構成をすることかできる。 ・健康の成立条件を理解し、主体と環境の関わりについて知識を深める。 ・現代社会におけるスポーツの文化的意義を理解する。	<短距離走>50m走、100m走 <長距離走>1000m走、1500m走 <ハードル走>50mハードル <走り幅跳び>跳躍の助走～踏切練習 <走り高跳び>空中フォームの練習 ・記録会 <マット運動、跳び箱運動> ・できる技のチェック ・課題別学習活動 ・5種目以上の技を組み合わせた演技構成
7	保 健 水 泳	・運動と健康、食生活、栄養・睡眠と健康 クロール 平泳ぎ、背泳ぎ	4 4	・健康にかかわりのある運動、栄養、睡眠の基本的な働きを知り、日常生活において適切な方策を立てることができる。 ・自己の能力に応じた泳法を身につけ、より速く泳げるようにする。	・食生活振り返りシート ・コース別学習 ・タイムトライアル
8 9	水 泳	クロール 平泳ぎ、背泳ぎ	6	・自己の能力に応じた泳法を身につけ、より速く泳げるようにする。	・コース別学習 ・タイムトライアル
9 10 11	○ベースボール型 ○ゴール型 ○武 道 ※1種目選択 保健 体育理論	<ソフトボール> <バスケットボール> <柔 道> <保健>・生活習慣病とその予防 ・飲酒、喫煙と健康 <理論> ・文化としてのスポーツ②	17 4 1	・連係プレイによる守備など、集団的スキルを身につけてゲームを行うことができる。 ・基本的技能に加えて、意図的な攻撃・守備など集団的スキルを身につけ、作戦を立ててゲームを行うことができる。 ・安全な投げ技と固め技を身につけ、相手との攻防を行うことができる。 ・簡易な試合形式で、学習した技を出し合うことができる。 ・三大死因につながる疾病とその要因となる生活習慣との関わりを理解し、予防するための実践力を身につけることができる。 ・国際的なスポーツ大会とその役割について理解する。	・ティーボールバッティング ・ベースランニング、フォースプレーの基本練習 ・ゲーム ・課題別練習 ・チームの特徴にあった攻撃方法、守備方法を活かしたゲーム ・約束練習 ・簡易試合 ・調べ学習、発表会
11 12 1	○ネット型 ○ゴール型 ○武 道 ※1種目選択 保健 体育理論	<バレーボール> <サッカー> <柔 道> <保健> ・感染症とその予防 ・医療機関、医薬品の有効活用 <理論> ・文化としてのスポーツ③	17 6 1	・基本的技能に加えて、意図的な攻撃・守備など集団的スキルを身につけ、作戦を立ててゲームを行うことができる。 ・安全な投げ技と固め技を身につけ、相手との攻防を行うことができる。 ・簡易な試合形式で、学習した技を出し合うことができる。 ・感染症の発生要因と、その予防をするための実践力を身につけることができる。 ・人々を結びつけるスポーツの役割について理解する。	・サーブ、レシーブ、スパイクの課題別練習 ・チームの特徴にあった攻撃方法、守備方法を活かしたゲーム ・課題別練習 ・チームの特徴にあった攻撃方法、守備方法を活かしたゲーム
2 3	○ネット型 ○武 道 ※1種目選択	<卓球> <バドミントン> <柔 道>	18	・ストローク、ショット、サービスの基本スキルを身につけ、ゲームを行うことができる。 ・安全な投げ技と固め技を身につけ、相手との攻防を行うことができる。 ・簡易な試合形式で、学習した技を出し合うことができる。	・チームの特徴にあった攻撃方法、守備方法を活かしたゲーム ・ダブルスゲーム リーグ戦

3年技術家庭 (技術分野)				年間総時数	17.5時間
使用教科書	新しい技術・家庭(技術分野) (東京書籍)			目 標	<ul style="list-style-type: none"> 生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。 ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、生物育成に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。
補助教材	新技術・家庭資料集(新学社)			評 価	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容に関心を持ち、進んで取り組んでいる。 積極的に発問に答えようしたり、意欲的な発言をする。 授業ノートや観察ノートをきちんと整理し、創意工夫をしている。 作業を能率よく進められる。 自己評価カード 定期テスト
月	指導事項/ 領域	単元/教材	時数	学習目標	学習活動例
4	生物を育てる技術の特徴	人・生物・環境のかかわり	3	植物の生育に適する条件や生育環境を管理する技術を学ぶ。	植物栽培のための土・肥料・水やりなどについての基礎知識を身につけ、生育に応じた栽培管理の仕方を理解する。
5	生物を育てる目的と技術	植物を育てる目的と技術を知る	4	人間が栽培をする目的と、その技術を知る。また植物においての必要な環境と要素を学び実践する。	田畑で栽培する植物の特徴を知り、ハウス栽培やスプラウトなどについての知識も身につける。
6	生物を育てるための計画と管理	植物の育成計画 野菜栽培セット 観察の記録	4	目的や条件に応じた栽培の計画を立て、成長の変化を観察し、適切に管理作業をする。	栽培計画の必要性を知り、学習した基礎知識を生かして、栽培計画を立てる。
7	生物を育てるために必要な条件	プランターでの栽培管理 観察の記録	4	植物を育てる技術が社会や環境に果たしている役割と影響について考える	観察記録の内容や記録の仕方を工夫し、よりよいものを作ろうとする。
8,9	生物を育てる技術の評価と活用	観察の記録 自己評価カード	3	自然の生態系を維持し持続可能な社会を築くために、技術を適切に評価し活用する。	観察の記録及び自己評価カードの記入。
10	家庭分野				
11					
12					
1					
2					
3					

3年技術家庭 (家庭分野)			年間総時数	17.5
使用教科書	新しい技術・家庭 家庭分野 (東京書籍)		目 標	(1)生活や技術への関心・意欲・態度について ・自分や家族の生活に関心を持ち意欲的に学び、技術を習得し、実践する態度を育てる。 (2)知識・理解について ・人の生活や環境に関する知識を身につけ、自分の生活と関連付けて考えたり説明したりする力を育てる。 (3)生活の技能について ・実習に際し、必要な用具を適切に使用し、安全に配慮しながら適切な操作ができる力を育てる。 (4)創意・工夫について ・家族の生活について見直し、課題を見つけ、その解決を目指して家庭生活をよりよくなるために工夫し創造する力を育てる。
補助教材	新技術・家庭資料集 (新学社)		評 価	(1)学習活動への参加の仕方や態度、提出物や自己評価表等で評価します。 (2)定期テストやワークシートで評価します。 (3)提出作品や実習活動等で評価します。 (4)レポートや提出作品、発表活動などで評価します。 ※家庭分野は技術家庭科として、技術分野とあわせて評価します。

月	指導事項/ 領域	単元/教材	時数	学習目標	学習活動例
4					
5					
6					
7					
8					
9					
技術分野					
10	家族	家族の機能 家族の多様化・少子化	4	家族の機能を知る。現代の多様化する家族構成や少子化について現状を知り、問題点と解決方法を探る。	グループ討議
11	幼児	幼いころの振り返り・心身の発達 心身の発達	4	自分の成長から心身の発達を振り返り、子どもが心身健康に発達するために必要なことを学ぶ。	自分史
12	幼児	基本的な生活習慣・社会的な生活習慣	3	人間の発達自立の観点から、幼児の基本的な生活習慣を身につける方法と、社会性を伸ばす方法を考える。	ロールプレイ(朝の習慣) ロールプレイ(集団遊び)
1	幼児の生活と遊び	幼児の生活と遊び 幼児の遊び・折り紙作り	4	幼児の遊びは心身の発達や社会性を伸ばすことに重要であることがわかる。指先の器用さを伸ばす能力として折り紙を通して構成遊びを体験する。	保育園実習 折り紙作り、絵本の読み聞かせ
2	幼児の食事	幼児のおやつ計画 幼児のおやつ実習	3	幼児の栄養や食事の特徴を知り、実際におやつ作りを通して学ぶ。	幼児のおやつ実習
3	子どもと家族	家族の信頼関係	3	子どもが健康に安心して生活できる家庭・家族とは何か考える。	ロールプレイ(家族)

3年特別活動	年間総時数35
特別活動の目標	集団生活を通して、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育て、人間としての生き方について自覚を深め、自己を生かす能力を育てます。
学級活動 生徒会活動 学校行事 の目標	○学級活動を通して集団の一員として、よりよい生活づくりに参画し、自主的・自発的に課題を解決しようとする態度を育てます。 ○生徒会活動を通してのぞましい人間関係を形成し、協力して諸課題を解決しようとする態度を育てます。 ○学校行事を通して集団への連帯感を深め、公共の精神、よりよい学校生活を築こうとする態度を育てます。

内容

月	主な行事	活動・題材	ねらい	学級活動の内容(例)	他教科等との関連
4	始業式 入学式	3年生になって 1年間の目標を表そう。 学級組織、学級目標作り	中学校生活に対する抱負や目標を立て、中学生としての自覚をもつ。	・3年生になって(作文) ・自己紹介 ・学校生活のルール ・学級目標、組織作り ・生徒会の心得・生徒会委員選出	学級活動 EGG
5	体育祭 生徒総会	生徒会総会に向けて 体育祭への取組	・生徒総会への関心をもち、生徒会の一員としての自覚をもつ。 ・体育祭の意義、目的を理解する。	・集団作り、人間関係作り ・体育祭の種目について ・学級旗作り ・生徒総会の意義、参加について	
6	合唱コンクール	合唱コンクールへの取組 体育祭への取組 研修旅行への取組	・合唱コンクールの意義や目的を理解し、一人ひとりが果たせる役割を考える。 ・体育祭への意義、目的を確認し、積極的に参加する。 ・カナダ研修旅行に向けて、目的や係の仕事を話し合う。	・体育祭の振り返り ・合唱コンクールへの取り組み ・カナダ研修旅行に向けて ・1学期末試験に向けて	(音楽科:合唱コンクール)
7		夏休みの計画 研修旅行への取組 文化祭への取組	・定期試験を振り返り、計画的な学習の必要性を理解する。 ・学習面、生活面ともに、有意義な夏休みを過ごすことができるようにする。	・合唱コンクールの振り返り ・夏休みの過ごし方 ・文化祭展示の部の参加 ・1学期の振り返り	EGGゼミ、南高祭への展示
9	南高祭	防災安全学習 文化祭:展示の部への参加 研修旅行への取組	・防災訓練の意味を理解し、日頃から安全に気をつけて生活するよう心がける。 ・南高祭の意義、目的を確認し、学年としての有意義な参加ができるよう考える。	・災害時の安全確保 ・文化祭展示の部への取り組み ・カナダ研修旅行事前学習	EGGゼミ、南高祭への展示
10		研修旅行への取組 学級組織再編	・よりよい集団作りを目指して、学級での自分の役割を考える。	・カナダ研修旅行の結団式、解団式 ・学級活動の見直し	
11	生徒会役員選挙	生徒会役員選挙 保健指導 進路指導	・生徒会活動についての理解と関心を高め、よりよい生徒会活動になるよう、協力する。 ・男女ともに互いの成長を認めあえるよう、協力する。 ・進路指導を通して、進学への興味関心を育てる。	・生徒会役員選挙に向けて ・保健指導(思春期の心と体) ・進路指導(大学見学) ・2学期末試験に向けて	
12		冬休みの計画 将来の夢	・生活面、学習面ともに、規則正しい冬休みの生活をおくることの重要性を理解する。 ・自らの意志と責任で進路選択をすることの重要性を理解する。	・冬休みの過ごし方 ・働く目的と意義を考える ・百人一首大会に向けて ・2学期の振り返り	EGG、キャリア教育
1	百人一首大会	新年を迎えて 百人一首大会への取組 いろいろな職業	・学級の仲間と協力し、互いに競い、高め合うことの大切さを理解する。 ・さまざまな職業について知り、働く目的、意義について考える。	・新年の抱負 ・百人一首大会 ・働く目的と意義を考える	(国語科:百人一首大会) EGG、キャリア教育
2		友だちへの思い 自己をみつめる	・自分の良い面を積極的に伸ばし、周囲の人とより良い関係を築くように心がける。	・より良い友だちとの関係 ・学級活動の見直し、自分の長所・短所を知る	
3	修了式	1年間の反省 高校生活に向けて	・1年間の活動を振り返り、集団生活の向上について考える。 ・生活面、学習面ともに高校生活の目標を考える。	・お世話になった身近な人への感謝 ・1年間の振り返り ・卒業式に向けて ・高校生活に向けて	

3年道徳	年間総時数35
使用するテキスト	「私たちの道徳」「生きる」「明日をひらく」(東京書籍)
道徳の目標	<p>A主として自分自身に関すること 自己の在り方を自分自身との関わりで捉え、望ましい自己の形成を図る。</p> <p>B主として人との関わりに関すること 自己を人との関わりにおいて捉え、望ましい人間関係の構築を図る。</p> <p>C主として集団や社会との関わりに関すること 自己を様々な社会集団や郷土、国家、国際社会との関わりにおいて捉え、国際社会と向き合いことが求められているという自覚に立ち、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な道徳性を培う。</p> <p>D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること 自己を生命や自然、美しいもの、気高いもの、崇高なものとの関わりにおいて捉え、人間としての自覚を深める。</p>

内容

月	内容項目・主題	ねらい	教材例(自分を見つめる/他)	他教科等との関連
4	A-3 個性の伸長 C-15 よりよい学校生活	・自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして、充実した生き方を追求する。・教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員として自覚をもち協力し合ってよりよい校風をつくるとともに、様々な集団の充実に努める態度を養う。	「未来予想図」 「他者紹介カルタ取り」	学級活動
5	B-6 思いやり 感謝 C-18 国際理解 国際貢献 C-13 勤労	・思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深める。 ・世界の中の日本人としての自覚を持ち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与する態度を養う。	「なぞのマラソンランナー」 「国際平和のために、今自分にできること」	体育祭 合唱コンクール 進路
6	D-21 感動 畏敬の念 C-13 勤労	・美しいものや気高いものに感動する心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。 ・勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献する態度を育てる。	「伝えよう、合唱のイメージ」 「私の価値観と職業選択」	よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト
7	B-7 礼儀 C-14 家族愛 家庭生活の充実	・礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。 ・父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。	「もしもあなたが親ならば」 「4つのコーナー」	人権作文コンテストに応募
9	C-12 社会参画 公共の精神 B-7 礼儀	・社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努める態度を養う。 ・礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。	「4つのコーナー」 「励ましい高めあえる生涯の友を・あなたの良いところベスト3」	
10	D-19 生命の尊さ B-6 思いやり 感謝	・生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重する態度を養う。 ・思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深める。	「あなたは どう思いますか？」	カナダ研修旅行
11	C-16 郷土の伝統と文化の尊重	・郷土の伝統と文化を大切に、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努める態度を養う。	「料理人たち 炎の東京オリンピック」	
12	C-14 家族愛 家庭生活の充実 A-5 真理の探究 創造	・父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。 ・真実を大切に、真理を探究して新しいものを生み出すと努める態度を養う。	「男女がともに生きていくために」 「2つの報道」	
1	C-17 我が国の伝統と文化の尊重 C-11 公正 公平 社会正義	・優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展に努める態度を養う。 ・正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努める態度を養う。	「百人一首大会に向けて」 「『暴力の芽』を考えよう」	百人一首大会
2	C-18 国際理解 国際貢献 B-9 相互理解 寛容 A-1 自主 自律 自由と責任	・世界の中の日本人としての自覚を持ち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与する態度を養う。 ・自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自ら高めていく態度を養う。	「貧困はどこから」 「ブラインドウオーク」	
3	D-20 自然愛護 D-22 よりよく生きる喜び	・自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努める態度を養う。	「季節を感じよう！」 「これから生きていくために大切なことは」	

平成30年度 評価・評定について

本校では「評価」及び「評定」について、次のように進めています。

○観点別学習状況の評価（観点別評価）

観点ごとに評価規準を設定し、生徒の学習の状況の評価します。評価規準とは、学習指導のねらいが実現された時の生徒の状況を具体的に示したものです。評価規準に沿ってその実現状況を“A°” “A” “B” “C°” “C”の5段階で示します。

全ての生徒に身につけてほしい内容を“B”規準として、設定しています。

また、評価する方法は、ノート、レポート、ワークシート、作品、テスト、観察など多様な方法があり、各教科で最も適切と考えられるものを選択して行います。

A°	：「十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの」
A	：「十分満足できると判断されるもの」
B	：「おおむね満足できると判断されるもの」
C°	：「努力を要すると判断されるもの」
C	：「一層努力を要すると判断されるもの」

○観点別学習状況の評価から評定への導き方

観点別学習状況の評価を次のように点数化し、各教科で5段階の評定を行います。

A° = 5点、A = 4点、B = 3点、C° = 2点、C = 1点

評定	4 観点の教科（国語以外）	5 観点の教科（国語）
5	20点～18点	25点～22点
4	17点～14点	21点～18点
3	13点～11点	17点～13点
2	10点～8点	12点～9点
1	7点～4点	8点～5点

○3学期制の連絡票記載について

連絡票の評価・評定欄については、1学期は4月～7月、2学期は4月～12月、3学期は4月～3月とそれぞれ累積された評価・評定が記載されます。

ただし、前期後期（4～9月／10～3月）で学習分野が変わる技術・家庭科については、1,2学期は前期で取り組んだ分野のみの評価・評定を記載し、3学期に両分野を合わせた評価・評定を記載することとします。

○道徳の評価について

道徳の評価は生徒が記入した「道徳 学びの記録」をもとに面談等の機会にご家

庭にお知らせします。

5 日課表 及び年間予定授業時数

<日課表>

	平常授業	短縮授業
学活	8:30～ 8:40	8:30～ 8:40
1校時	8:45～ 9:35	8:45～ 9:30
2校時	9:45～10:35	9:40～10:25
3校時	10:45～11:35	10:35～11:20
4校時	11:45～12:35	11:30～12:15
昼休み	12:35～13:15	12:15～12:55
予鈴	13:15	12:55
5校時	13:20～14:10	13:00～13:45
6校時	14:20～15:10	13:55～14:40
7校時	15:20～16:10	14:50～15:35
学活	15:10～15:20 16:10～16:20	14:40～14:50 15:35～15:45
清掃	15:20～15:35 16:20～16:30	14:50～15:05 15:45～15:55
下校時刻	4月～9月 18:00 10月～3月 17:30	

<年間予定授業時数>

7月末予定

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	外国語	道德	総合	特活	総授業時数
1学年	65	39	65	39	19	19	39	26	65	14	40	22	452
2学年	66	40	66	52	14	14	40	27	66	15	42	16	458
3学年	66	60	66	52	14	14	40	14	66	15	42	16	465

12月末予定

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	外国語	道德	総合	特活	総授業時数
1学年	150	81	135	85	45	45	88	59	150	27	75	35	975
2学年	149	80	134	120	30	29	89	58	149	28	76	47	989
3学年	149	120	134	120	30	29	89	30	149	28	70	40	988

3月末予定

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	外国語	道德	総合	特活	総授業時数
1学年	175	105	175	105	52	52	105	70	175	35	91	43	1183
2学年	175	105	175	140	35	35	105	70	175	35	92	54	1196
3学年	175	140	175	140	35	35	105	35	174	35	82	50	1181

平成 30 年度 学校保健計画

- ①目 標 : 健康で安全な学校生活を送るために、主体的に考える態度と実践力を身に付け、よりよい社会の一員となるための資質を培う
- ②重 点 : ・自分の心身の健康について関心を持ち、健康状態を自ら相手に伝えることができる
 ・自分の心身の健康状態を理解し、健康的なライフスタイルを創造しようとする態度を培う
 ・清掃美化活動の充実と、意識の向上を図る

	4月	5月	6月	7・8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
目 標	健康診断を通して自分の体に関心を持つ	心の健康を考えよう	規則正しい生活をしよう	夏を健康に過ごそう	健康生活を見直そう	正しい姿勢で目の健康を守ろう	寒さに負けない体力をつけよう	冬の健康について考えよう	風邪やインフルエンザを予防しよう	心の健康に気をつけよう	一年間の反省をしよう
保 健 教 育	<ul style="list-style-type: none"> 保健室の利用の仕方 健康診断の事前指導 清掃指導 校外学習の指導 	<ul style="list-style-type: none"> 健康な生活 健康診断の受け方 	<ul style="list-style-type: none"> 梅雨期の衛生 個性の伸長 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みの健康<保健学習> タバコ (1年) アルコール、心肺蘇生法 (2年) 薬物 (3年) 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みの健康管理の反省 かけがえのない生命 	<ul style="list-style-type: none"> 目の健康 宿泊行事における健康管理 	<ul style="list-style-type: none"> 風邪の予防 	<ul style="list-style-type: none"> 冬休みの健康 	<ul style="list-style-type: none"> 風邪、インフルエンザの予防 	<性教育> <ul style="list-style-type: none"> 性機能の成熟 (1年) 心の変化 (2年) エイズ (3年) 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の健康生活の反省
保 健 管 理	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察 健康相談 応急処置 健康診断 健康診断事後措置 保健調査票回収 校外学習の健康管理 要配慮生徒把握 食物アレルギー生徒把握 出席停止措置 保健室利用状況確認 水質検査 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察 健康相談 応急処置 健康診断事後措置 出席停止措置 水質検査 保健室利用状況確認 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察 健康相談 応急処置 健康診断事後措置 定期健康診断結果まとめ 水質検査 出席停止措置 照度検査 保健室利用状況確認 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察 健康相談 応急処置 大掃除ワックス 健康診断票記入 環境整備 水質検査 プール水質検査 出席停止措置 教室の空気検査 保健室利用状況確認 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察 健康相談 応急処置 結核健診実施報告 出席停止措置 プール水質検査 水質検査 ダニアレルギー検査 保健室利用状況確認 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察 健康相談 応急処置 教室内の環境整備 出席停止措置 水質検査 宿泊行事における健康管理 保健室利用状況確認 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察 健康相談 応急処置 手洗い、うがいの強化 出席停止措置 水質検査 保健室利用状況確認 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察の強化 健康相談 応急処置 健康観察の強化 大掃除ワックス 出席停止措置 水質検査 保健室利用状況確認 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察の強化 健康相談 応急処置 次年度の健康診断日程調整 水質検査 出席停止措置 照度検査 保健室利用状況確認 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察の強化 健康相談 応急処置 出席停止措置 カーテン洗濯 水質検査 教室の空気検査 保健室利用状況確認 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察の強化 健康相談 応急処置 一年間のまとめ 来年度の見直し 大掃除 出席停止措置 カーテン洗濯 水質検査 保健室利用状況確認 保健調査票返却
組 織 活 動	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健計画立案 定期健康診断運営 保健だより 清掃方法、用具確認 災害給付申請 登校支援アプローチプラン立案 	<ul style="list-style-type: none"> 保健だより 災害給付申請 登校支援アプローチプラン運営 体育祭での救護 	<ul style="list-style-type: none"> 合唱コンクールでの救護 保健だより 災害給付申請 登校支援アプローチプラン運営 	<ul style="list-style-type: none"> 保健学習計画 大掃除計画 保健だより 薬物乱用防止教室の計画 災害給付申請 登校支援アプローチプラン運営 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭での救護 保健だより 災害給付申請 登校支援アプローチプラン運営 	<ul style="list-style-type: none"> 保健だより 災害給付申請 登校支援アプローチプラン運営 心の学習教室計画 	<ul style="list-style-type: none"> 保健だより 災害給付申請 登校支援アプローチプラン運営 心の学習教室実施 学校保健委員会計画 	<ul style="list-style-type: none"> 大掃除計画 保健だより 災害給付申請 登校支援アプローチプラン運営 心の学習教室実施 学校保健委員会 	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健委員会運営 保健だより 災害給付申請 登校支援アプローチプラン運営 	<ul style="list-style-type: none"> 性教育計画 保健だより 災害給付申請 登校支援アプローチプラン運営 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の反省 次年度の計画 大掃除計画 保健だより 災害給付申請 登校支援アプローチプラン見直し

平成30年度 学校安全計画

南高等学校附属中学校

① 目標 : 健康で安全な学校生活を送るために、主体的に考える態度と実践力を身に付け、よりよい社会の一員となるための資質を培う。

② 重点 : 防災についての意識を深め、自他ともに安全な学校生活が送れるよう、実践力を培う。

	4月	5月	6月	7・8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
目標	避難経路の確認をしよう	登下校の安全に気をつけよう	梅雨の時期を安全に過ごそう	夏休み中の安全に気をつけよう	防災について考えよう	教室の環境整備	施設設備の安全管理に気をつけよう	火災について考えよう	冬の安全な過ごし方	教室の環境整備	今年度の反省
安全教育	<ul style="list-style-type: none"> 災害発生時の心得 校外学習時の安全 避難経路確認 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時の安全 公共交通機関利用のマナー 	<ul style="list-style-type: none"> 梅雨時期の休み時間の過ごし方 合唱コンクール時の安全 体育祭時の安全 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み中の安全な過ごし方 方面別集団下校の確認 携帯、ネット使用時の安全 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭時の安全 災害発生時の心得 	<ul style="list-style-type: none"> 教室での安全な過ごし方 宿泊行事の安全 	<ul style="list-style-type: none"> 安全な学校生活について考えよう 	<ul style="list-style-type: none"> 換気の必要性 冬休みの安全な過ごし方 	<ul style="list-style-type: none"> 換気の必要性 教室での安全な過ごし方 	<ul style="list-style-type: none"> 換気の必要性 1年間の安全生活の反省 春休みの安全な過ごし方 	
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検 校外学習時の安全管理 避難経路確認訓練 教室内の環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> 教室内の環境整備 体育祭時の安全管理 	<ul style="list-style-type: none"> 梅雨時期の安全管理 合唱コンクールでの安全管理 教室内の環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検 教室内の環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭時の安全管理 教室内の環境整備 総合防災訓練 	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検 教室内の環境整備 宿泊行事の安全管理 	<ul style="list-style-type: none"> 暖房器具の点検 教室内の環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> 暖房と換気の管理 消火設備器具の点検 教室内の環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検 暖房と換気の管理 消火設備器具の点検 教室内の環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> 暖房と換気の管理 消火設備器具の点検 教室内の環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> 暖房と換気の管理 消火設備器具の点検 教室内の環境整備
組織活動	<ul style="list-style-type: none"> 学校安全計画の立案 「防災カード」の集約 非常持ち出し用品の確認 防災計画の作成、運営 メール配信システムの整備 避難訓練の計画、運営 防災委員会開催 	<ul style="list-style-type: none"> 防災委員会開催 	<ul style="list-style-type: none"> 防災委員会開催 	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練の計画 非常持ち出し用品の確認 防災委員会開催 	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練の運営 防災委員会開催 		<ul style="list-style-type: none"> 暖房計画 職員防災研修 防災委員会開催 		<ul style="list-style-type: none"> 防災委員会開催 	<ul style="list-style-type: none"> 防災備蓄庫の整理 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の反省 次年度の計画 非常用持ち出し用品の確認 防災委員会開催

1 4 学校防災・学校防犯計画

平成30年度

横浜市立南高等学校附属中学校防災計画

横浜市立南高等学校附属中学校

「横浜市立南高等学校附属中学校防災計画」 目次

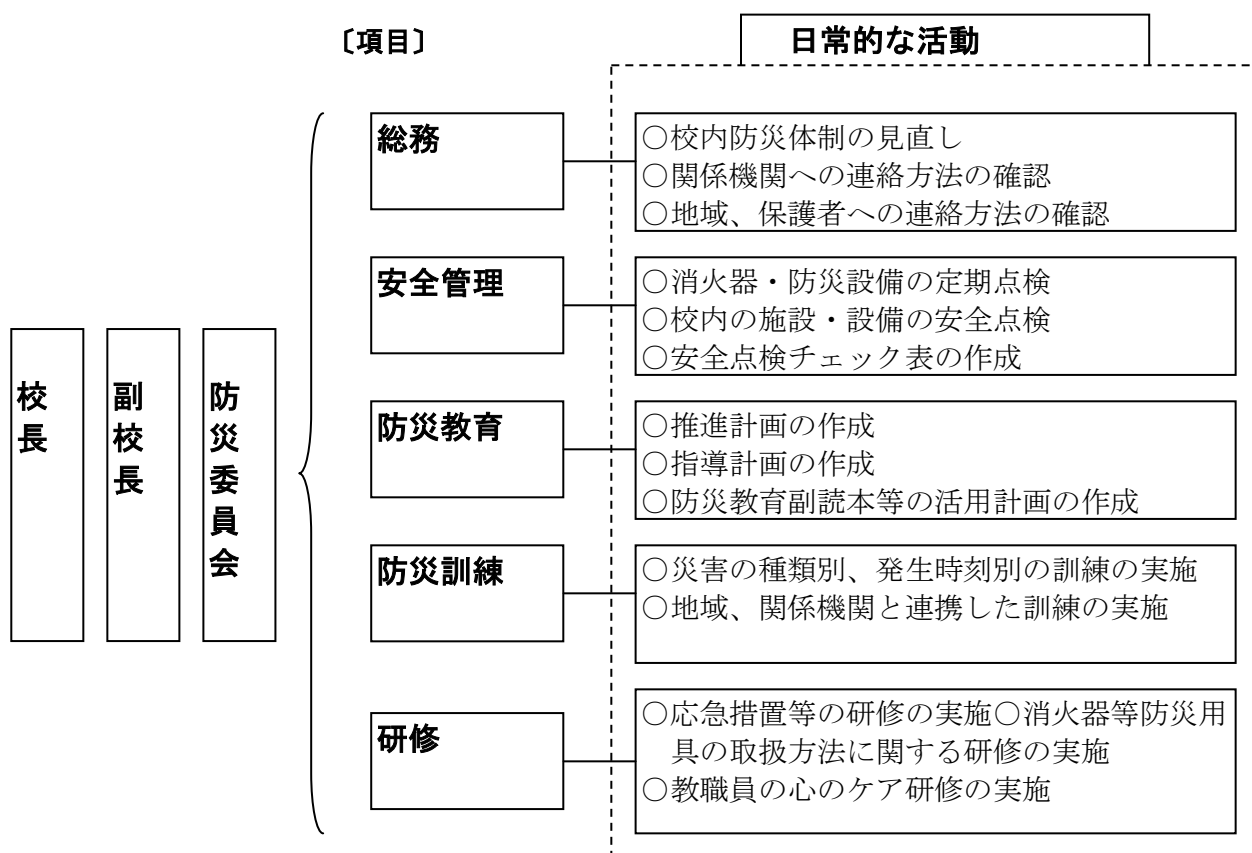
1	日常の防災体制	1
	（1）学校防災委員会の設置	1
	（2）学校の安全点検	2
	①定期的な安全点検の実施	
	②転倒物、重量物等の転倒防止対策	
	③防災設備等の点検	
	④避難経路の点検	
	（3）防災教育（年間指導計画）	3
	（4）防災訓練（年間実施計画）	3
	（5）教職員校内研修（年間計画）	3
	（6）心のケア対応（教職員研修計画）	3
2	東海地震に関連する情報や警戒宣言発表時の生徒への対応	4
	（1）「東海地震に関連する情報」	4
	（2）横浜市の基本的対応	4
	（3）「東海地震注意情報」発令時の対応	5
	①南高校・南高校附属中学校職員配置	
	②南高校附属中学校がとるべき措置	
	（4）「東海地震余地情報」「警戒宣言」発令時の対応	6
	①南高校職員の配備体制および学校災害対策本部の設置	
	②「警戒宣言」発令時において学校がとるべき措置	
3	大規模地震が発生した場合の初期対応	7
	（1）大規模地震の定義	7
	（2）避難・誘導方法	7
	①授業中に発生した場合	
	②放課後・登下校時に発生した場合	
	③休日・夜間に発生した場合	
	（3）人員点呼確認	9
	（4）学校対策本部の組織、各班の任務	9
	平成28年度 自衛消防隊・地震防災対隊 編成と役割分担	
	（5）職員の参集体制、連絡調整者	1 3
	①職員の参集体制	
	②連絡調整者	
	（6）大規模地震発生に準ずる場合の対応	

4	地震発生時の生徒の預かり（留め置き）、引き渡しの対応	14
	（1）地震発生時の生徒の預かり（留め置き）	
	（2）保護者からの希望調査方法	
	（3）その他、預かり（留め置き）・引き渡しの対応が必要となる場合	
	（4）大規模地震発生時の対応についての保護者への周知	
	（5）生徒引き渡し方法	
5	学校が避難場所となった場合の対応	15
	（1）住民の避難と学校の対応	
	（2）住民対応・避難場所支援班の設置	
6	非常持出用品リスト	15
7	緊急連絡先電話番号簿	16
	・消防署、警察署、医療機関、区災害対策本部（総務部）	
8	大規模地震発生時の職員体制	17
	勤務時間内	
	勤務時間外	18
9	風水害時における対応	19

1 日常の防災体制

(1) 学校防災委員会の設置

- ① 南高等学校附属中学校は、南高等学校と合同で「防災委員会」を設置する。
- ② 「防災委員会」構成メンバーは、【高校】校長・校長代理・副校長・事務長・総務部主任・生活部主任・高校1年主任・2年主任・3年主任【中学】校長・副校長、学校防災担当者とする。
- ③ 役割分担は、以下とする。
 - (ア) 防災教育・防災訓練・教職員研修の企画運営 2年主任・3年主任・事務長・副校長
中学職員
 - (イ) 防災マニュアル・具体的運営 1年主任・総務部主任・生活部主任・
副校長・中学職員
 - (ウ) 「学校防災計画」策定・日常的な施設点検等 全員
 - (エ) 教育委員会事務局・区役所との連絡調整 副校長



(2)学校の安全点検

① 定期的な校舎の安全点検の実施

- (ア) 毎年実施される学校施設点検表による施設全体の点検を実施する際に、併せて、防災の観点から、「学校施設・設備の安全点検リスト」(P 18 参考資料1)により、施設・設備の点検を実施し、改修等の必要があると判断される場合には、学校施設点検表及び詳細内容記入欄に具体的に記入し、施設管理課に提出する。
- (イ) 防災訓練等の時期に併せて、校舎・設備の安全点検を実施し、危険箇所を把握するとともに、壁、柱、床の亀裂、天井の剥離状況についても変化の様子を点検・記録する。

② 転倒物、重量物等の転倒防止対策

- (ア) 教室内では書架や戸棚等の固定、テレビやパソコン、スクリーン等の転倒落下防止対策を講じる。
- (イ) 教職員用の平机やその背後にある戸棚、教卓等の位置、固定に配慮する。
- (ウ) 灯油、薬品、ガス(プロパンガスボンベ等)の保管場所についても注意する。

③ 防災設備等の点検

- (ア) 非常口鍵の保管・保管場所の確認と、消火器・消火栓図の確認をする。(P 21 参考資料2)
- (イ) 停電等で校内放送ができないときの連絡方法の準備をする。
 - ・ハンドスピーカー、メガホン、可動式無線マイク・スピーカー設備等の準備をする。
- (ウ) 校舎の電気配線図を準備する。
 - ・学校施設内の電気室や高圧受電設備(キュービクル)から配線盤を経由して各教室等へ配線されている経路やコンセントの位置、容量等を確認する。
- (エ) 水道配管図を準備する。
 - ・水道の元栓の位置、各施設への止水弁の位置、各止水弁の機能を確認する。
 - ・学校全体の水道水の流れがわかるよう、校舎平面図等に表示する。
 - 元栓が複数ある場合や、水の流れが複数に分流していることもあるので注意する。
- (オ) 電話配線図を準備する。
 - ・校内にある電話の位置と番号を記入した図面を準備する。
 - ・災害時優先電話の登録の有無を確認する。
- (カ) プールの水を貯めた状態にする。

④ 避難経路の点検

- (ア) 校内の各所からの避難経路、避難場所を決める。
 - ・廊下、階段等が使用不能の場合の避難方法も考慮する。
- (イ) 避難経路の点検を避難訓練時に行う。
 - ・日頃から、避難の妨げとなるような物品を避難経路に置かない。

(3) 防災教育

①年間指導計画

南高等学校附属中学校の年間指導計画は下記のように定める。

- 4月 ・新年度にあたり、全家庭（生徒）に防災カードを提出させ、「大地震警戒警報発令時」「非常災害時」の徒歩での帰宅経路（または学校留め置き）を保護者と相談し、また生徒自身にも自覚させる。
 - ・学活で教室・特別教室からの避難方法・経路を確認させ、避難訓練に臨ませる。
- 5月 ・学活で大規模地震が発生した場合の避難方法・経路を確認させ、避難訓練に臨ませる。
- 7月 ・学活で総合防災訓練の意義を説明し、緊急時の身の安全確保と人員点呼の重要性を再認識させて、速やかに避難・点呼報告する姿勢を養う。
 - ・負傷者を用意しておき、避難中に負傷者に遭遇した場合の対処の仕方を学ばせる。
- 8月 ・7月に学活で学んだことを自覚して総合防災訓練に臨ませる。
 - ・訓練後の方面別帰宅経路確認で、同じ方面へ帰宅するメンバーを確認させる。

(4) 防災訓練

①年間指導計画

南高等学校附属中学校の年間指導計画は下記のように定める。

4月 避難経路（指定された階段）の確認

50音順生徒名簿の作成（教務部）

非常持ち出し袋の点検（中身 全校生徒50音順名簿・懐中電灯・乾電池・筆記具等）

4月17日 避難経路確認訓練 生徒・教職員対象 避難方法と避難経路の確認

8月27日 総合防災訓練 生徒・教職員対象 避難方法と避難経路の確認

(5) 教職員校内研修

①年間指導計画

南高等学校附属中学校の防災防犯年間指導計画は下記のように定める。

4月 教室管理者の確認と管理者氏名掲示

担当教室の避難経路（指定された階段）の確認

11月 防犯訓練 教職員対象 不審者対応

②教職員研修の内容は、隔年で防犯訓練（不審者対応）と防災訓練（救急対応）とする。

③防災委員会委員は、防災についての校外研修に参加して研鑽に努める。

(6) 心のケア対応

①教職員研修計画

南高等学校附属中学校の年間計画は下記のように定める。

6月	管理職面接	12月	管理職面接
7月	メンタルヘルスに関するアンケート実施	2～3月	管理職面接
8月	アンケート結果を踏まえて、カウンセラー面接		

2 東海地震に関連する情報や警戒宣言発表時の生徒への対応

(1) 「東海地震に関連する情報」について

①「東海地震に関連する情報」は、

「**観測情報**」 東海地震の観測データに異常が現れているが、東海地震の前兆現象の可能性について直ちに評価できない場合に発令。

「**注意情報**」 東海地震の前兆現象の可能性が高まったと認められた場合に発表。

「**予知情報**」 東海地震が発生する恐れがあると認められた場合に発表。

の3つのレベルに分けられる。

②予知情報を受けて、内閣総理大臣は**強化地域**に、**警戒宣言**を発令する。

③「強化地域」の指定は東海地方を中心に8都県263市町村が指定され、神奈川県下では19市町が強化地域の指定を受けているが、横浜市は指定地区外となっている。

しかし、横浜市は、これら強化地域に近接しており、東海地震発生時には、震度5弱・5強程度の揺れが予想されるため、強化地域に準じて対策を講じることとしている。

(2) 横浜市の基本的対応について（概要）

	市の対応	学校の動員体制	学校における児童生徒等に対する措置
観測情報	平常体制		
注意情報	市（及び区）警戒本部の設置	経営責任職・運営責任職（校長・副校長）	1 在校時は、原則として授業を打ち切り、教職員の指導のもと、帰宅させる。ただし、児童生徒の障害に応じて、学校において直接保護者に引き渡す。 2 学校、地域、児童の実態に応じて、学校において保護者に引き渡す。
予知情報 ↓ 警戒宣言 発令	市（及び区）災害対策本部の設置	全員配備 勤務時間外において警戒宣言の報道に接したときは、動員命令を待つことなく自動的に参集する。	3 留守家庭等の児童生徒については、学校で保護する。 4 市外等遠隔地からの通学者については、学校で保護する。 5 通学中、在宅中に注意情報（又は警戒宣言）が発せられた場合は、休校とする。 なお、登下校時にあつては、帰宅する等の措置を講じる。

(3) 「東海地震注意情報」発令時の対応

①南高校附属中学校教職員配置

- ア 校長・副校長は学校に参集する。
- イ 防災活動上必要と認めるときは、校長の判断により、配備体制を強化することができる。

② 南高校附属中学校がとるべき措置

ア 「東海地震注意情報」等の伝達

- (ア) 来校者、生徒、教職員に対して、「東海地震注意情報」等の内容を非常放送、校内放送等により伝達する。
- (イ) 冷静な行動、とるべき措置について周知する。

イ 生徒等に対する措置

- (ア) 在校時は、原則として授業を打ち切り、保護者に連絡を取った上で「防災カード」に保護者が記載した方法で、学校待機または教職員誘導のもと帰宅させる。
- (イ) 状況によって、学校において保護者に引き渡す。
- (ウ) 留守家庭等の生徒については、学校に留め置く。
- (エ) 市外等遠隔地からの通学者については、学校に留め置く。
- (オ) 通学中又は在宅中に「東海地震注意情報」が発せられた場合は、休校とする。
なお、登下校時にあつては、帰宅する等の措置を講じる。
- (カ) いずれの場合にも、「メール配信システム」等も活用して家庭と連絡を取り、全校生徒の安全確認に努める。

ウ 当面の措置等の決定と教育委員会事務局への報告

「東海地震に関連する情報」を受けて、学校が臨時休校措置等の対応を行った段階で、教育委員会事務局（指示がなくても自動的に）に報告する。

【報告事項】

- ・学校に保護している生徒の状況（人数）
- ・その他

エ その他、必要に応じて学校内外の安全確認・点検等の措置を取る。また、区警戒本部長と協力連携体制を取る。

(4) 「東海地震予知情報」「警戒宣言」発令時の対応

①南高校附属中学校職員の配備体制及び学校災害対策本部の設置

- ア 学校教職員は全員配備となり、勤務場所以外にいるときは、動員命令を待つことなく自動的に所属校へ参集する。
- イ 学校長は、警戒宣言発令に伴って、学校災害対策本部を設置し、あらかじめ定めた班編成に基づき職員を配備につけ、地震防災応急活動を命ずる。
(その際、教職員の参集状況に応じて、あらかじめ定めた班編成を基本としつつ、弾力的な人員配置を行う。)

②「警戒宣言」発令時において学校がとるべき措置

- ア 「東海地震警戒宣言」等の伝達は、「東海地震注意情報」に準ずる。
- イ 生徒等に対する措置は、「東海地震注意情報」に準ずる。それに付け加えて、
- ウ 校外活動時
 - (ア) 宿泊を伴う校外活動時(修学旅行、合宿等)の場合は、強化地域内外を問わず、所在地の警戒本部または災害対策本部の指示に従い、速やかに学校に連絡する。校長は、情報を保護者に連絡するとともに、対応状況を教育委員会事務局に報告し、現地の責任者に適切な指示を与える。
 - (イ) 泊を伴わない校外活動時(日帰り遠足等)の場合は、所在地の官公署等から連絡を取り、速やかに学校に連絡し、原則として即時帰校する。帰校後、生徒等の措置は在校時と同様にする。
ただし、交通機関の通行や道路の状況によって帰校することが危険と判断される場合は、近くの学校等安全な場所に避難するなど適宜措置をとる。この場合は、速やかに学校に連絡する。
校長は、保護者に連絡するとともに、対応状況を教育委員会事務局に報告する。行き先が強化地域内の場合は、所在地の警戒本部の指示に従う。また、速やかに学校に連絡し、校長は保護者に連絡するとともに、対応状況を教育委員会事務局に報告し、現地の責任者に適切な指示を与える。

3 大規模地震が発生した場合の初期対応

(1) 大規模地震の定義

市域のいずれかで、震度5強以上の地震が観測されたとき

(2) 避難・誘導方法

* 南高校附属中学校は高台に位置しているため、津波を想定した避難方法は考えないものとし、大地震とそれに伴う火災発生を想定した避難を考えるものとする。

授業中

- ① 管理職（または在校職員）は、地震発生通報（全校一斉放送）を行う。
- ② 授業担当者は生徒の安全を第一に、火気等の始末を速やかに行い、避難路を確保し生徒を机の下または安全と判断される物に身を寄せさせ、落下物・転倒物・ガラス等から身を守るように指示する。
- ③ 授業外の職員は、居合わせた部屋の火気の始末をして、校務室に集合する。その際、最寄りの避難経路の破損状況や通行可否を確認して、報告する。
- ④ 対策本部長（校長）は、地震および火災による第二次災害の危険性を察知し、教職員に任務に就く指令を出すとともに、生徒を全員避難させる鎮静・避難指示放送を行う。
地震による火災発生の場合は、同時に火災発生連絡も行い、使用不可階段を指示する。
- ⑤ 指示を受けた担当職員は、迅速に避難の方法について生徒に伝達した後、自らも誘導に当たる。
- ⑥ 授業担当者は、第一次避難場所（グラウンド中央付近）の各クラスの避難場所まで生徒を誘導する。その際、出席簿を持って避難する。火災の場合は窓を閉める。避難路は、所定の避難経路を使用し、出席簿は担任に渡るようにする。
- ⑦ 状況に応じて、担当職員は第二次避難場所（体育棟2階メインアリーナ）に生徒を誘導し、点呼を行う。

放課後・登下校時

【生徒が校内にいる時】

- ① 管理職（または在校職員）は、地震発生通報（全校一斉放送）を行う。
- ② 校内にいる生徒に、机の下または安全と判断される物に身を寄せさせ、落下物・転倒物・ガラス等から身を守るように指示する。
- ③ 廊下・階段にいる場合は、中央に伏せ、ガラス等から身を守る。
- ④ 体育棟アリーナにいる場合は、できるだけ中央に避難する。
- ⑤ グラウンドにいる場合は、速やかに校舎から離れ、中央付近に避難する。
- ⑥ 職員は、居合わせた部屋の火気の始末をして、職員室に集合する。その際、最寄りの避難経路の

破損状況や通行可否を確認して、報告する。

⑦対策本部長（校長）は、地震および火災による第二次災害の危険性を察知し、教職員に任務に就く指令を出すとともに、生徒を全員避難させる鎮静・避難指示放送を行う。

地震による火災発生の場合は、同時に火災発生連絡も行い、使用不可階段を指示する。

⑧指示を受けた担当職員は、迅速に避難の方法について生徒に伝達した後、自らも誘導に当たる。

⑨担当職員は、第一次避難場所（グラウンド中央付近）の各クラスの避難場所まで生徒を誘導する。

その際、職員室にある出席簿を持って避難する。火災の場合は窓を閉める。避難路は、所定の避難経路を使用し、出席簿は担任に渡るようにする。

⑩校内にいる生徒の確認を行う。

⑪状況に応じて、担当職員は第二次避難場所（体育棟2階メインアリーナ）に生徒を誘導し、点呼を行う。

【登下校途中】

①落下物から身を守る。

②最寄りの避難場所・公園等安全な場所へ直ちに避難する。

③徒歩途中では、自宅・学校か近い方に避難する。

④交通機関利用中は、運転手・駅員の指示に従う。

⑤家庭や学校と連絡をとって状況を報告し、その指示に従う。

◎ いずれの場合にも、「メール配信システム」等も活用して家庭と連絡を取り、全校生徒の安全確認に努める。

休日・夜間等

【休日の昼間で、E G Gや部活動等で生徒が校内で活動している時】

① 上記の「放課後・登下校時 校内にいる時」に準ずる。

②連絡調整者は、いち早く学校に駆けつけ、管理職が到着するまでの間、教育委員会事務局等との連絡調整など、地震発生直後の初動活動を行う。

【夜間等、生徒が校内にいない場合】

①職員は、勤務校に参集し、校内対策本部を設置する。

②連絡調整者は、いち早く学校に駆けつけ、管理職が到着するまでの間、教育委員会事務局等との連絡調整など、地震発生直後の初動活動を行う。

◎ いずれの場合にも、「メール配信システム」等も活用して家庭と連絡を取り、全校生徒の安全確認に努める。

(3) 人員確認点呼

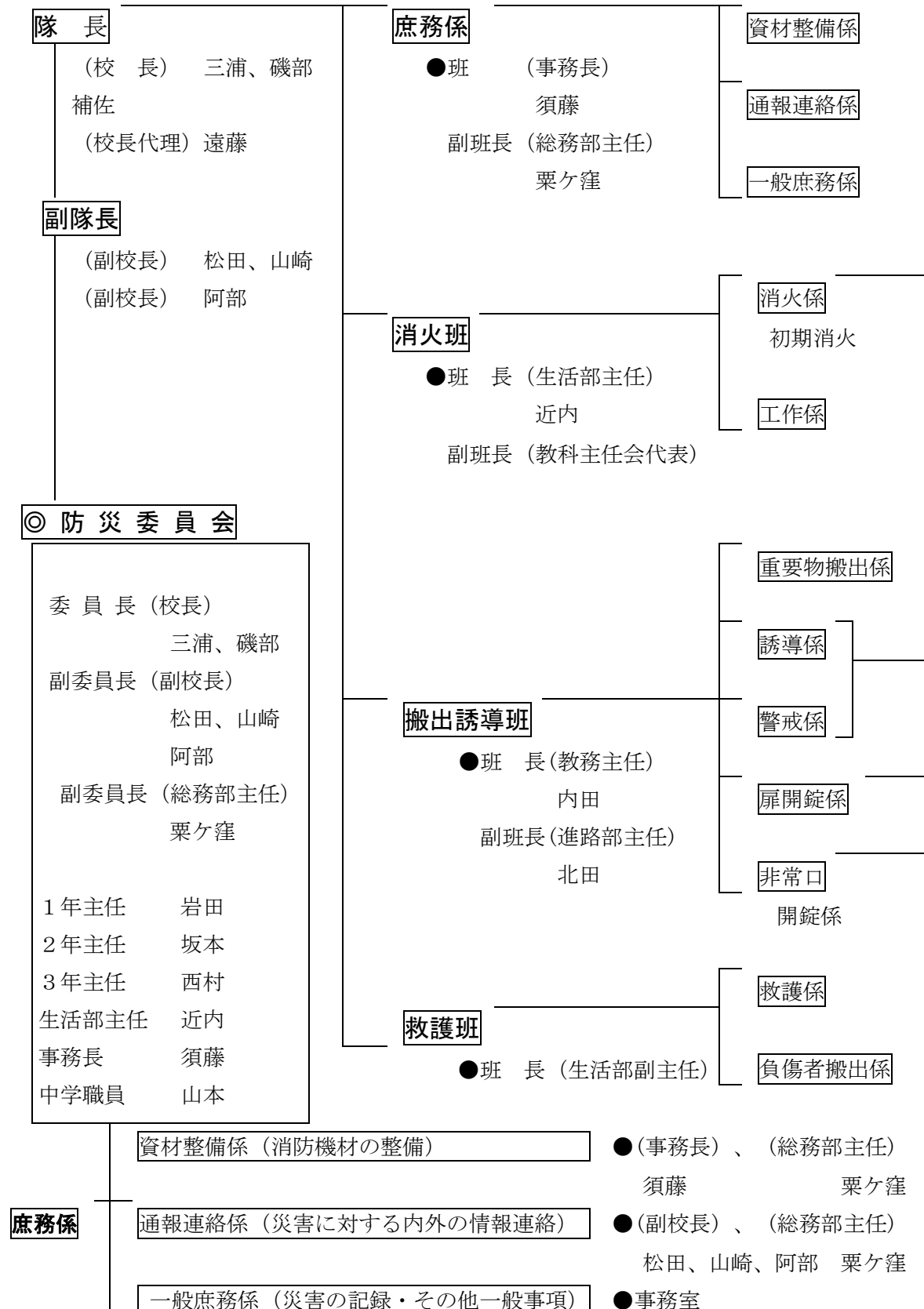
- ①グラウンド（東永谷中学校に向かって左から中1→中2→中3→高1→高2→高3）に、各クラス縦1列出席番号順に整列する。
- ① 避難完了後、学級担任は直ちにクラスの人員点呼を行い、学年主任に、「災害時学級報告書（P 25 参考資料5 出席簿表紙裏に貼付）」を用いて報告する。
- ③各学年主任は、副校長に、負傷者・負傷者の補助者も掌握し、その結果を報告する。
その際、年次職員の避難終了報告も同時に行う。
- ④誘導補助職員は、生徒の避難完了を確認した後、避難場所へ直行する。
- ⑤学年外職員は、副校長に各自で避難終了報告を行う。
- ⑥副校長は、本部長（校長）に、全年次生徒と職員の確認報告を行う。
- ⑦本部長（校長）は、全生徒の避難確認後、全職員の避難を確認する。

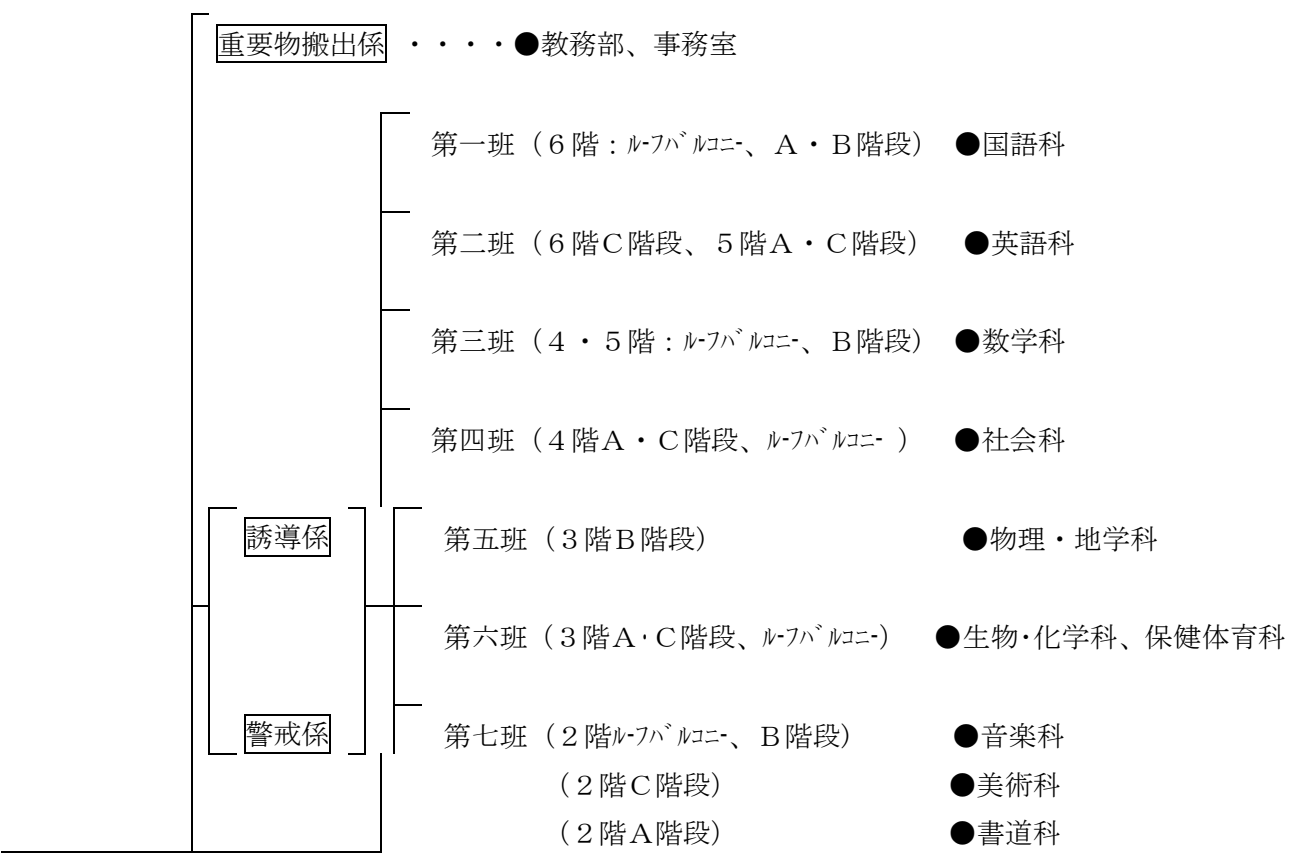
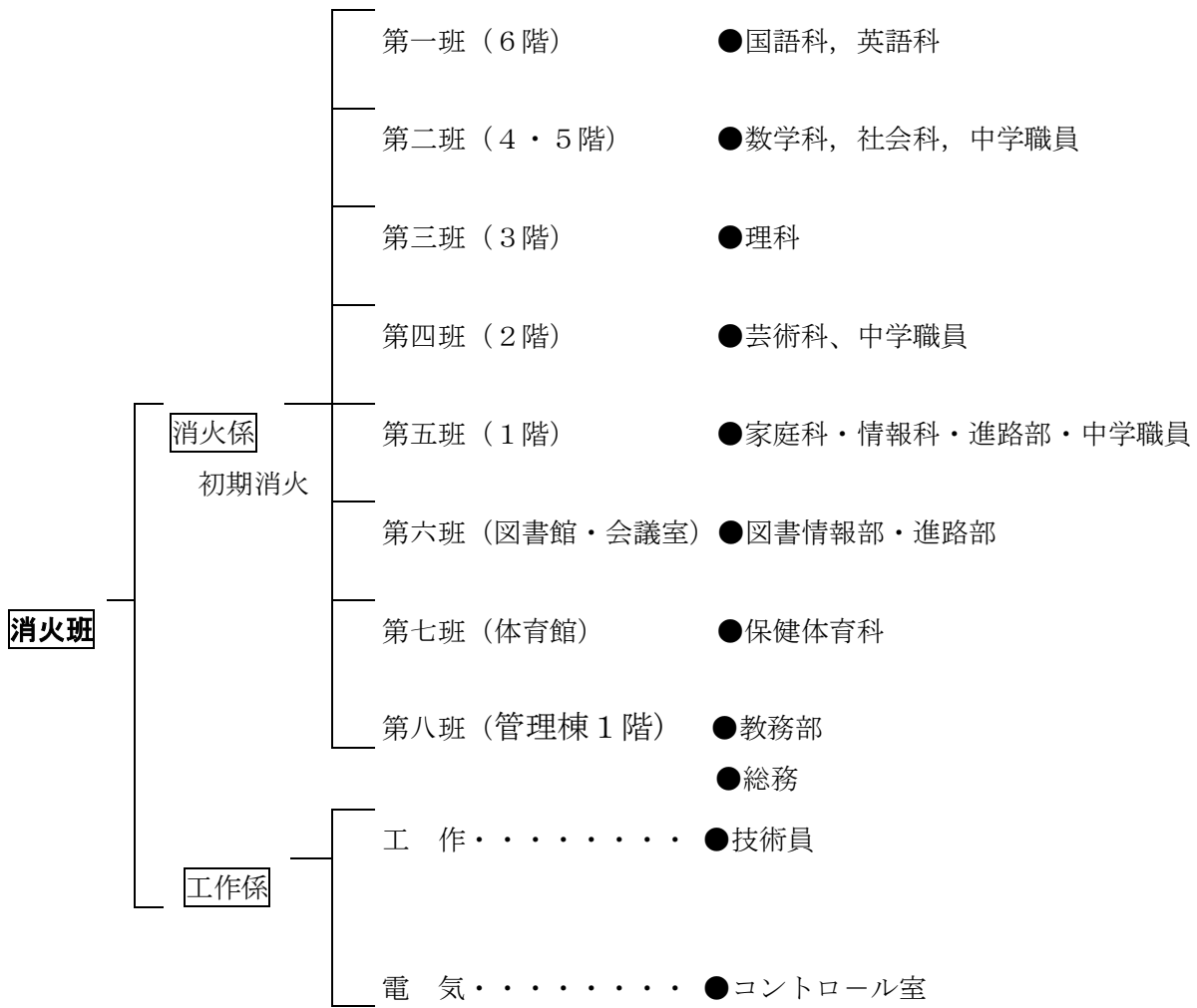
(4) 学校対策本部の組織、各班の任務

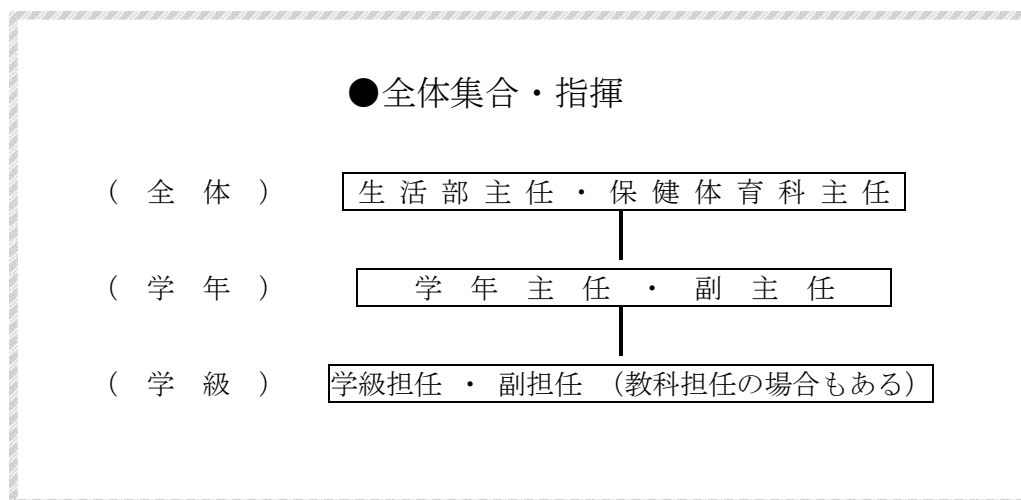
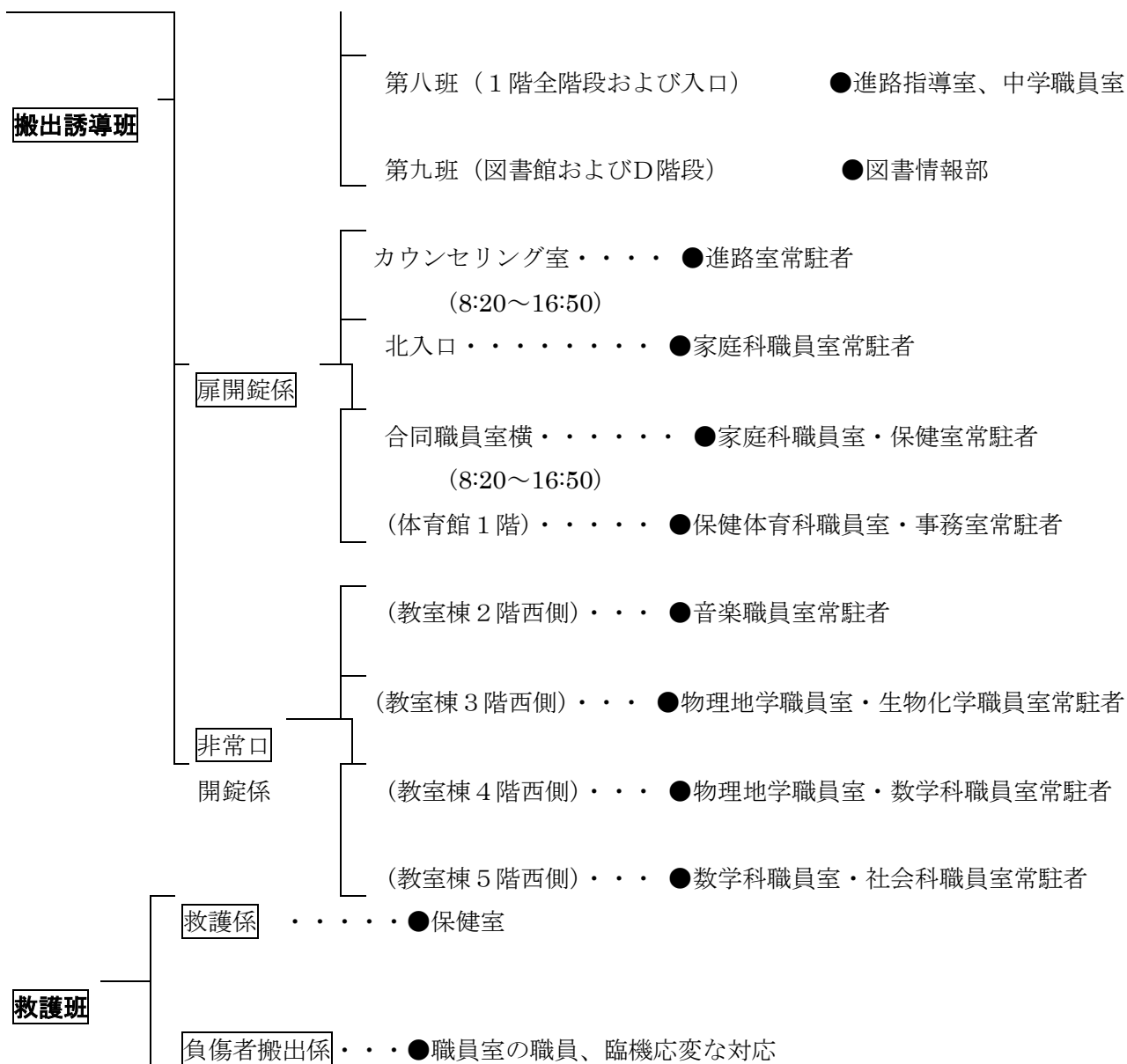
自衛消防隊・地震防災隊組織と各班の任務は以下とする。（次ページ参照）

平成30年度 自衛消防隊・地震防災隊 編成と役割分担

- ◎ 誘導を主に考え、授業中の担当職員は近くの自習教室の生徒も含めて誘導にあたる。
- ◎ 搬出誘導班の誘導係・警戒係は、在室中の職員が分担する。







(5) 職員の参集体制、連絡調整者

①職員の参集体制

大規模地震が夜間・休日等の勤務時間外に発生した場合は、南高校附属中学校全職員は迅速に高校に参集する。

②連絡調整者

ア 教職員の中から学校に早く到達できる順に3名を連絡調整者として指名する。

平成30年度 連絡調整者 間宮英美 朝比奈康江 小野寺啓司

イ 連絡調整者は、横浜市域のいずれかで震度5強以上の地震が観測された場合、いち早く学校に駆けつけ、校長・校長代理・副校長が到着するまでの間、教育委員会等との連絡調整など、災害発生直後の初動対応を行う。

ウ 連絡調整者は、校長・校長代理・副校長が到着した場合には、直ちに地震発生後に対応した措置等について報告する。

(6) 大規模地震発生に準ずる場合の対応

①大規模地震発生に準ずる場合とは、次の場合を想定する。

地域の停電・周辺の鉄道等の停止・その他、生徒の登下校・諸活動に危険だと予想される場合

② その場合は、大規模地震発生時と同様の対応を行う。

4 地震発生時の生徒の預かり（留め置き）、引き渡しの対応

(1) 地震発生時の生徒の預かり（留め置き）

大規模地震（「市内のいずれかで震度5強以上の地震が観測された時」）発生の際は、直ちに授業を打ち切り、次の通りとする。

保護者との連絡が取れ、引き取り者が来校するまで、学校に留め置くものとする。ただし、通学路・交通機関等の状況により、安全に下校できると学校長が判断した場合は、予め保護者から希望を聞き、原則それに従う。

(2) 保護者からの希望調査方法

保護者からの希望調査方法は、入学時提出の「防災カード」に記入させる形で行う。

「防災カード」には、緊急連絡先・自宅までの略図とともに「大地震警戒警報発令時」「非常災害時」の徒歩での帰宅経路確認・保護者との待ち合わせ場所等も記入させる。

なお、2年生・3年生は4月当初に家庭に持ち帰らせて保護者と再確認の上、提出させる。

(3) その他、預かり（留め置き）・引き渡しの対応が必要となる場合

①周辺の交通機関の運行状況を確認し、運行再開の見込みが立たないとき。

②学校および周辺の地域が停電となっていて、生徒を安全に帰宅させられないと判断したとき。

(4) 大規模地震発生時の対応についての保護者への周知

入学時保護者説明会・懇談会・HP等を通じて繰り返し周知する。

また、地震発生後は学校HPやメール配信システム等を活用して保護者に連絡を図る。

(5) 生徒引き渡し方法

①原則として、保護者に直接生徒を引き渡し、保護者が来校するまで学校で留め置く。保護者と連絡が取れない場合には、連絡を継続する。

②引渡しは、「防災カード」に記入されている引き取り者に限り、生徒を引き渡すことができるものとする。

③ 徒歩通学生徒で、保護者と連絡・了解が取れた場合には、生徒のみで下校させる場合もある。その際には、状況に応じて教職員が引率して方面別集団で下校させ、帰宅後保護者から学校に帰宅連絡をするものとする。

5 学校が避難場所となった場合の対応

南高校、南高校附属中学校は地域防災拠点となっていないが、実際に災害が発生した場合には、地域住民が避難してくる可能性がある。その場合には、区災害対策本部と連絡し、その後の対応(直近の地域防災拠点への移動等)について連絡調整を行う。

(1) 住民の避難と学校の対応

ア 被災した住民が駆けつけた場合には、区災害対策本部と連絡をとり対応を決めることとなるが、近隣の避難者が多数に及び、地域防災拠点のみでは明らかに収容しきれない場合や地域防災拠点として指定されていた学校の体育館等の建物被害が甚大な場合、地域防災拠点の周辺地域での火災発生等のため地域防災拠点の開設が困難な場合等で、当該学校施設を避難場所として利用せざるをえない場合には、当該施設を避難場所として提供する。

(2) 住民対応・避難場所支援班の設置

ア 南高校を避難場所として開設・運営した場合、南高校(災害対策本部)が、住民対応・避難場所支援班を設置し、南高校附属中学校職員も協力の上、避難場所の開設・運営を強力に支援する。

イ 南高校が当該施設を避難場所として提供した場合には、区災害対策本部に連絡をとり、周辺の被害状況、避難者数等の報告を行うとともに、食料・水・毛布など必要な物資の調達等について、依頼する。

ウ その後は、避難者により自主的防災組織を結成させ、代表者を選出させるなど地域防災拠点の活動に準じた活動をおこなうよう、区災害対策本部と連携を密にして対応する。

6 非常持ち出し用品リスト

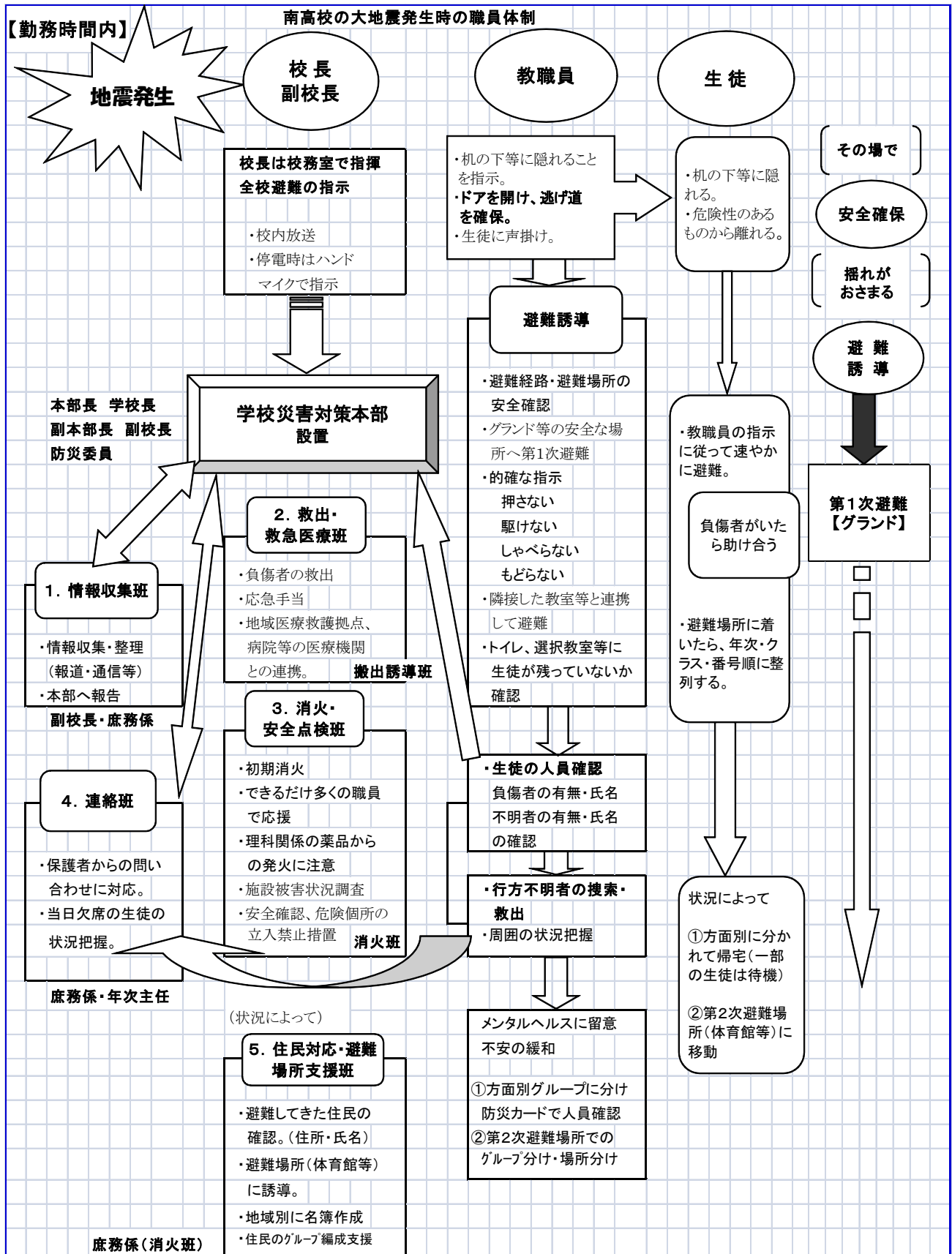
- | | | |
|---|------------------------------------|--------------------------------|
| 1 | 非常持ち出し袋（全校生徒 50 音順名簿・懐中電灯・乾電池・筆記具） | 副校長席横の棚 1 段目 |
| 2 | 指導要録 | 事務室内倉庫（事務室と校長室の間）のスチール収納庫（施錠中） |
| 3 | 出席簿 | 職員室所定の棚 |
| 4 | 防災カード | 副校長席横の棚 1 段目 非常持ち出し袋の中 |
| 5 | 防災備蓄倉庫の鍵 | 事務長保管と副校長保管 |
| 6 | 拡声器 | 職員室副校長席後ろ |
| 7 | 救急薬品 | 保健室 |
| 8 | トランシーバー | 職員室 |

7 緊急連絡先電話番号簿

緊急連絡先		電話番号
港南消防署		8 4 4 - 0 1 1 9（代表）
港南警察署		8 4 2 - 0 1 1 0（代表）
医療 機 関	横浜市救急医療情報センター	2 0 1 - 1 1 9 9
	横浜市夜間救急センター	2 1 2 - 3 5 3 5
	横浜市歯科保健医療センター	2 0 1 - 7 7 3 7
	港南区休日急患診療所	8 4 2 - 8 8 0 6
	小田整形外科・皮膚科	8 2 2 - 4 3 0 0
	横浜東邦病院（総合）	7 4 1 - 2 5 1 1
	港南中央病院（総合）	8 4 2 - 3 1 6 6
	朝倉病院（内科・整形外科）	8 2 4 - 0 2 0 2
	池袋眼科	8 4 2 - 0 3 8 0
	秋山脳神経外科	8 4 2 - 1 8 3 8
	堀越耳鼻科	8 4 2 - 4 9 0 3
	港南台耳鼻咽喉科	8 3 1 - 3 3 8 7
	港南区役所 総務部（区災害対策本部）	

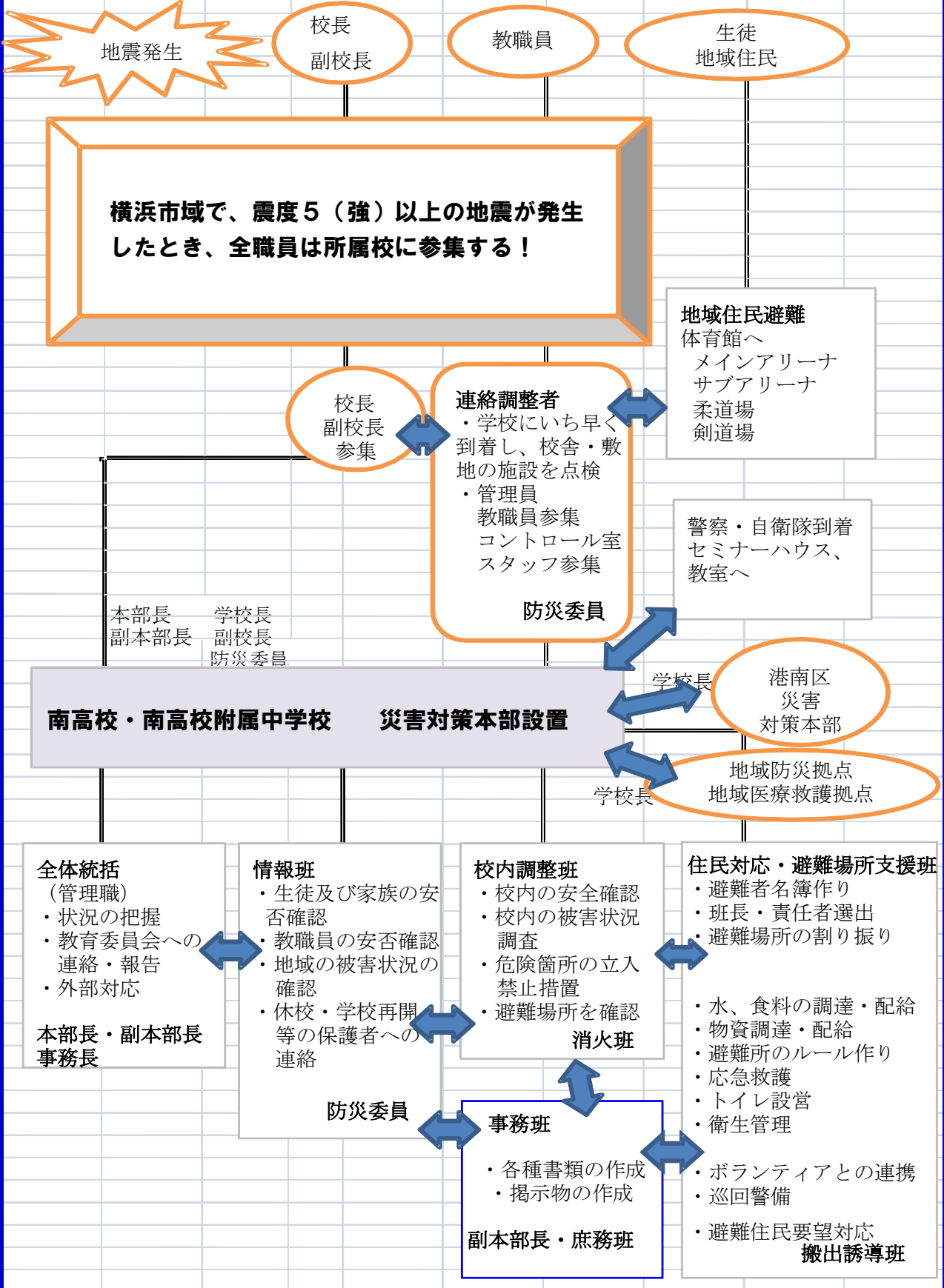
8 大地震（横浜市域で震度5強以上が観測）されたときの職員体制

勤務時間内



勤務時間外

休日・夜間などの勤務時間外



9 風水害時における対応

風水害等の『警報』などが発令された場合

(1) 横浜市内に『特別警報』『暴風警報』『大雪警報』『暴風雪警報』が発令された場合

○朝6時の段階で発令継続中の場合

当日は「臨時に休業」とする。よって、特別な場合を除いてメール配信は行わない。

○登校後発令された場合

原則的に発令後速やかに「終業時間繰り上げ」措置をとり、一斉下校とする。

(2) 横浜市内に『大雨警報』『洪水警報』『大雪注意報』が発令された場合

○登校時は発令されている場合は、各地域の状況により、各家庭で「登校させる」「登校させない」「遅れて登校させる」の判断をする。また「登校させない」「遅れて登校させる」場合には必ず各家庭から学校へ電話連絡をする。この場合、出席簿上では「欠席」「遅刻」とならない。

平成30年度
学校防犯計画

横浜市立南高等学校附属中学校

第1章 日常における学校の安全管理について

1 施設管理上のポイント

(1) 校門、校舎の管理

ア 使用校門の限定

○使用する校門は、正門、通用門（バス停側）、裏門（東永谷中側）とし、裏門については常時閉鎖・施錠する。

○登下校時に使用する門は、正門、通用門とする。

イ 正門の施錠管理（登下校時以外の時間帯）

○正門の内側の門は閉鎖する。

ウ その他の場所の施錠

○倉庫・用具庫や、使用頻度の低い特別教室・会議室等は施錠し、定期的に点検する。

(2) 来校者への案内表示

初めての来校者は、職員室等へ行くためにどちら側に回ったらよいか、どの扉から校舎内に入ればよいか分かりにくい。そこで、校舎案内図や案内表示をする。

(3) 施設の点検整備

ア 門扉、囲障、窓、施錠設備、外灯等の設備について日常的に点検し、必要な補修を行う。

イ 死角の原因となる障害物の排除などにより、敷地内の視界をできる限り確保する。（廃材の片付け・下草刈り・樹木の剪定等）

2 日常の対応

(1) 安全管理に対する校内の責任体制、執行体制の確立

ア 校長、副校長、教務主任、防犯・防災担当等、安全管理に対する責任体制を整理し、平常時、緊急時それぞれの役割分担を明確にしておく。

イ 教職員（教員、学校事務職員、学校用務員等）が安全管理について共通の意識を持ち、それぞれの役割の中で相互に協力する体制を作る。

特に、緊急時の役割については、一部の教職員が不在でも機能するように、複数で担当する。

ウ 高校と中学校のそれぞれの学校の実情を共通理解した上で、相互に連携した安全管理を進める。

(2) いわゆる「空白の時間」対策について

ア 生徒の登校開始前に、校内の安全確認を行った上で、生徒を入れる。

イ 登校時に、教職員等が校舎入り口や廊下等で安全見守りを行う。

ウ 校門の開錠や開門の時刻を、生徒や保護者に対して明確に周知する。

また、登校時間の厳守について、生徒への指導を徹底する。

エ 部活動などの早朝練習等を行う場合は、必ず教職員が立ち会う。

(3) 受付

どのような場所でも、受付で身元を明らかにし、用件と訪問先を述べることは社会常識である。「受付で手続きをする必要があること」を示すことは、学校で安全管理が行われていることを示すことでもある。

- ア 職員室や玄関等に受付場所を設定し、受付簿へ必要事項の記載を行わせるなど、来校者のチェックを行うこと。
- イ 来校者に名札を着用させるなど、受付を通過した者であるか否かが判別できるようにする。
- ウ 受付簿への退校時間の記入や、名札の確実な回収など、学校に滞在している人の把握を徹底する。
- エ 来校目的がはっきりしていない、態度に不審な点がある、大きな声でクレームをつける等の場合の対応方法について、教職員間であらかじめ決めておく。
(応対場所、複数人で対応する必要がある場合の対処方法等)

(4) 声かけ

日常的に行われる来校者に対する「声かけ」が、不審者発見のための、最も有効かつ基本的な対応である。

- ア 教職員は来校者に対して、あいさつや声かけを積極的に行い、用件確認や行き先案内を習慣化する。
- イ 来校者に声かけをする場合、次の点に留意すること。
 - ・用件が答えられるか、また、正当なものか。
 - ・保護者なら、子どもの学年、組、氏名が答えられるか。
 - ・教職員に用事がある場合は、氏名、学年、教科等の担当が答えられるか。
- ウ 教職員は、特に、名札等を着用していない者に対して用件を確認し、受付が未了であれば受付に立ち寄り、名札を着用することについて指示する。

(5) 見守り、パトロール

- ア 教職員等により、必要に応じて校内巡視を行う。
- イ 授業と授業の間の休憩時間や昼休みにおいて、教職員は教室やその周辺で過ごすようにする。
(生徒との距離が近づき、相談を受けやすくなる、様子が観察できる等の効果が期待できると同時に、不測の事態が生じたときの対応にも即応が可能となる。)
- ウ 必要に応じて、校外（特に学校周辺）の巡視を行うこと。
(特に、校門付近や外周に、人が乗った自動車が長時間駐車している場合などに注意する。侵入の下見や、生徒に対するわいせつ目的の覗きなどの可能性もある。)

(6) 防犯関係設備、備品の活用

- ア さすまたを職員室に常備する。
- イ 防犯カメラのモニターを、意識的に確認する。
何らかの変化があった場合は見逃さず、対応する。

3 安全教育、防犯訓練、教職員研修

(1) 安全教育

学校内や登下校時のみならず、学校外での行動を含め、あらゆる場面で、危険を認

識する能力、危険に極力遭遇しないようにする注意力、危険な状況を回避するための判断力・行動力を養うことが大切である。

ア 安全に関する教育の実施

教育委員会から配付されている「防犯チェックシート」（平成18年1月）、「安全教育のヒント」（平成19年3月）、「安全教育（防犯・防災）実践事例集」（平成20年3月）、「安全教育指導モデル」（平成22年1月）等を参考として指導する。

イ 具体的場면을想定しての指導

危険には、不審者侵入・登下校時など様々な場面がある。そうした具体的場면을想定して、日常的に指導しておく必要がある。

（不審者侵入に関しての指導の例）

- ・世の中には、子どもに危害を加える人が存在すること。
- ・学校内に不審者が侵入する可能性があるということ。
- ・校舎内外で単独で行動しないこと。（特に、死角となるような場所に対する注意）
- ・侵入者についての情報を近くにいる教職員の誰かにすばやく伝えること。
- ・教職員からの指示があった場合は、それに従うこと。
- ・教職員が近くにいないければ、侵入者から遠ざかる方向に逃げる。仲間にもその方向を伝えること。
- ・大きな声を出して、危険を知らせること。
- ・逃げる途中で出会った教職員の指示に従うこと。

（2）防犯訓練の実施

現在でも、学校では不審者の侵入を想定した避難訓練などに取り組んでいるが、下校時や下校後の遊戯中などにおいて、大人の目が行き届かない時に被害に遭っており、今後においても、生徒自身が危機回避できる能力を更に身につけられるよう重点を置いて訓練等を実施していくことが重要である。

ただし、生徒に無用な恐怖を与えるようなことのないよう、配慮しなければならない。

訓練の実施にあたっては、必要に応じて港南警察署や神奈川県「くらし安全指導員」などの協力を得る。

（3）教職員の安全研修

学校内で継続して、安全対策について教職員間で話し合うこと自体が研修効果も併せ持つものであり、各校は積極的に取り組む。

また、教育委員会で行う職員安否・参集システム訓練や、他の機関による安全に関する研修の機会に、参加すること。

第2章 不審者が侵入した時の対応

不審者の侵入には様々なケースが考えられ、対応方法もケース・バイ・ケースとならざるを得ない。ここでは、基本的事項と配慮すべきポイントを示す。

1 基本的事項

(1) 生徒の安全確保を最優先する。

生徒が危機にさらされている場合は、当該危機から脱出させることを第一に考える。また、生徒の安全確保のために、そのままの場所にとどめるほうが良いのか、別の場所に避難すべきか、判断し、即応する。

(2) 教職員自身の安全を守る。

生徒の安全確保に加え、教職員自身の身の安全の確保を行うことは当然である。一人で対応するのではなく、複数の教職員で対応する。

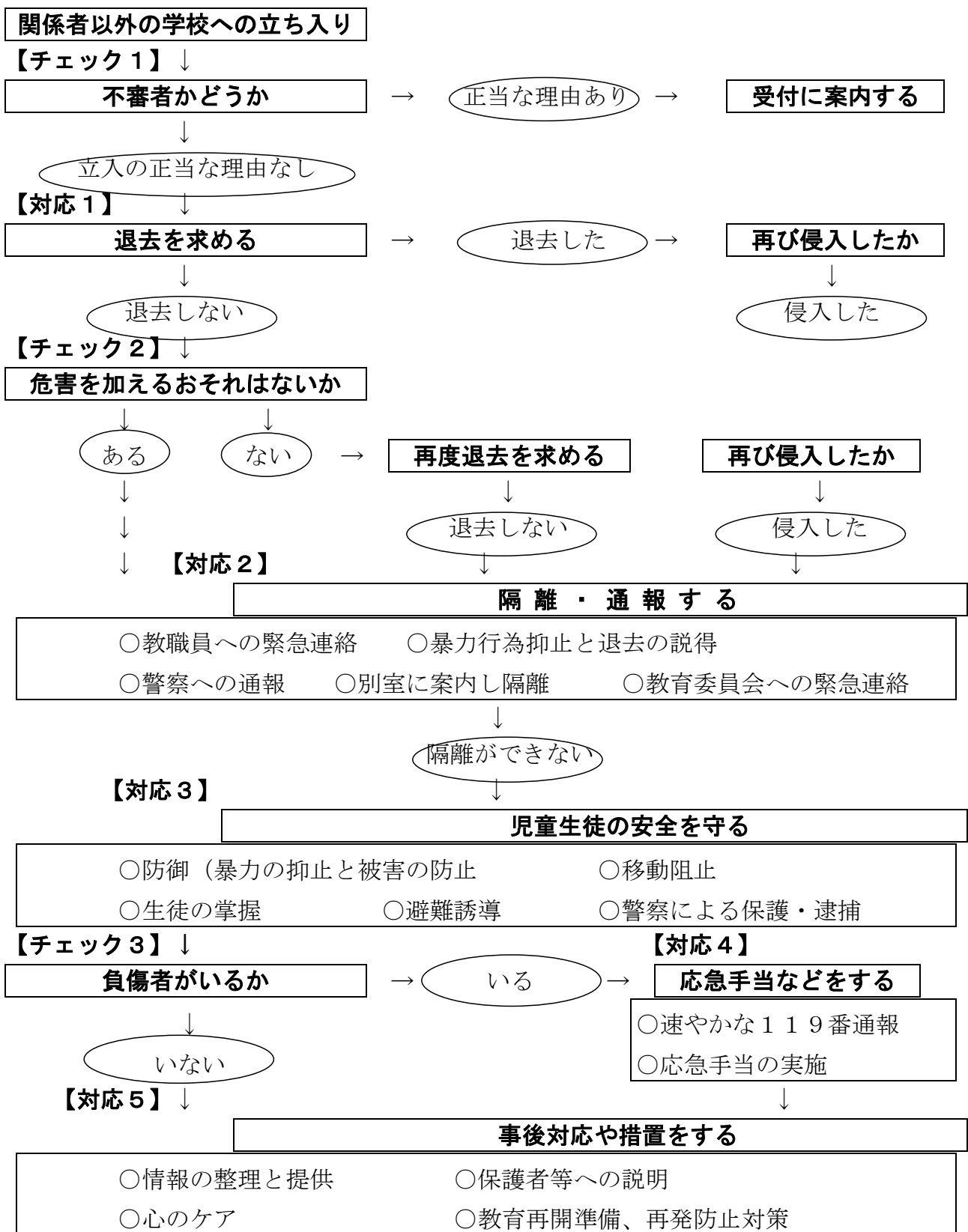
(3) 一刻も早く警察に連絡する。

不審者の身柄の拘束は警察に委ねる。少しでも危険が想定される場合は、一刻も早く警察（消防）に連絡する。

結果的に、通報するまでもないような案件であったという場合もあるが、それを心配して通報が遅れるということがないようにする（空振りであってもかまわない）。

また、危機的な混乱した状況の中では、警察や消防に連絡したのかどうか不明な場合もありうる。「たぶん連絡しただろう」ではなく、「重複してもかまわない」と心がけること。

2 学校における不審者への緊急対応の例（フロー図）



3 チェックと対応

■ チェック1 不審者かどうか

不審者かどうかのポイントは、前章で触れたように、「受付」時の対応、「声かけ」した際の対応で判断する。

なお、声をかける前に不審を感じるような場合は、一人で対応せず、複数の教職員で対応すること。さらに、危険を感じるような場合にあっては、警察への通報を行う。

□ 対応1 退去を求める

- (1) 不審者侵入時の教職員の役割分担に従い、他の教職員に連絡し、協力を求める。
その際、不審者に知られないようなサインや暗号を決めておく。
- (2) 言葉や相手の態度に注意しながら、丁寧に退去するよう説得する。
その際、相手に近寄りすぎない。(最低1mから1.5mは離れること。)
- (3) 次のような場合は、不審者として、警察へ通報する。
 - 受付を無視し、無理に立ち入ろうとする。
 - 退去の説得に応じようとしない。
 - 暴力的な言動をする。
- (4) 一旦退去しても、再び侵入する可能性もあるので、敷地外に退去したことを見届けて門を閉める。
- (5) 再度侵入したり、学校周辺に居続けたりする可能性があるため、しばらくの間、対応した教職員は、その場に就いて様子を見る。
- (6) 警察や教育委員会に報告し、学区内のパトロールの強化や近隣の学校等への情報提供をする。

■ チェック2 危害を加える恐れはないか

- (1) 所持品に注意する
 - 凶器を所持していたら、直ちに警察へ通報する。
 - 不審者が興奮しないよう、丁寧に落ち着いて対応し、警察が到着するのを待つ。
 - 凶器を隠し持っている場合もあるので、手の動きに注意する。
- (2) 次のような言動がないか注意する
 - 暴力を行使しようとする。
 - 静止を聞かず興奮状態である。
 - 言動が不自然であったり、要領を得ないことを言ったりしている。

□ 対応2 隔離・通報する

- (1) 別室に案内し、隔離する。
別室(校長室、応接室、技術員室、空部屋等、適当な部屋を決めておく)に案内し、隔離する。
不審者を先に奥に案内し、対応者は身を守るため後から入り口近くに位置し、扉は開放しておく。対応は複数の職員で行う。
警察への通報が必要な場合は、サインを決めておく。

(2) 暴力行為抑止と退去の説得をする。

(3) 警察、教育委員会に通報するとともに、教職員に周知する。

周知に際しては、校内放送を使用することが最も手早いと思われるが、不審者への影響や、生徒への影響を考え、あらかじめ教職員間で放送の文例を決めておく。

「オリーブ先生、応接室までお越してください。」と放送があった場合は、不審者対応を応接室で行っている旨の連絡である。

□ 対応3 生徒の安全を守る

(1) 防御（暴力の抑止と被害の防止）する。

生徒から注意をそらさせ、不審者を生徒に近づけないようにすることで、被害を防止しながら、警察の到着を待つ。

○応援を求める。

・大きな声を出す。

○身近なもので不審者との距離を取り、移動を阻止する。

・机 ・イス ・さすまた

(2) 生徒を掌握し、安全を守る

○授業時間中は、授業担当者が掌握し、安全を守る。

他の役割に移行する場合は、近くの教職員に掌握・誘導を依頼する。

○授業以外の場合は、あらかじめ分担した者が担当場所で安全を守る。

○教職員、全校に緊急連絡を行う。

(3) 避難の誘導をする

○教室等への侵入可能性が低いなど、緊急性が低い場合は、すぐ避難できるように、生徒を教室等で待機させる。

○教室等への侵入の恐れがある場合には、生徒と不審者の間に教職員が入り、両者を引き離し、生徒を職員室など大人の居る場所に避難させる。

○避難の指示がある場合はそれに従う。教室等に不審者が侵入した場合には、指示がなくとも生徒が避難できるよう訓練しておく。

■ チェック3 負傷者がいるか

不審者の侵入は、授業中だけではなく、休み時間や放課後などを含めた活動・時間帯に発生する恐れがあり、それぞれの場合に応じて、負傷者の有無などの情報を収集できる体制を整えておく必要がある。

(1) 負傷者がいるかどうか把握する

○授業中は、授業担当者が把握して報告する。

○休み時間や放課後などは、教職員があらかじめ決めておいた担当の場所に急行し、速やかに負傷者の有無を確認する。

○周辺の地域の民家などに避難していないか、担当者が周辺を回るなどして確認する。

○全員を集合させ、怪我をしていないか把握する。校舎内外、学校周辺を担当者が巡視する。

(2) 情報を集約する

- 職員室や事務室などで、情報を集約する場所、担当者を決めておく。
- 安否確認の総括責任者を決めておき、確認を進める。
- 登下校や地域で犯罪被害にあったり、あいそうになったりしたときの情報収集方法について、保護者、生徒、地域、関係機関との連携の仕方を検討し、あらかじめ調整をしておく。

□ 対応4 応急手当などをする

- (1) 負傷者がいる場合には、速やかに、応急手当の実施、救急車の要請を行う。
- (2) 救急搬送する場合は、教職員が付き添う。

□ 対応5 事後の対応や措置をする

- (1) あらかじめ定められた役割分担に従い、事後の対応・措置を行う。
- (2) 情報を収集し、事件・事故の概要等について把握・整理し、提供する。
特に、報道機関との対応については、窓口を管理職に一本化し、正確な情報を伝えていくことが必要である。
- (3) 速やかに保護者等に連絡や説明を行う。
 - ・客観的な事実
 - ・教職員の取った対応
 - ・その際の生徒の様子と、今後予想される子どもたちの状況
 - ・学校再開へ向けての対応
 - ・保護者や地域への依頼
 等について、プライバシーの保護にも配慮しながら伝え、保護者や地域からの質問・要望については傾聴に努める。
- (4) 事件・事故後の連絡、情報収集等のための通信方法を複数確保しておく。
問い合わせが殺到し、電話が使用できなくなることも予想される。携帯電話等の利用も考える。
- (5) 侵入事件が発生し、不審者が保護・逮捕され、あるいは学校外に退去した場合でも、生徒に不安や恐怖が残っている場合は、必要に応じて、下校時に教職員が引率したり、学校で保護者に引き継ぐ。また、保護者に引率や巡回の協力を依頼するなどの対応も行うこともある。
また、不審者が退去もしくは逃亡した場合などは、近隣の学校等に情報提供を行う。
- (6) 教育再開の準備及び事件・事故の再発防止対策を実施する。
 - 生徒、教職員の心のケア
 - 学校の安全管理体制の再構築
マニュアルや役割分担、来校者対応などの見直し・改善に取り組む。
 - 施設、設備の点検と補修
生徒に事件を連想させる箇所や、事件を引き起こす契機となったような施設・設備については、早急な改善を図る。
 - 保護者会等の開催
保護者会等を開催し、今後の安全管理について方針を説明するとともに、保護者や地域との連携・協力について理解を求める。
- (7) 以上については、教育委員会に適時状況を報告し、十分な連携をとって進める。

第3章 登下校時の生徒の安全確保

1 日常からの取組

(1) 通学路の安全確認、安全点検

ア 可能な限り安全な通学路を設定してもらい、学校周辺は点検を行う。

イ 人通りが少ない場所など危険箇所を把握し、保護者、地域、警察などの関係者の間で共通認識を得ておくこと。また、生徒に対しても学習の場などを通じ、周知する。

(2) 生徒の安全管理の徹底

ア 複数下校など、生徒を極力一人にしないという方針のもと安全な登下校方策を実施する。

イ 下校時間が遅くなってしまった生徒に対して、中学校職員室において防犯ブザーの貸し出しを行う。貸し出し名簿に氏名を記入し、返却時に名簿にチェックする。

(3) 危険予測・回避能力を身につけさせるための防犯指導の推進

生徒自らが登下校の安全を考えたり、ロールプレイングの手法を活用した防犯教育の授業等を実施する。次のようなことについて、事前に生徒に対し、日ごろから指導を徹底しておく。

○登下校等はできるだけ複数で、人通りの多い所を通行すること。

○誘拐やわいせつ行為などの手口には様々なものがあること。（例えば「手伝ってほしい」と言って近づく等）

○不審者に遭遇したら、自分が危険であることを伝えるため大声を出す（防犯ブザーの活用）などして、できるだけ早く近くの大人に伝えること。

○「子ども110番の家」が近くにある場合は、そちらに逃げる。あるいは、コンビニエンスストアや商店など、大人が常駐している場所へ逃げ込むこと。

○近くに誰もいなかったら、不審者から遠ざかる方向に逃げること。

○安全な場所まで逃げたら、警察署、家、学校へ連絡・通報すること。近くに大人がいれば事情を話し、協力を求めること。

○余裕があれば、不審者の特徴や、不審者が自動車等に乗っていればそのナンバー等を記憶、記録すること。

(4) 情報の収集と発信

ア 「ピーガルくん 子ども安全メール」の活用

神奈川県警察のホームページから登録すれば、声かけや不審者などの情報を電子メールで受信できるサービスを提供している。これらのサービスがあることを保護者等に周知する。

イ 学校警察連絡協議会との連携

学校警察連絡協議会を通じて情報交換に努めるとともに、不審者情報や事件情報については、迅速に的確に把握し対応を図る。

(5) 地域との協力関係

「子ども110番の家」等の存在や利用の仕方について、生徒に周知徹底する。

3 チェックと対応

■ チェック1 緊急対応が必要か

不審者情報には、近隣の地域での情報、重大事件から誤報、また、現在進行中のことから数日前の出来事など様々な情報が学校に寄せられる。

第一報が入った時点で、緊急に対応しなければならない情報かどうか判断する。

(1) 第一報で把握したい情報

- いつ、どこで、誰に、どんなことが起こったか。
- 警察（110番）に通報したか。
- 負傷者はいるか。
- 周りに他の生徒はいるか。

(2) 緊急対応が必要かどうか見分けるポイント

例えば、次のような状況が続いており、生徒の安全が確保されていない場合、緊急対応が必要。

- 凶器を持った不審者が、通学路の近くでうろついている。
- 登下校中の生徒が、不審者に襲われ、けがをした。
- 不審者が、登下校中の生徒に声をかけ、連れ去ろうとしている。
- 学校区内や周辺で、凶悪な犯罪が発生し、解決していない。

□ 対応1 被害者等の安全確保

緊急対応が必要と判断した場合、予め決めておいた役割分担に基づき、具体的な対応を行う。

(1) 警察に通報されていない場合は、「110番」通報する。

(2) 現場（含病院等）に急行し、情報収集と整理を行う。

ア 生徒（周辺の生徒含む）や不審者の現状、対応状況等について情報の収集整理を行う。

- 周辺の店や民家などに避難している生徒の有無
- 不審者の状況
- 現場では誰がどのような対応をしたか

○負傷者が病院に搬送されていれば、病院に急行し、負傷者の氏名、状況等を把握

*現場と学校で連絡を取り合うこと。

イ 仮に、不審者が近辺にいると考えられる場合は、警察が到着するまでの間、生徒の安全を確保する。

(3) 教育委員会へ緊急連絡を行う。

(4) 負傷者がいる場合には、応急手当の実施、緊急通報や保護者への連絡を行う。

ア 救急車の要請をしていない場合は、「119番」通報する。

イ 負傷した生徒の保護者に、負傷状況や搬送先の病院などを連絡する。

■ チェック2 不審者が確保されているか

不審者が確保されていない場合、登下校時の生徒に被害が及ぶ危険性も考えられるため、被害者等の安全確保を行った後、警察に対し、不審者が確保されているか確認を

行う。

警察に確認するポイントとして、

- 不審者が確保されているか
- 確保されていない場合、登下校中の生徒に被害が及ぶ危険性があるか。
- どの地域で危険性があるのか。
- 学校への指示等があるか。

□ 対応2 登下校の安全確保

警察情報をもとに、不審者が確保されていなく、登下校の安全確保のための緊急対応が必要である場合は、生徒の学校での保護、防犯パトロールや生徒の引率などの対応が考えられるが、これらのことは、警察と相談しながら進める。

- (1) 安全確保までの生徒の保護、保護者への引渡しや集団登下校を行う。
 - 生徒の現在の状況（登校中、下校中、登校前、帰宅後など）を把握する。
 - 登校前であれば、必要に応じて自宅待機させる。
 - 下校前の場合は、安全が確保されるまで学校に待機させる。
- (2) 登下校中の場合などは、教職員による防犯パトロールを実施する。
- (3) 学校警察連絡協議会等を通じての近隣校等への情報提供を行う。
- (4) 必要に応じて、緊急メール配信を行う。

□ 対応3 事後の対応

事態が収束した後、その事態の発生要因を分析し、事態への対応を見直すことによって、日頃の対策と緊急対応を改善し、登下校時の安全対策の強化を図る必要がある。

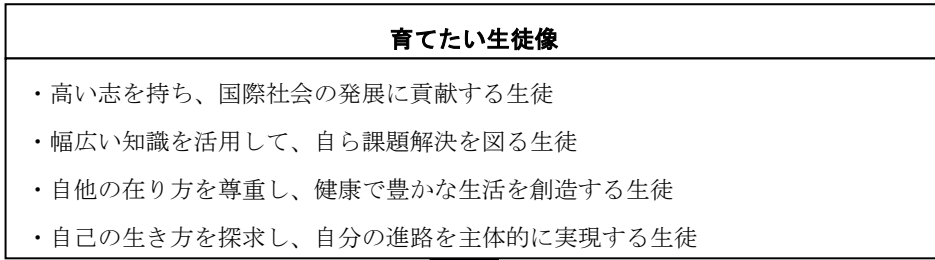
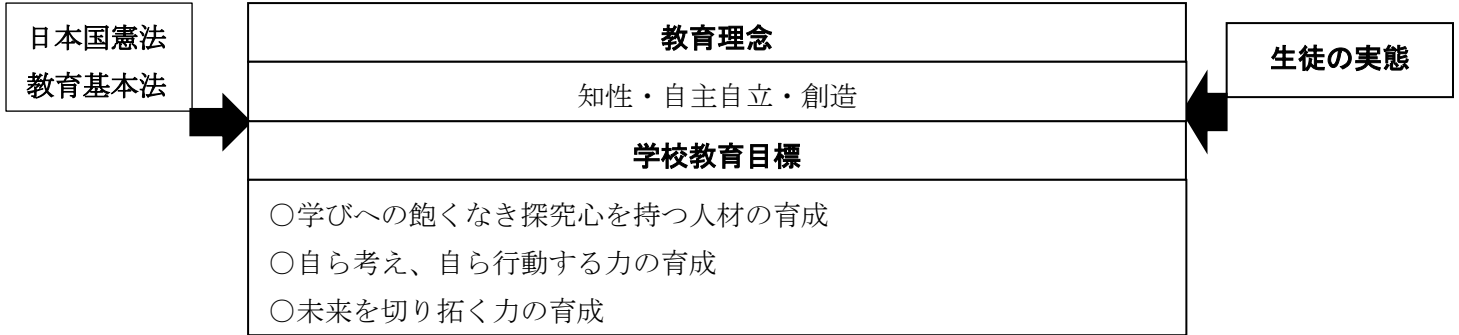
また、保護者等への説明、生徒への心のケアを適切に行う必要がある。

- (1) 情報の整理と提供、保護者等への説明
事態に関する情報の整理を行い、保護者等への説明を実施する。
- (2) 生徒への心のケアの実施
- (3) 再発防止対策の実施
 - 通学路の安全点検を実施するとともに事態の発生原因を分析する。
 - 原因に対して、対応策を検討する。
 - 対応策については、地域のボランティア、警察等の関係機関の協力も視野に入れる。

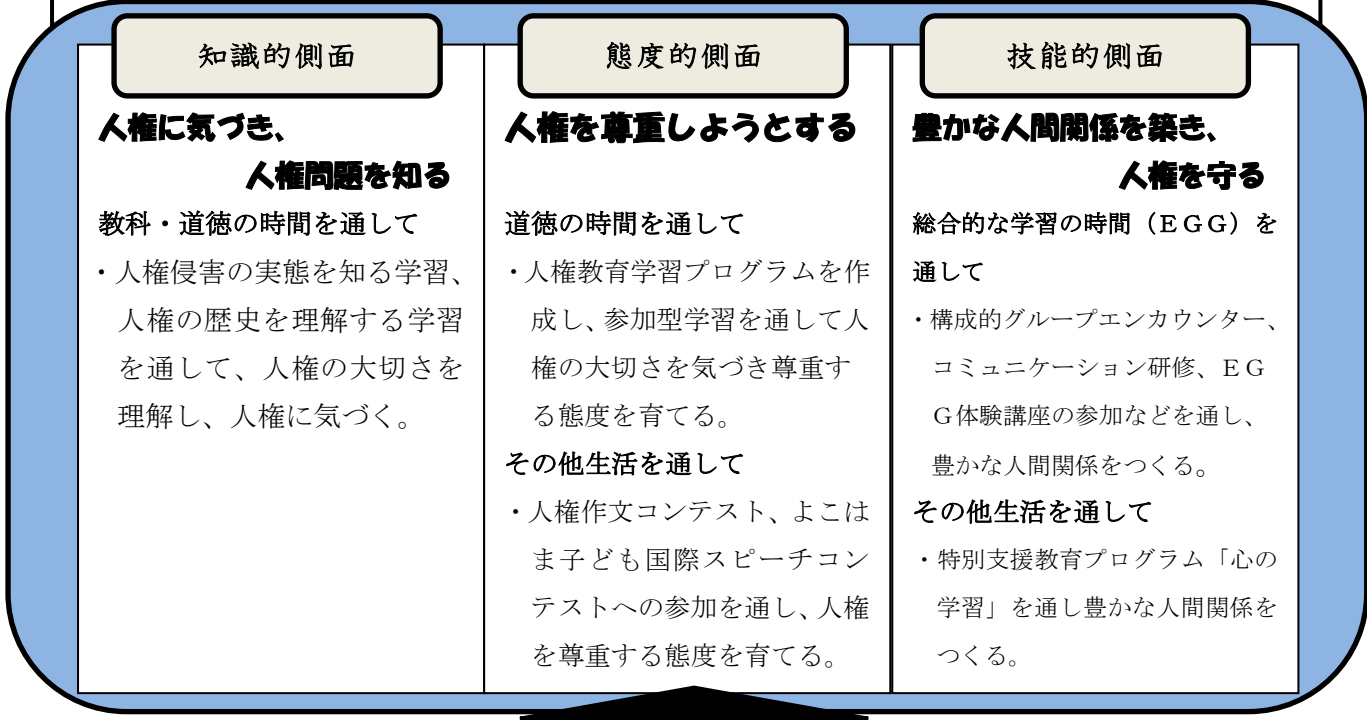
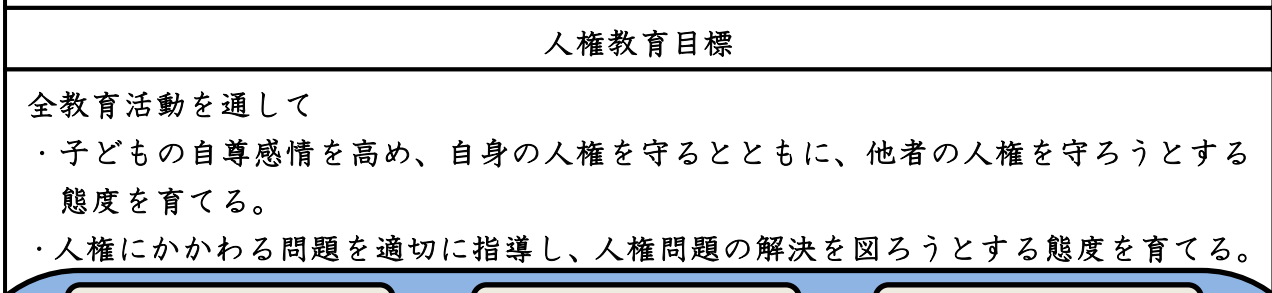
横浜市立南高等学校附属中学校における初動対応シート

場面	対象	地震発生	安全確保	1次避難	安全確認	予想される二次災害	2次避難	安全確認	情報収集 被害状況把握	保護者へ連絡・引き渡し
授業中	校長・副校長	地震発生	●緊急放送・非常通報の指示 ●テレビ・ラジオ等で地震・津波警報等の確認と最新情報入手	●統轄本部設置 ●校長は、高校管理職と連携の上、校長室(職員室)で指揮 ●緊急放送で全校避難を指示	●統轄本部設置 ●校長は、校長室(職員室)で指揮	津波の影響	●安全な場所への避難・誘導・避難活動継続 ●被害状況の確認と最新情報の入手	●人数と安否確認 生徒→担任→学年主任→総務主任→校長 ①周囲の被害状況の把握 ②負傷者の確認と手当て ③生徒の不安緩和 ④病院等の医療機関との連携	<高校教育課へ連絡> (第1次報告に変更がある場合) <防災無線、FAXの活用>	●被害状況の把握 ①学校周辺の被害状況 ②公共交通機関等の運行状況 ③携帯電話への接続状況 ④保護者への連絡方法の確認
	教職員		●的確な指示 ①「頭部をまもれ」 ②「机の下にもぐれ」 ③「机の脚をもぐれ」 ④「安心するような声かけ」	●校舎へ避難誘導 ①出席簿、非常持ち出し袋の持ち出し ②配慮を要する子どもへの対応 ③トイレ、特別教室等に生徒が残っていないか確認	●1次避難状況を高校教育課へ報告(1次報告:FAX)		●避難誘導 ●的確な情報を与え、落ち着くように指示 ●学年主任は、出席簿、非常持ち出し袋を持って移動	●施設被害状況の把握 ●危険箇所の立入禁止措置	●役割分担に従って行動 ①学校、地域の被害状況把握(通学路等も...) ②ライフライン、公共交通機関の状況 ③負傷者への対応 ④危険箇所の確認と立入禁止の表示 ⑤不安を訴えている子どもへの対応(養護教諭中心に)	保護者へ連絡 ①電話による連絡 ②メール配信、学校HPIにup
	生徒	●揺れがおさまるのを待つ 机の下にもぐり、落下物から身を守る	●落ち着いて移動 ●頭を保護しながら上履きそのまま移動 ●「おかしもの約束」 ●おさない ●かけない ●しゃべらない ●もどらない	●負傷者がいる場合は助け合う ①勝手な行動をとらない ②私語をつつしむ	●落ち着いて移動 ●頭部を保護しながら上履きそのまま移動 ●教員の指示に従い、急いで集合場所へ移動	●負傷者がいる場合は助け合う ①勝手な行動をとらない ②私語をつつしむ	●避難場所で静かに待つ ●指示に従って、帰宅準備を行う	●下校 ①保護者への引き渡し ②留め置き ③保護者との待ち合わせ場所へ		
大地震発生・大津波警報発表	校長・副校長	地震発生	●揺れがおさまるのを待つ 机の下にもぐり、落下物から身を守る	●落ち着いて移動 ●頭を保護しながら上履きそのまま移動 ●「おかしもの約束」 ●おさない ●かけない ●しゃべらない ●もどらない	●負傷者がいる場合は助け合う ①勝手な行動をとらない ②私語をつつしむ	校舎倒壊 火災発生	○校舎倒壊・火災発生 <校舎等からできるだけ離れた場所への避難指示> ①校舎から離れた場所 ②近隣の公園 ③地域防災拠点(下永谷小・永野小・相武山小・東永谷中)	●人数と安否確認 生徒→担任→学年主任→総務主任→校長 ①周囲の被害状況の把握 ②負傷者の確認と手当て ③生徒の不安緩和 ④病院等の医療機関との連携	<高校教育課へ連絡> (第1次報告に変更がある場合) <防災無線、FAXの活用>	●統轄本部で情報収集 ①学校周辺の被害状況 ②公共交通機関等の運行状況 ③携帯電話への接続状況 ④保護者への連絡方法の確認
	教職員		●的確な指示 ①「頭部をまもれ」 ②「机の下にもぐれ」 ③「机の脚をもぐれ」 ④「安心するような声かけ」	●校舎へ避難誘導 ①出席簿、非常持ち出し袋の持ち出し ②配慮を要する子どもへの対応 ③トイレ、特別教室等に生徒が残っていないか確認	●1次避難状況を高校教育課へ報告(1次報告:FAX)		●避難誘導 ●的確な情報を与え、落ち着くように指示	●施設被害状況の把握 ●危険箇所の立入禁止措置	●役割分担に従って行動 ①学校、地域の被害状況把握(通学路等も...) ②ライフライン、公共交通機関の状況 ③負傷者への対応 ④危険箇所の確認と立入禁止の表示 ⑤不安を訴えている子どもへの対応(養護教諭中心に)	保護者へ連絡 ①電話による連絡 ②メール配信、学校HPIにup
	生徒	●揺れがおさまるのを待つ ①高層ビル等からの落下部に注意 ②ブロック塀、自販機から離れ、頭部を保護	●安全な場所へ避難 ●揺れがおさまるのを待ち、安全な場所への移動を指示	●安全な場所へ避難 ●揺れがおさまるのを待ち、安全な場所への移動を指示	●負傷者がいる場合は助け合う ①勝手な行動をとらない ②私語をつつしむ	●学校 ①教員の指示に従い、落ち着いて行動する ②頭部を保護しながら上履きそのまま移動	●負傷者がいる場合は助け合う 勝手な行動をとらない 私語をつつしむ	●避難場所で静かに待つ ●指示に従って、帰宅準備を行う	下校 ①保護者への引き渡し ②留め置き ③保護者との待ち合わせ場所へ	
校外学習等	校長・副校長	地震発生	●安全確保を最優先 ①地形や滞在場所の状況を確認し、安全確保を指示 ②公共交通機関を使用している場合は乗務員の指示に従う	●揺れがおさまるのを待ち、安全な場所への移動を指示	●学校へ連絡し、状況を報告、指示を受ける ●地元公共機関等へ連絡し、救援要請を行う	津波の影響 を受ける と予想される地域 にいた場合	●地元公共機関等の指示を受け、近隣ビルの最上階又は近くの丘陵地への避難誘導 ●津波情報の確認と最新情報入手 ●学校へ詳細を連絡し、指示を受ける	●人数と安否確認 ①周囲の被害状況の把握 ②負傷者の確認と手当て ③生徒の不安緩和 ④地元病院等の医療機関との連携	●学校における今後の対応策の検討 ①現地からの報告を受け、高校教育課に報告 ②保護者へ連絡 ●現状の説明(安否についても) ●帰校方法等について ③現地から帰校させる交通手段等の手配 ④地元公共機関への救援要請 ⑤現地への教職員派遣	※海外への修学旅行等、校外活動中に横浜市内で大規模地震に伴う被害が出た場合は、学校または高校教育課に連絡し、旅行者と調整の上、具体的な指示を受けてから行動する。
	教職員		●揺れがおさまるのを待つ、安全な場所へ避難させる	●生徒を安全な場所へ移動させる ●公共交通機関を使用している場合は、乗務員の避難指示に従う	●学校へ連絡し、状況を報告、指示を受ける ●地元公共機関等へ連絡し、救援要請を行う		●津波の影響を受ける と予想される地域にいた場合	●教員や地元の方々の指示に従う ①落ち着いて行動する ②勝手な行動をとらない ③教師とはぐれた時は、動かさず、その場で待つ	●人数と安否確認 ①周囲の被害状況の把握 ②負傷者の確認と手当て ③生徒の不安緩和 ④地元病院等の医療機関との連携	●学校における今後の対応策の検討 ①現地からの報告を受け、高校教育課に報告 ②保護者へ連絡 ●現状の説明(安否についても) ●帰校方法等について ③現地から帰校させる交通手段等の手配 ④地元公共機関への救援要請 ⑤現地への教職員派遣
	生徒	●揺れがおさまるのを待つ ①高層ビル等からの落下部に注意 ②ブロック塀、自販機から離れ、頭部を保護	●安全な場所へ避難 ①教員や公共交通機関の乗務員の避難指示に従う ②教師とはぐれた時は、動かさず、その場で待つ	●負傷者がいる場合は助け合う ①勝手な行動をとらない ②私語をつつしむ	●津波の影響を受ける と予想される地域にいた場合	●教員や地元の方々の指示に従う ①落ち着いて行動する ②勝手な行動をとらない ③教師とはぐれた時は、動かさず、その場で待つ	●人数と安否確認 ①周囲の被害状況の把握 ②負傷者の確認と手当て ③生徒の不安緩和 ④地元病院等の医療機関との連携	●学校における今後の対応策の検討 ①現地からの報告を受け、高校教育課に報告 ②保護者へ連絡 ●現状の説明(安否についても) ●帰校方法等について ③現地から帰校させる交通手段等の手配 ④地元公共機関への救援要請 ⑤現地への教職員派遣	※海外への修学旅行等、校外活動中に横浜市内で大規模地震に伴う被害が出た場合は、学校または高校教育課に連絡し、旅行者と調整の上、具体的な指示を受けてから行動する。	

横浜市立南高等学校附属中学校人権教育全体構造図



「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校づくり



人権教育の成立基盤としての教育・学習環境

いじめや体罰のない状態の中で学校生活が送れるような配慮・指導

- 積極的な授業公開
- 教職員向け人権研修
- 教員間の生徒や学級の情報交換
- 生徒向けアンケートの実施

横浜市立南高等学校附属中学校いじめ防止基本方針

横浜市立南高等学校附属中学校

平成 26 年 3 月 31 日策定

平成 30 年 1 月 26 日改訂

南高校附属中学校は、平成 24 年に中高一貫教育校として、「知性」「自主自立」「創造」の教育理念を掲げ、学びへの飽くなき探究心、自ら考え自ら行動する力、未来を切りひらく力の育成を通して、グローバル社会の課題を解決しようと社会の先頭に立つことができる人材の育成を目標として開校した。

この目標を達成するためには、全校生徒が安心して学校生活を送り、高い志を実現できるように、教職員が生徒とともにいじめを抑止し、人権を守る土壌を育み、いじめを許さない学校づくりが必要不可欠である。そのためここに日常の指導体制を定め、いじめの未然防止及び早期発見に取り組むとともに、いじめを認知した場合には適切かつ迅速に解決するため、「横浜市立南高等学校附属中学校いじめ防止基本方針」を定める。

1 いじめ防止に向けた学校の考え方

(1) いじめの定義

いじめとはいじめ防止対策推進法第 2 条にあるように、「児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているもの」を言う。

(2) いじめ防止等に向けての基本理念

いじめの防止に向けては、教職員が生徒とともにいじめを抑止し人権を守る土壌を育み、いじめを許さない学校づくりを推進することが必要である。そのため、自主自立の校風を一層重視し、質の高い授業、学級活動、生徒会活動、学校行事及び部活動等を充実させることで、自尊感情と他者を思いやる豊かな心、適切な人間関係を構築する力を伸ばさせる。また教職員は日頃より生徒一人ひとりの思いや成長に寄り添い、生徒理解を深めるとともに教育相談体制の充実を図り、教職員が生徒の悩みや抱える問題等について早期に受信する能力を向上させる。

いじめを認知した場合には迅速に事実把握に努め、必要に応じて関連機関との連携を図り、早期に解決することができるよう全教職員で組織的に取り組む。

2 学校いじめ防止対策委員会の設置

(1) 委員会の構成員

校内に学校いじめ防止対策委員会を設置し、その構成員は次のとおりとする。

<構成員>

校長、副校長、生徒指導専任教諭（主幹教諭）、各学年所属の生徒指導係教諭（主幹教諭）、養護教諭（主幹養護教諭）とし、必要に応じて他の関係職員・スクールカウンセラー等が参加する。

(2) 委員会の運営

ア 委員会を常設し、月1回以上定期的に開催する。

イ 校長はいじめの疑いがある段階で、直ちに学校いじめ防止対策委員会の委員を招集し、同会議を主宰する。

ウ 校長等の責任者は、学校として組織的に対応方針を決定するとともに、会議録を作成・保管し、進捗の管理を行う。

(3) 委員会の活動内容

学校いじめ防止対策委員会は、学校が組織的かつ実効的にいじめの問題に取り組む中核の役割を担うものであり、主な活動内容は次の通りとする。

ア いじめの未然防止・早期発見

継続的ないじめ未然防止のための研修の計画や教職員の見取り情報の共有及び定期的なアンケート実施によるいじめの早期発見や予防の推進。

イ いじめの事案対処

いじめ解決のための事実調査、対応及び解決方法の検討と関係者への報告を行い、事案の必要性に応じてカウンセラーや児童相談所などの関連機関との連携について中心的な役割を果たす。

*年間活動計画は別添

3 いじめの未然防止、早期発見・事案対処

(1) いじめの未然防止

自主自立の精神による生徒の活動を支援し、道徳、学級活動、生徒会活動、学校行事等で思いやりのある適切な人間関係の構築を指導する。さらに、授業規律を確立するとともに、生徒主体の学習場面を設定し、さまざまな考え方や感じ方を受けとめられる集団作りの中で、自尊感情の向上を図る。

(2) いじめの早期発見

ア 生徒会活動、部活動などさまざまな場面で生徒の情報を常に共有できるよう、日頃から教職員間のコミュニケーションの円滑化を促進するとともに、職員会議及び学年会等での情報交換の場を設定する。

イ いじめなどの生徒からの訴えを適切に把握するため、いじめ防止アンケートを実施するとともに人権を尊重し守る意識を醸成する。

ウ 担任による教育相談を定期的に行い、学習や部活動、人間関係などについて安心して相談できる体制を構築する。

(3) いじめに対する措置

- ア 毎月開催されるいじめ防止対策委員会において校内の情報を共有し、いじめの疑いがあった段階で速やかな対応を行うと共に、担任や顧問が一人で解決するのではなく、学校として組織的に解決に向けて取り組む。
- イ 被害生徒及び保護者への連絡や支援について迅速に対応する。同時に加害生徒及び保護者についても、指導方針を明確にして対応する。被害、加害ともに必要に応じて、教育委員会、児童相談所、区役所や地元警察など関係機関と連携を図る。

(4) いじめの解消

いじめ解消の要件としては、次の2つの要件を満たすこととする。

- ア いじめの行為が少なくとも3ヶ月止んでいること。
- イ いじめを受けた生徒が、心身の苦痛を感じていないこと。

(5) 教職員の研修

- ア 生徒理解と人権意識に基づいて、中学生の発達段階に応じた適切な生徒指導の力を教職員が身につけられるよう研修する。
- イ いじめ防止について校内研修を実施し、全教職員がいじめは人権を侵害する問題であるとの認識を持ち、早期発見できる力を育成し、迅速な解決を図る力量を向上させる。

(6) 学校運営協議会の活用

いじめについては発生した事案によって、個人情報に適切に配慮しながら、事実を学校運営協議会に報告したり、助言を得たりする。

4 重大事態への対処

ここで言う重大事態とは、いじめ防止対策推進法で定義された「いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき」及び「いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき」の状態にあることを言う。

重大事態が発生した場合は、直ちに教育委員会へ報告し、いじめ防止対策委員会を中心として事実の調査及び確認を行い、事案の全体像を早期に把握する。

いじめを受けた生徒及び保護者に対し、調査及び事実確認の内容を報告するとともに、いじめの解決について可能な方策を検討し実施する。

5 いじめ防止対策の点検見直し

学校は、いじめに対応する組織体制や対応の流れについて、少なくとも年1回点検を行い、必要に応じて組織や取組等の見直しを行う。~~必要がある場合は、横浜市いじめ防止基本方針を含めて見直しを検討し、措置を講じる。~~

附則

この基本方針は、平成26年2月策定、3月より実施

この基本方針は、平成30年1月26日改訂、同日実施

別添1

<いじめ防止対策委員会年間活動計画>

- 4月
 - ・いじめ防止対策委員会発足
 - ・教育相談の実施
 - ・P A Aで専門家からの見立ておよび情報共有
- 5月
 - ・学校運営協議会の開催
 - ・hyper-QU アンケートの実施
 - ・コミュニケーション研修、グループエンカウンター研修で専門家からの見立ておよび情報共有
- 6月
 - ・いじめ防止対策委員会にて情報交換、生徒の状況把握
 - ・hyper-QU アンケートの分析報告会
- 7月
 - ・学級担任による個人面談、学年会での情報を集約し状況理解
 - ・**e ネットキャラバン、警察によるインターネット・携帯電話使用に関する講演会**
- 9月
 - ・夏休み明けの生徒の変化について情報収集
- 10月
 - ・いじめ防止対策研修の実施
- 11月
 - ・学校運営協議会との連携
 - ・学校評価アンケートの実施
- 12月
 - ・いじめ解決一斉キャンペーン
 - …ポスターの掲示、のぼりの掲示、アンケートの実施
 - ・いじめ解決のための生活アンケート（生徒・職員）の実施
 - ・学級担任による個人面談、学年会での情報集約
 - ・学校評価アンケートの集計、分析
- 1月
 - ・グループエンカウンター研修
- 2月
 - ・学校運営協議会委員による学校関係者評価
 - ・新入生保護者説明会でいじめ防止に関する説明
- 3月
 - ・学校運営協議会の開催…学校評価における改善案の了承
 - ・次年度の年間計画作成

<毎月の取り組み>

(職員)

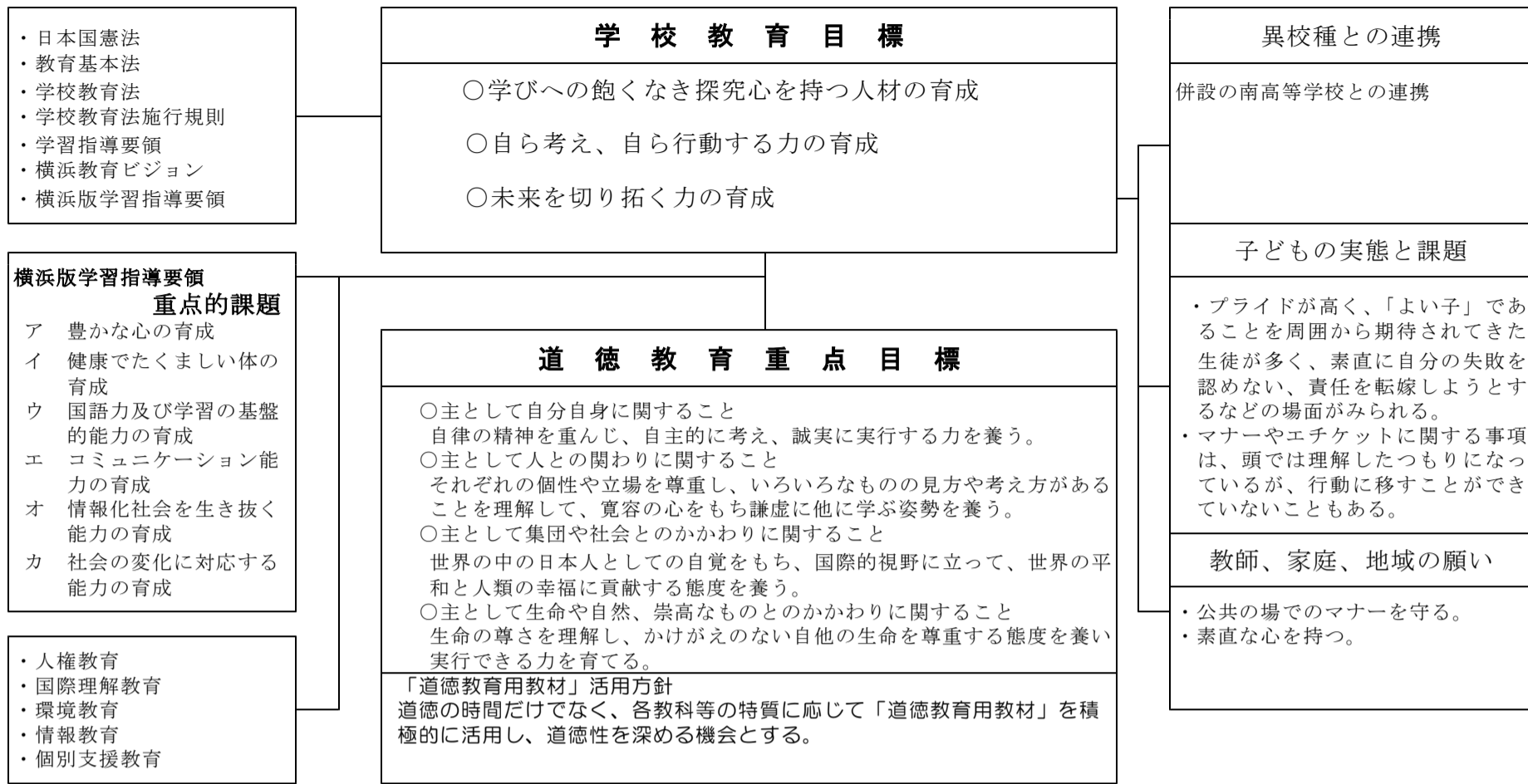
- ・いじめ防止対策委員会の実施
- ・学年会でいじめの防止や対応に関する研修
- ・生徒指導係会で報告、情報交換
- ・P T A懇話会で情報交換

(生徒)

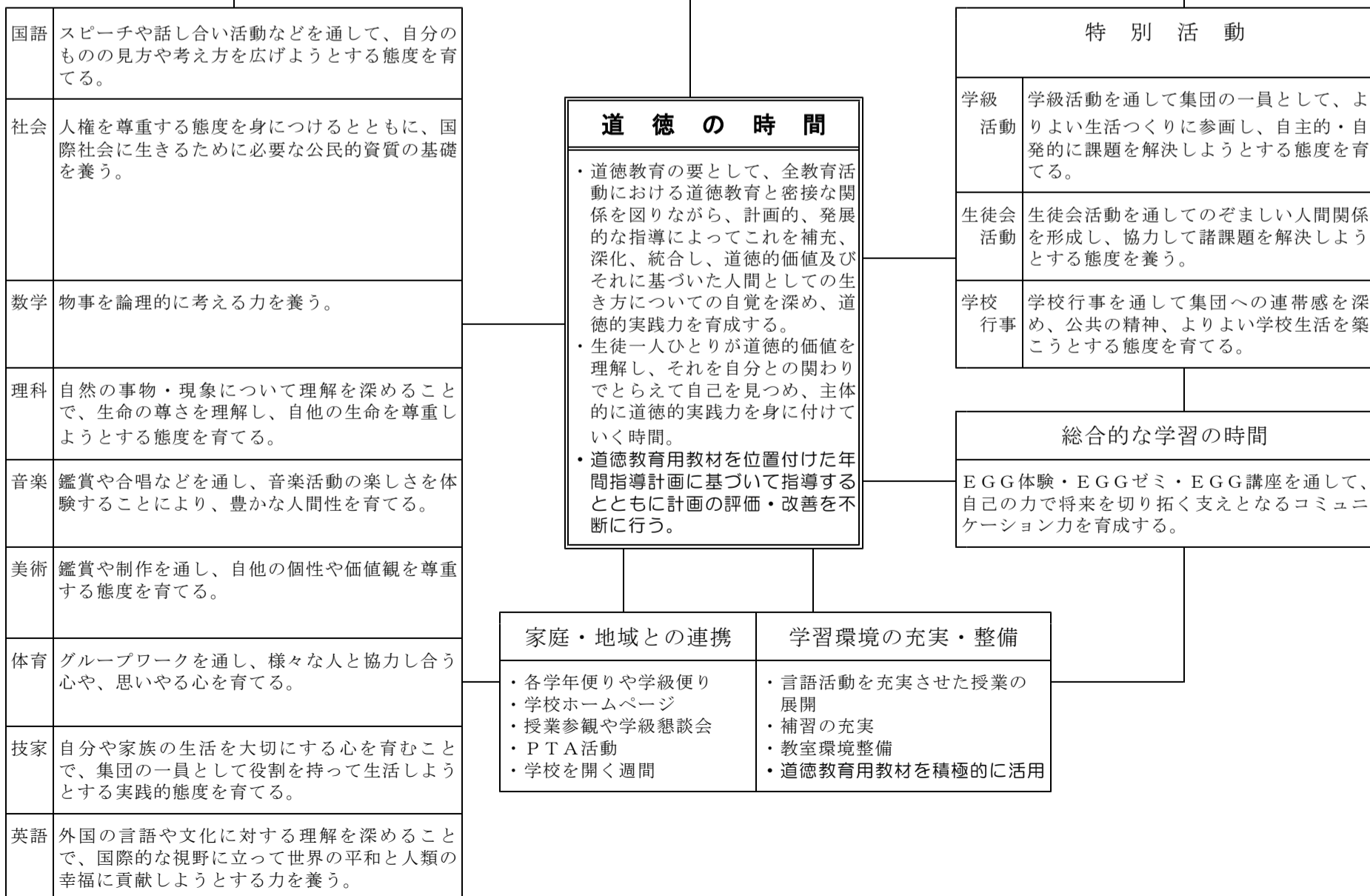
- ・道徳の授業で、グループワークトレーニングの実施
- ・各教科等での、言語活動を重視した協同的な学び

道徳教育全体計画 構造図

横浜市立南高等学校附属中学校



学 年 重 点 目 標		
第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
A	心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心がけ調和のある生活をする。	より高い目標を設定し、着実にやり抜く強い意志を持つ。
B	それぞれの個性や立場を尊重する。	友情の尊さを理解して心から信頼しあえる友だちをもち、互いに励ましあい、高めあう。
C	学級や学校の一員としての自覚を持ち、協力してよりよい校風を樹立する。	優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。
D	生命の尊さを理解し、自他の生命を尊重する。	美しいものに感動する豊かな心を持つ。
		自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任を持つ。 他者との価値観の違いを肯定的に捉え、自己肯定感を持つとともに、他の人々に対し思いやりの心を持つ。 地域社会の一員としての自覚を持つとともに、国際的な視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する。 人間として生きることの喜びを見だし、より充実した生活を送れる。



月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月									
道徳の時間	A-2 節度・節制 C-6 よりよい学校生活	D-1 生命の尊さ 生命の尊さ C-7 郷土の伝統と文化の尊重 C-5 家族愛 家庭生活の充実	D-3 感動 畏敬の念 A-3 個性の伸長 A-1 自主 自律 自由と責任	C-9 国際理解 国際貢献 C-1 遵法精神 A-2 節度・節制	C-4 勤労 A-1 自主 自律 自由と責任 C-2 社会正義	D-1 生命の尊さ	C-3 公共の精神 B-3 友情 信頼	A-2 節度 節制 B-1 思いやり 感謝	C-8 我が国の伝統と文化の尊重 A-4 希望と勇氣、克己と強い意志	B-2 礼儀 D-2 自然愛護 D-3 感動 畏敬の念	B-4 相互理解 A-5 真理の探究 創造 D-4 よりよく生きる喜び									
国語	「宝物紹介スピーチ」 「野原はうたう」	「花曇りの向こう」 話し言葉と書き言葉 一枚レポート	二つの説明文を読む 「ダイコンは大きな根？」 「ちよっと立ち止まって」 文法 言葉の単位	南高附属中を紹介するスピーチ	ブックトークをしよう 文法2 文の組み立て	「運の花が降るころに」 横浜〇〇マップ作り 相手を明確にして手紙を書く	大人になれなかった弟たちに	七夕に思う 竹取物語 書き初めを書く 百人一首に親しむ	百人一首に親しむ 「少年の日の思い出」	故事成語	「流水とわたしたちの暮らし」 名作を読む(近代以降)									
道徳内容項目	A-3 個性の伸長	B-3 友情 信頼	C-1 遵法精神	C-6 よりよい学校生活	C-3 公共の精神	C-1 遵法精神	D-2 自然愛護	D-3 感動 畏敬の念	D-4 よりよく生きる喜び	C-3 公共の精神	D-2 自然愛護 D-3 感動 畏敬の念									
社会	世界のすがた	世界各地の人々の生活と環境	原始と古代の日本	中世の日本	世界の諸地域 アジア州 ヨーロッパ州 アフリカ州 北アメリカ州 南アメリカ州 オセアニア州	近世の日本	C-9 国際理解 国際貢献		C-8 我が国の伝統と文化の尊重	C-8 我が国の伝統と文化の尊重										
道徳内容項目	C-9 国際理解 国際貢献		C-8 我が国の伝統と文化の尊重		C-8 我が国の伝統と文化の尊重		C-9 国際理解 国際貢献		C-8 我が国の伝統と文化の尊重											
数学	正の数と負の数	式の計算	1次方程式・連立方程式	不等式	比例と反比例	資料の整理と活用	平面図形	空間図形	1次関数	A-2 節度・節制 A-4 希望と勇氣、克己と強い意志 A-3 個性の伸長 3-(3)人間の弱さと克服する強さ C-1 遵法精神										
理科	植物のくらしとなかま	光・音・力による現象	身のまわりの物質	活きている地球	D-1 生命の尊さ D-2 自然愛護		A-5 真理の探究 創造		A-5 真理の探究 創造		D-1 生命の尊さ D-2 自然愛護 3-(2)大いなるもの									
保健体育	新体カテスト 体づくり運動	陸上競技	保健 心身の発達	水泳	器械運動	バスケットボール	保健 心身の発達	サッカー	柔道	ダンス	A-2 節度・節制 A-4 希望と勇氣、克己と強い意志 A-3 個性の伸長 3-(3)人間の弱さと克服する強さ C-1 遵法精神 B-3 友情 信頼 D-4 よりよく生きる喜び D-1 生命の尊さ D-2 自然愛護 C-8 我が国の伝統と文化の尊重									
外国語	・月日、曜日、天気 ・身の回りの物	・アルファベット ・ローマ字 ・Book 1 Unit 1~6 (Round 1)	・Book 1 Unit 7~11 (Round 1) ・Book 1 Unit 1~6 (Round 2)	・Book 1 Unit 7~11 (Round 2)	・Book 1 Unit 1~11 (Round 3)	・Book 1 Unit 1~11 (Round 4) ・Book 1 Unit 1~6 (Round 5)	・Book 1 Unit 7~11 (Round 5)	・Book 2 Unit 1~4 (Round 1) ・マイコンブス			A-1 自主 自律 自由と責任 C-8 我が国の伝統と文化の尊重 C-9 国際理解 国際貢献									
総合	調査・分析のしかた	新聞テーマ決め	新聞作成のしかた	新聞作成	グループ活動計画・実施 グループ会議	グループ活動分析・まとめ ポスターセッション準備	ポスターセッション まとめ・考察	構成的グループエンカウンター研修	コミュニケーション研修	「ことばの時間」 インタビュー講座	英語集中研修 各種選択講座	開発教育講座	コミュニケーション研修	国際理解講座	宇宙開発講座	構成的グループエンカウンター講座	A-2 節度・節制 A-4 希望と勇氣、克己と強い意志 A-3 個性の伸長 B-3 友情 信頼 C-1 遵法精神			
特活	入学式 学級開き PAA	生徒総会 部活動入部	南高祭体育祭の部 合唱コンクール	前期期末テスト 大掃除	南高祭舞台の部 ・展示の部	生徒会役員選挙	大掃除 後期中間テスト	百人一首大会	学年合唱祭	卒業式 修了式	B-2 礼儀 C-6 よりよい学校生活	C-2 社会正義 C-6 よりよい学校生活	A-3 個性の伸長	C-3 公共の精神 C-4 勤労	1-(5)個性の伸長 4-(4)集団の中で の役割と責任	C-2 社会正義 C-6 よりよい学校生活	C-3 公共の精神 C-4 勤労	C-8 我が国の伝統と文化の尊重	A-3 個性の伸長 B-3 友情 信頼	B-1 思いやり 感謝 B-2 礼儀 C-6 よりよい学校生活

道徳の時間	学習内容 A-3 個性の伸長 C-15 よりよい学校生活	B-6 思いやり感謝 C-18 国際理解 国際貢献 C-13 勤労	C-13 勤労 C-21 感動 畏敬の念 B-7 礼儀	C-14 家族愛 家庭生活の充実 C-12 社会参画 公共の精神 A-2 節度 節制	B-7 礼儀 C-19 生命の尊さ B-6 思いやり 感謝 C-16 郷土の伝統と文化の尊重	C-10 道法の精神 公德心 C-14 家族愛 家庭生活の充実	A-5 真理の探究 創造 C-17 我が国の伝統と文化の尊重	C-11 公正 公平 社会正義 C-18 国際理解 国際貢献	B-6 相互理解 寛容 B-8 友情 信頼	A-1 自主 自律 自由と責任 A-4 希望と勇氣 克己と強い意志	C-20 自然愛護 C-22 よりよく生きる喜び
国語	学習内容 見えないだけ(詩) アイスプラネット	学校紹介ポスターのキャッチコピーを考える 校章 熟語の構成	生命が記録する科学メディアと上手につきあうために 類義語・対義語・多義語	短歌をあじわう言葉の力 読書案内 楷書と行書を調和させて書く(書写)	用言の活用 ポップづくり 盆土産 字のないはがき	モアイは語る 同音異義語 意見文を書く	説明の仕方を工夫する 平家物語 徒然草	君は「最後の晩餐」を知っているか パレルディスカッション 書き初め(書写)	落葉松(詩) 走れメロス 書評を書く 活用のない自立語	インタビューをして文章を書く 方言と共通語 仮名と漢字を調和させて行書で書く	読書生活を振り返る 付属語の種類 名作を読む
道徳内容項目	A-3個性の伸長 C-18国際理解	C-15よりよい学校生活・集団生活の充実 C-17伝統と文化の尊重	C-10道法の精神 C-11社会正義	C-17伝統と文化の尊重 A-5真理追求・理想の実現	B-6思いやり・感謝 C-14家族愛	D-20自然愛護 A-5真理の探究 C-11公正・公平	C-17日本の伝統と文化の尊重	A-5心理の探究 A-3個性の伸長 C-17日本の伝統と文化の尊重	C-11公共・公平、社会正義 C-14家族愛 A-3個性の伸長	A-3個性の伸長 C-16郷土の伝統と文化の尊重 C-17日本の伝統と文化の尊重	A-3個性の伸長
社会	学習内容 【地理】 世界から見た日本の姿	【歴史】 近世の日本		【地理】 日本の様々な地域			【歴史】 近代の日本と世界			【地理】 身近な地域の調査	
道徳内容項目	D-20自然愛護 C-18国際理解	A-2節度、節制 D-20自然愛護		C-16郷土の伝統と文化の尊重			A-5真理の探究			D-17我が国の伝統と文化の尊重	
数学	学習内容 図形と合同	三角形と四角形	式の計算	平方根	2次方程式	確率と標本調査	円	相似な図形			
道徳内容項目	A-2 節度・節制 A-4 希望と勇氣、克己と強い意志 A-3 個性の伸長 3-(3)人間の弱さと克服する強さ C-1 遵法精神										
理科	学習内容 電流の性質とその利用	動物のくらしやなかと生物の変遷			化学変化と原子・分子			地球の大気と天気の変化			
道徳内容項目	1-(3)自律の精神 4-(3)よりよい社会の実現	3-(1)生命の尊重 3-(2)自然の保護			4-(3)よりよい社会の実現 4-(4)役割と責任の自覚			3-(1)生命の尊重 3-(2)自然の保護			
保健体育	学習内容 新体カテスト 体づくり運動	陸上競技	保健 傷害の防止	水泳	器械運動	バレーボール	保健 健康と環境	ソフトボール	柔道	ダンス	
道徳内容項目	A-2 節度・節制 A-4 希望と勇氣、克己と強い意志 A-3 個性の伸長 3-(3)人間の弱さと克服する強さ C-1 遵法精神 B-3 友情 信頼										
道徳内容項目	D-4 よりよく生きる喜び		D-1 生命の尊さ	D-2 自然愛護			D-1 生命の尊さ		C-8 我が国の伝統と文化の尊重		
外国語	学習内容 ・Book 2 Unit 4~9 (Round 1)	・Book 2 Unit 1~9 (Round 2)		・Book 2 Unit 1~9 (Round 3)		・Book 2 Unit 1~9 (Round 4)		Book 3 Unit 1~3 (Round 1) マイテキストブック			
道徳内容項目	A-1 自主 自律 自由と責任 C-8 我が国の伝統と文化の尊重 C-9 国際理解 国際貢献										
総合	学習内容 ゼミ活動Ⅰ(芸術的な作品の制作)	ゼミ活動Ⅱ①(ミニ論文作成) ゼミ活動Ⅱ②(ウェブページの作成)			ゼミ活動Ⅲ①(ウェブページの作成) ゼミ活動Ⅲ②(ミニ論文作成)			ゼミ活動Ⅳ(英語プレゼンテーション)			
道徳内容項目	各種選択講座			イングリッシュキャンプ		法教育講座					
道徳内容項目	1-(3)自律の精神 1-(5)自己の向上 2-(5)個性の尊重 4-(2)社会連帯の自覚 4-(10)国際理解										
特活	学習内容 入学式 学級開き PAA	生徒総会 部活動入部	南高祭体育祭の部 合唱コンクール	前期期末テスト 大掃除	南高祭舞台の部 ・展示の部	イングリッシュキャンプ	生徒会役員選挙	大掃除 後期中間テスト	百人一首大会	学年合唱祭	卒業式 修了式
他	B-2 礼儀 C-6 よりよい学校生活	C-2 社会正義 C-6 よりよい学校生活	A-3 個性の伸長	C-3 公共の精神 C-4 勤労	1-(5)個性の伸長 4-(4)集団の中での役割と責任	1-(5)個性の伸長 2-(4)男女の協力 4-(4)集団の中での役割と責任	C-2 社会正義 C-6 よりよい学校生活	C-3 公共の精神 C-4 勤労	C-8 我が国の伝統と文化の尊重	A-3 個性の伸長 B-3 友情 信頼	B-1 思いやり 感謝 B-2 礼儀 C-6 よりよい学校生活

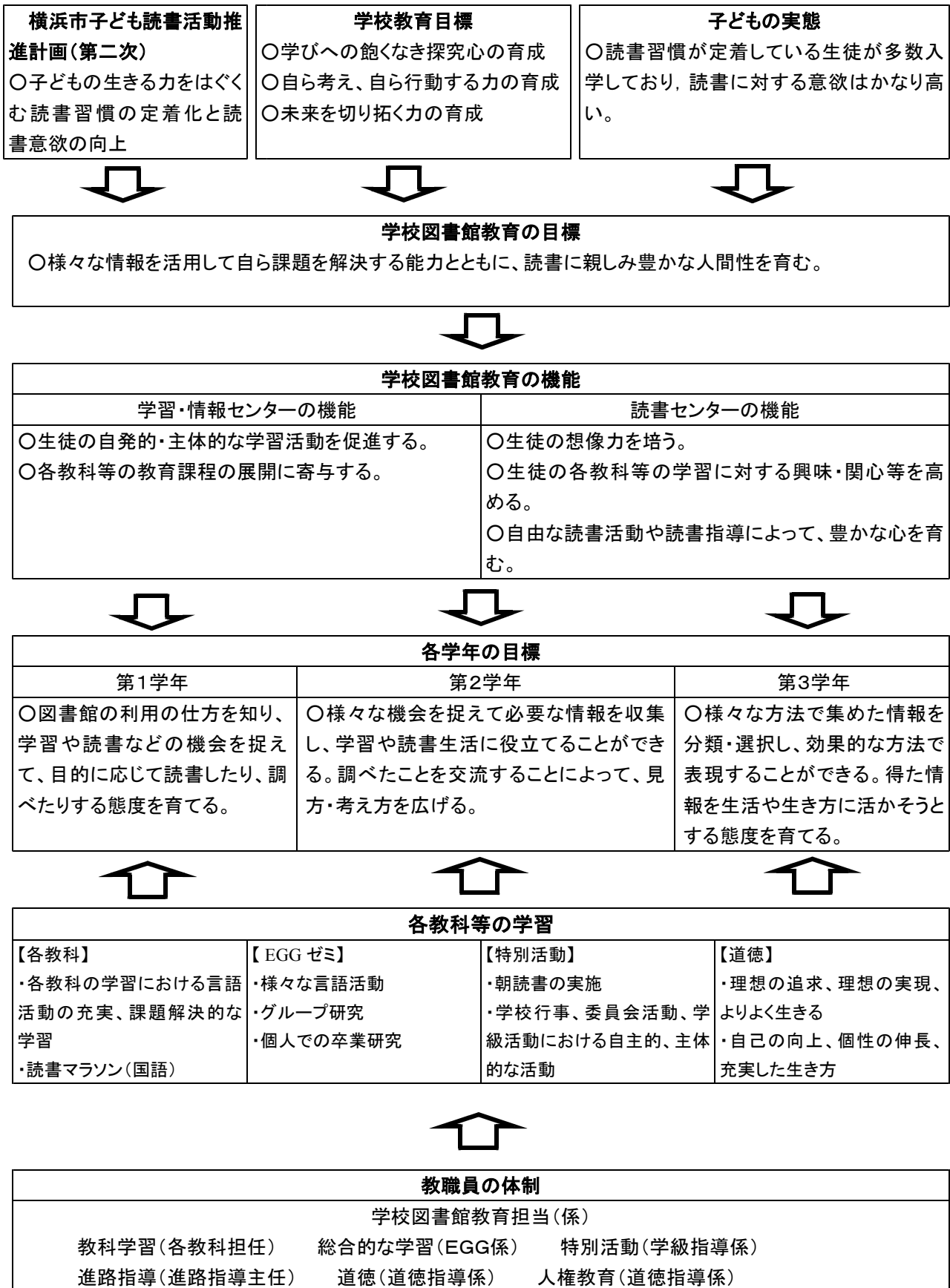
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
道徳の時間	A-3 個性の伸長 C-15 よりよい学校生活	B-6 思いやり 感謝 C-18 国際理解 国際貢献 C-13 勤労	D-21 感動 畏敬の念 C-13 勤労	B-7 礼儀 C-14 家族愛 家庭生活の充実	C-12 社会参画 公共の精神 B-7 礼儀	C-19 生命の尊さ B-6 思いやり 感謝	C-16 郷土の伝統と文化の尊重	C-14 家族愛 家庭生活の充実 A-5 真理の探究 創造	C-17 我が国の伝統と文化の尊重 C-11 公正 公平 社会正義	C-18 国際理解 国際貢献 B-9 相互理解 寛容 A-1 自主 自律 自由と責任	D-20 自然愛護 D-22 よりよく生きる喜び	
国語	三大和歌集(古典) 「握手」 (文学的文章)	「おくのほそ道」 (古典)	俳句の可能性	「高瀬舟」(文学的文章)	「ハブリックススピーチをしよう」(話す聞く) 「ビブリオバトルをしよう」(読書)	「故郷」(文学的文章)	論理の展開に着目して読もう・新聞の社説を比較する(論説文)	「課題解決に向けて話し合おう」(話す聞く)	書き初め(書写) 「アンソロジーを編もう」(読書)	「評論を読もう」(説明的文章)	3年間の歩みをスピーチする(話す聞く)	
道徳内容項目	A-4 希望と勇気 B-6 思いやり 感謝 C-17 我が国の伝統と文化の尊重	C-17 我が国の伝統と文化の尊重	C-17 我が国の伝統と文化の尊重	A-5 真理の探究 C-11 社会正義	C-12 社会参画 公共の精神 D-21 感動 畏敬の念	A-4 希望と勇気 克己と強い意志	C-11 公正 公平 社会正義	A-1 自主 自律 自由と責任	D-21 感動 畏敬の念	C-11 公正 公平 社会正義	A-5 真理の探究 創造	
社会	【歴史】 二度の世界大戦と日本 現代の日本と世界		【公民】 現代社会と私たちの生活	人権の尊重と日本国憲法	現代の民主政治と社会	地方の政治と自治	私たちの生活と経済 市場経済と金融	国際経済と日本経済 経済と社会保障	国民生活と福祉	国家と国際社会	地球環境と人類	
道徳内容項目	3-(1) 生命の尊さ 4-(10) 平和の尊さ		2-(4) 健全な異性観 2-(5) 広い心 4-(1) 社会の秩序 4-(2) 公德心・社会連帯			4-(1) 社会の秩序 4-(2) 公德心 4-(10) 平和の尊さ		1-(1) 望ましい生活習慣 4-(1) 社会の秩序 4-(2) 社会連帯		4-(10) 世界の平和 4-(10) 国際交流 3-(1) 生命の尊さ 3-(1) かけがえのない生命		
数学	円	関数 $y=ax^2$	三平方の定理	線分の比と計量	数学I 数と式			数学A 場合の数と確率				
道徳内容項目	A-2 節度・節制 A-4 希望と勇気、克己と強い意志 A-3 個性の伸長 3-(3) 人間の弱さと克服する強さ C-1 遵法精神											
理科	化学変化とイオン		生命の連続性		運動とエネルギー			地球と宇宙		自然と人間		
道徳内容項目	4-(4) 役割と責任の自覚		3-(1) 生命の尊さ 3-(2) 大いなるもの		1-(4) 理想の実現 4-(4) 役割と責任の自覚			3-(1) 生命の尊さ 3-(2) 大いなるもの		3-(1) 生命の尊さ 4-(9) 日本の美		
保健体育	新体カテスト 体づくり運動	陸上競技or器械運動	保健 健康な生活	水泳	ソフトボールor柔道			保健 病気の予防	バレーボールor柔道	バドミントンorサッカー		
道徳内容項目	1-(1) 健康の増進		1-(2) 強い意志		1-(5) 自己の向上		2-(3)(4) 仲間、男女の協力		4-(1) 集団の秩序、決まりの意義			
道徳内容項目	1-(4) 理想の追求		3-(1) 生命の尊重		3-(2) 自然愛・畏敬の念		2-(1) 礼儀の大切さ		4-(3) 差別のない社会		4-(9) 伝統と文化の継承	
外国語	Book 3 Unit 4~7 (Round 1)	Book 3 Unit 1~7 (Round 2)		Book 3 Unit 1~7 (Round 3)		Book 3 Unit 1~7 (Round 4)		Q:Skills for Success Reading and Writing Lesson 1~10				
道徳内容項目	A-1 自主 自律 自由と責任 C-8 我が国の伝統と文化の尊重 C-9 国際理解 国際貢献											
総	ゼミ活動(卒業研究テーマ設定)			ゼミ活動(予備調査活動)		海外研修旅行		ゼミ活動(調査研究活動)		ゼミ活動(卒業論文執筆)		卒業研究発表

合	道徳内容項目	1-(2) やりぬく力 1-(4) 理想の実現 4-(3) 理想社会の実現 4-(5) 社会への奉仕 4-(8) 郷土の伝統 4-(10) 平和の尊さ										
特活	学習内容	入学式 学級開き PAA	生徒総会 部活動入部	南高祭体育祭の 部 合唱コンクール	前期期末テスト 大掃除	南高祭舞台の 部 ・展示の部	カナダ研修旅行	生徒会役員選挙	大掃除 後期中間テスト	百人一首大会	学年合唱祭	卒業式 修了式
他	道徳内容項目	B-2 礼儀 C-6 よりよい学校 生活	C-2 社会正義 C-6 よりよい学校 生活	A-3 個性の伸長	C-3 公共の精神 C-4 勤労	1-(5)個性の伸長 4-(4)集団の中での 役割と責任	1-(5)個性の伸長 2-(5)広い心 4-(10)国際的視野	C-2 社会正義 C-6 よりよい学校 生活	C-3 公共の精神 C-4 勤労	C-8 我が国の伝 統と文化の尊重	A-3 個性の伸長 B-3 友情 信頼	B-1 思いやり 感 謝 B-2 礼儀 C-6 よりよい学校 生活

平成30年度 第1学年 道徳年間指導計画

回	月	日	項目 主題名	分野・資料名	活動	関連行事	備考	私たちの道徳
1	4月		A-2 節度、節制	「人生設計図」をつくってみよう（「生きる」P4・5 「私たちの道徳」P5）	読み物			○
2			C-15 よりよい学校生活、集団生活の充実	私が学校に行く理由（「エンカウンターで学級が変わる中学校編」）	エンカウンター			
3	5月		D-19 生命の尊さ	はだしのゲンが伝えたいこと	ビデオ			
4			C-16 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	はだしのゲンが伝えたいこと	ビデオ			
5			C-14 家族愛、家庭生活の充実	家族の一員としてできること				
6	6月		D-21 感動、畏敬の念	伝えよう、合唱のイメージ（「エンカウンターエクササイズ12か月中学校」）		合唱コン		
7			A-3 向上心、個性の伸長	アイデンティティの競売	エンカウンター		人権	
8			A-3 個性の伸長	権利の熱気球	エンカウンター		人権	
9			A-1 自主、自律、自由と責任	学校教育目標				
10	7月		C-18 国際理解、国際貢献	世界がもし100人の村だったら	ビデオ	人権作文	人権	
11			C-10 遵法精神、公徳心	権利と責任	エンカウンター		人権	
12			A-2 節度・節制	夏休み前振り返り				
13	8月		C-13 勤労	夏休みを終えて 選択EGGで学んだこと			進路	○
14	9月		A-1 自主 自律 自由と責任	インターネットの使い方				
15			C-11 公正、公平、社会正義	屋外生活者（ホームレス）について考える①			人権・福祉	
16			D-19 生命の尊さ	屋外生活者（ホームレス）について考える②			人権・福祉	
17	10月			道徳リレー				
18								
19								
20	11月							
21								
22								
23								
24	12月		D-19 生命の尊さ		「めぐみ」北朝鮮拉致被害者	ビデオ	人権週間	人権
25			C-12 社会参画、公共の精神		くらしに欲しいものの必要なもの	エンカウンター		人権・福祉
26			B-8 友情、信頼		先生ばかり住んでいるマンション	GW T		
27	1月		C-17 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	百人一首大会に向けて		百人一首		
28			A-2 節度 節制	見つけよう！自己コントロール法（「エンカウンターエクササイズ12か月中学校」）	エンカウンター			
29			A-4 希望と勇気、克己と強い意志	自分のことをまっすぐ見つめよう（「エンカウンターエクササイズ12か月中学校」）	エンカウンター			
30	2月		B-7 礼儀	他者への配慮、思いやり（「私たちの道徳」P150）	副読本			○
31			D-20 自然愛護	季節を感じよう！（「エンカウンターエクササイズ12か月中学校」）	エンカウンター			
32			A-5 真理の探究、創造	ちがいのちがい			人権	
33	3月		B-9 相互理解、寛容	帰郷（「私たちの道徳」P88～93）	副読本			○
34			B-6 思いやり、感謝	ありがとうを伝えよう	GW T		人権	
35			D-22 よりよく生きる喜び	1年間を振り返って				

南高等学校附属中学校 学校図書館教育全体計画



学校図書館教育年間指導計画

月	重点目標	図書館の行事・委員会	行事	総合的な学習	教科との関連
4月	利用オリエンテーション 子ども読書の日 (23日)	図書館開館 図書館利用指導 委員会便り発行 読A 情AB		総合的な学習の時間のオリエンテーション 情A	1年利用の指導 日本・世界の地域を調べる。 身近な自然に目を向ける。 読AB 情ABCDEFGHI
5月	朝読書の推進	本の貸し出し 書架整理 委員会便り発行 読A 情AB	合唱コンクール 準備 体育祭準備 情DE	「世界を幸せにする第一歩」という3学年共通テーマのもと、それぞれの学年で、探究的な学習を行う。 【1学年】	古典学習 日本・世界の地域を調べる。 読D 情BCDEFGH
6月	調べ学習での図書館活用の推進	新着図書紹介 本の貸し出し 書架整理 委員会便り発行 読A 情AB	体育祭 合唱コンクール 情DE	共通テーマに基づいて、クラスごとに設定した課題に応じて、情報の収集・整理・分析を行い、個人で新聞にまとめて文化祭で展示発表する。 【2学年】	俳句の調べ学習と創作 パブリックスピーチをする。 学校紹介スピーチをする。 動物の仲間と生物の進化について調べる。 読AB 情BCDEFGH
7月	夏休み前の読書指導及び課題研究を通して情報活用能力を育成する	七夕飾り 夏休み前の図書の紹介 書架整理 委員会便り発行 読ACD 情AB	文化祭準備(クラス・委員会発表内容検討) 情CDEFGH	クラスごとに年間を通して4つの探究的な学習を行う際に、課題設定・情報の収集・整理・分析を行う。 A 芸術的な作品の制作 B ホームページの作成 C 英語でのプレゼンテーション D ミニ論文作り 【3学年】	夏休みのための読書案内 読書感想文の指導 現代社会の特色について調べる。 飛鳥・天平・国風文化について調べる。 人権作文のための資料提供 読ABD 情BCDEFGH
8月	図書館環境の整備と充実		文化祭準備 情CDEFGH	個人で課題を設定し、情報の収集・整理・分析を行い、卒業研究に取り組む。 情ABCDEFGHI	ブックトークをする 日本の諸地域について調べる。 読A 情BCDEFGH
9月	文化祭準備での図書館利用を支援する。	青少年読書感想文コンクール参加、文化祭準備、古本市 読D	文化祭(クラス・委員会展示発表) 3年カナダ研修旅行事前学習 情CDEFGH	個人で課題を設定し、情報の収集・整理・分析を行い、卒業研究に取り組む。 情ABCDEFGHI	ブックトークをする 日本の諸地域について調べる。 読A 情BCDEFGH
10月	秋の読書週間行事を通して、読書に親しむ態度を養う。	新着図書紹介 本の貸し出し 書架整理 委員会便り発行 読書の貸し出し数調査 読A 情AB	3年カナダ研修旅行 2年イングリッシュキャンプ 情CDEFGH	「世界を幸せにする第一歩」という3学年共通テーマのもと、それぞれの学年で、探究的な学習を行う。 【1学年】	手紙の書き方を学ぶ。 古典学習 民主政治の仕組みを考える。 読AB 情BCDEFGH
11月	読書に親しむ態度を養う。	読書週間 本の貸し出し 書架整理 委員会便り発行本のポップ作り 読ACD 情AB	カナダ研修旅行事後学習 情CDEFGH	前期に調査した内容をもとに、実践を行う。個人ではレポートにまとめ、グループではポスターセッションで発表する。 【2学年】	古典の学習 各作品について調べ、発表する。 パネルディスカッションをする。 1年の歴史をまとめる。 読B 情BCDEFGH
12月	冬休み前の読書指導を行う。	冬休み前の図書の紹介 本の貸し出し 書架整理 委員会便り発行 読A	百人一首大会に向けて 情DE	4つの探究的な学習を行う際に、課題設定・情報の収集・整理・分析を行う。 A 芸術的な作品の制作 B ホームページの作成 C 英語でのプレゼンテーション D ミニ論文作り 【3学年】	古典の学習 各作品について調べ、発表する。 私たちの生活と経済の関連について調べる。 読B 情BCDEFGH
1月	図書館利用の定着を図り、効果的に活用する力を養う	本の貸し出し 書架整理 委員会便り発行 読A 情AB	百人一首大会に向けて 情DE	個人で課題を設定し、情報の収集・整理・分析を行い、卒業研究に取り組む。 成果物として卒業論文・抄録を完成させ、卒業研究発表会を行う。 情ABCDEFGHI	古典の学習 各作品について調べ、発表する。 私たちの生活と経済の関連について調べる。 読B 情BCDEFGH
2月	1年間の読書生活や図書館利用を振り返り、まとめ、新年度の準備をする。	本の貸し出し 書架整理 委員会便り発行 読A 情AB			鑑賞文を書く。 自然と人間の関わりについて調べる。 私たちの生活と国際社会の関わりについて調べる。 読B 情BCDEFGH
3月		図書の貸し出し数調査 新年度準備 読A 情AB			アンソロジーを作成する。 科学技術と人間の関係について調べる。 読B 情BCDEFGH

平成 30 年度 食育全体計画

南高等学校附属中学校

<p>生徒の実態</p> <p>朝食摂取率はほぼ 100%ではあるが、遠方から長時間かけて通学している生徒もおり朝食時間が早いことから、昼食までのエネルギー補給についての課題がある。</p> <p>また、食物アレルギーやその他の疾患の関係で、食事等の配慮が必要な生徒が数名いる。また、エピペン保持者もいる。</p>	<p>学校教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学びへの飽くなき探究心を持つ人材の育成 ●自ら考え、自ら行動する力の育成 ●未来を切り拓く力の育成
<p>食教育の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ●食事の重要性、喜び、楽しさを理解する ●心身の成長や健康の保持増進の上で、望ましい栄養や食事の摂り方を理解し、自ら管理していく能力を身に付ける ●食べ物や食事を大事にし、感謝する心とマナーを身に付ける ●食物の品質や安全性等に関心を持たせ、自ら判断できる能力を身に付ける ●各地域の産物、食文化や食にかかわる歴史等を理解し、食の重要性について考える 	

各学年の食教育の目標		
1 学年	2 学年	3 学年
<ul style="list-style-type: none"> ・健康と食事との関係について理解する ・食品に含まれる栄養素や働きを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事を通してよりよい人間関係を構築しようとする ・食品の生産・流通・消費について正しく理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康管理と食習慣について考え、望ましい生活習慣を身に付ける ・食文化と今の自身の食生活との関連を考えることができる

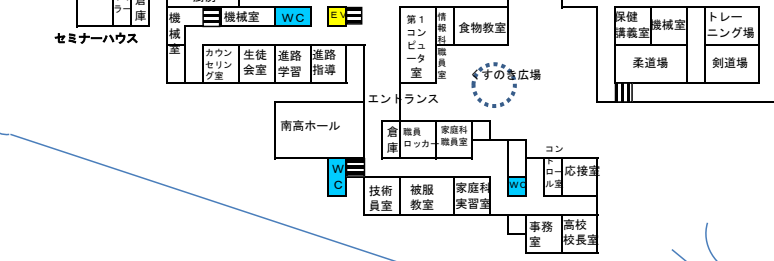
特別活動	<前 期>		<後 期>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい食事時間の過ごし方を考えよう ・衛生に気をつけて食事をしよう ・学食、パン屋の利用の仕方 ・自動販売機の利用の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい食事のマナーを身に付けよう ・感謝して食べよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体について知ろう 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の食生活と、健康について考えよう 	
学級活動	定期健康診断、体育祭、校外学習、授業参観		授業参観、学校保健委員会		
学校行事	合唱コンクール、教育相談、文化祭				
生徒会活動	組織作り 年間活動計画作成 食に関する調査 今年度の反省				
教科との関連	1 年		2 年		3 年
	(地理)・世界の様々な地域 (イ) (ウ) (エ) ・日本の様々な地域 (イ) (ウ) (エ) (歴史)・豊かな自然と縄文文化 ・幕府政治の展開と人々の暮らし ・戦国時代の人々の暮らし ・身分制度の確立 ・新田の開発と産業、交通の発達				(公民) ・現代社会と私たちの生活 (ア) (イ) ・国民生活と経済 (ア) ・現代の民主政治とこれからの社会 (ウ)
	○生命を維持するはたらき ・栄養分を取り入れる仕組み ・消化のみちすじ ・食物の消化 ・栄養分の吸収				
	○生物育成に関する技術 ○食生活と栄養 ・食事の役割 ・栄養素の種類と働き ・健康に良い食習慣 ・中学生に必要な栄養の特徴		○献立作りと食品の選択 ・食品に含まれる栄養素		・6つの食品群
	○食生活の3つのバランスを考えよう ・食事時間 ・栄養素 ・エネルギー消費と補給				
道 徳	<ul style="list-style-type: none"> ・主として自分自身に関すること ・主として自然や崇高なものとの関わりに関すること 		<ul style="list-style-type: none"> ・主として他の人との関わりに関すること ・主として集団や社会との関わりに関すること 		
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・異文化理解教育を通して、異国の食文化を学ぶ ・キャリア教育を通して、「食」にたずさわる職業や進路等について学ぶ 		<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習を通して、食について考える 		
家庭・地域との連携	学校だより 保健だより 学校保健委員会 食物アレルギー等の個別相談 港南区福祉保健センターによる食育講座				
個別相談指導及び 取組み方	<ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギー生徒の把握 (一覧表作成) ・中高の連携、保健調査票、定期健康診断等の結果、日常生活の様子等から必要に応じて個別相談指導を行う ・生徒の様子を十分に把握し、配慮が必要な生徒については、医療機関、保護者との連携を図る ・保護者の申し出により、学校長、担任、校医、養護教諭で食物アレルギー等に対する対応を検討する ・宿泊行事における、食物アレルギー等生徒への対応検討 (機内食、現地での食事、アレルギーカード等) ・教職員へのアレルギー対応研修の実施 				
部活動	スポーツと望ましい食生活について、基礎知識を習得する				

2 学校平面図

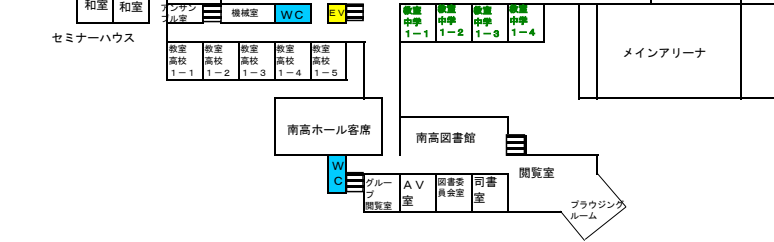
横浜市立南高等学校附属中学校



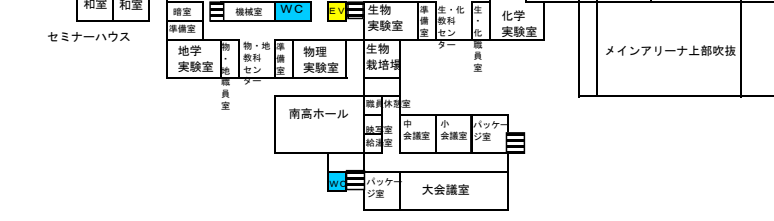
1F



2F



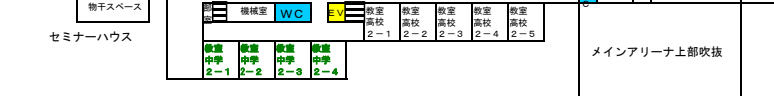
3F



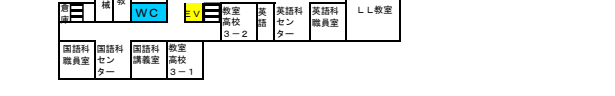
5F



4F

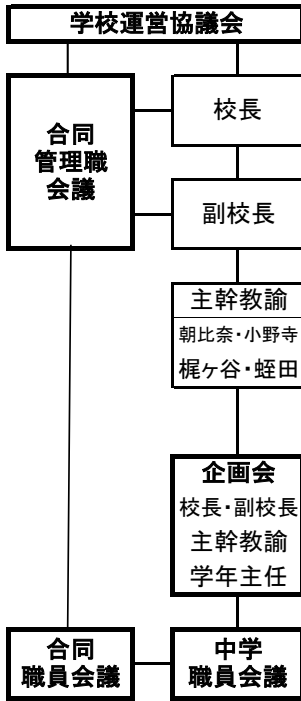


6F



]

平成30年度 南高等学校附属中学校 校内組織図



【各担当】

教務主任	小野寺
研究推進主任	山形
生徒指導主任	青木
進路指導主任	海崎
特別支援教育コーディネーター	福田
初任者研修コーディネーター	山形
道徳教育推進教師	朝比奈
司書教諭	朝比奈
学校司書	紺谷
スクールカウンセラー(SC)	秋山
人権教育推進担当者	松藤
PTA担当者	青木
食育推進担当者	鈴木古
防災安全担当者	山本
情報資産管理担当者	蛭田
YSAM担当者	濱島
衛生管理者(養護)	鈴木古
ごみゼロ推進委員	濱島
緊急連絡者	山形 小野寺 朝比奈
後援会担当(部活動指導係)	宇賀神
同窓会担当	間宮
淡交会幹事	1年 古谷知・中山 2年 阿部・大澤 3年 山本・齋藤
濃交会幹事	1年 朝比奈 2年 梶ヶ谷 3年 蛭田

学年	担任	担任	担任	担任	副担任	副担任	副担任
1学年	主任:朝比奈 山形(社)	中山(数)	古谷佳(英)	古谷知(数)	朝比奈(国)	小野寺(体)	寒川(理)
2学年	主任:梶ヶ谷 福田(国)	阿部(英)	大澤(理)	宇賀神(数)	梶ヶ谷(英)	青木(社)	
3学年	主任:蛭田 海崎(国)	齋藤(国)	山本(英)	松藤(社)	蛭田(理)	間宮(体)	鈴木理(数)

学力向上委員会	校長・副校長・◎蛭田・○梶ヶ谷・朝比奈・宇賀神・松藤
人材育成委員会	校長・副校長・◎青木・○海崎・齋藤・鈴木理(理)・山本・中山・古谷佳・間宮・寒川
研究推進委員会	校長・副校長・◎山形・○小野寺・古谷知・福田・大澤・阿部

○:係長

教務部	部長: 小野寺	1学年	2学年	3学年
教務係(校務システム・教育課程・ICT・視聴覚含む)		○小野寺 山形	青木 大澤	蛭田 間宮
学籍・教科書係(副教材含む)		中山	○阿部	松藤
学校評価係(満足度調査・来校者用資料作成補助含む)		○古谷知		鈴木理

○:係長

総務部	部長: 梶ヶ谷	1学年	2学年	3学年
広報・募集・総務係(安全・防災・管財含む)			宇賀神	
		寒川	○福田	山本
式典・説明会係		朝比奈 古谷佳	梶ヶ谷	○海崎 齋藤

○:係長

学習指導部	部長: 蛭田	1学年	2学年	3学年
学習・学級指導係		古谷佳	○大澤	蛭田
EGG係		山形	梶ヶ谷	○山本
(国際交流・キャリア教育含む)		寒川	福田	鈴木理

○:係長

生徒指導部	部長: 朝比奈	1学年	2学年	3学年
生徒指導係		古谷知	○青木	海崎
(特別支援教育・保健安全指導含む)		小野寺	(宇賀神)	(間宮)
図書・道徳指導係(人権教育含む)		朝比奈	(阿部)	○松藤
生徒会指導係		中山	阿部	○齋藤
部活動指導係			○宇賀神	間宮

○:係長 △:副係長

入選部	部長: 小野寺	副部長: 阿部・青木
入選準備A係	○海崎・△松藤・山形・朝比奈・福田・齋藤	入選準備統括
入選準備B係	○宇賀神・△蛭田・大澤・古谷知・中山	◎青木
入選運営係	○小野寺・△阿部・間宮・梶ヶ谷・山本・古谷佳 寒川・鈴木理・鈴木古	

○:実務者代表

各種委員会等	代表
予算委員会	校長・副校長・○濱島・全職員
衛生委員会	校長・副校長・○鈴木古・職員団体代表
業者選定委員会	校長・副校長・○梶ヶ谷・朝比奈・蛭田・小野寺
内進委員会(内部進学)	校長・副校長・○蛭田・梶ヶ谷・朝比奈・小野寺
校内調査書作成委員会(外部進学)	校長・副校長・○海崎・3学年職員
いじめ防止対策委員会	同日開催 校長・副校長・○青木・小野寺・古谷知・海崎・鈴木古・秋山
特別支援教育委員会	校長・副校長・○福田・間宮・鈴木古・秋山・当該担任
わいせつ・セクハラ相談窓口	青木・鈴木古・秋山
PTA役員会・実行委員会	校長・副校長・○青木・梶ヶ谷・蛭田・朝比奈

○:教科主任

教科会	主任
国語科	○福田・齋藤・海崎・朝比奈・
社会科	○松藤・青木・山形
数学科	○古谷知・宇賀神・鈴木理(理)・中山
理科	○蛭田・大澤・寒川
保健体育科	○小野寺・間宮
英語科	○山本・阿部・梶ヶ谷・古谷佳

○生徒会顧問

○:顧問代表

生徒会各種委員会	(原則の校務分掌)	1学年	2学年	3学年	
文化委員会・校誌委員会	(EGG係)	山形	○梶ヶ谷	山本	
保健美化委員会	(EGG係)	寒川	福田	鈴木理	○鈴木古
学級委員会	(学習・学級指導係)	古谷佳	大澤	○蛭田	
生活委員会	(生徒指導係)	古谷知	青木	○海崎	
南高祭(体育祭の部)実行委員会	(生徒指導係)	○小野寺	(宇賀神)	間宮	
図書委員会	(図書・道徳指導係)	○朝比奈	(阿部・福田)	松藤	紺谷
生徒会役員会・南高祭(展示の部)実行委員会	(生徒会指導係)	中山	阿部	○齋藤	
南高祭(舞台の部)実行委員会・選挙管理委員会	(部活動指導係)	(古谷佳)	○宇賀神	間宮	

○中高の連携の窓口担当者

高校の窓口担当者	業務	中学校の窓口担当者 ○は代表
	授業研究会事務局	○山形 (研究推進委員会委員長) 小野寺 (教務部長)
(教務部長)	教務	小野寺 (教務部長)
(総務部長)	総務	梶ヶ谷 (総務部長)
(生活部長)	生徒指導	青木 (生徒指導専任・生徒指導係長)
(生活部長)	部活動指導	宇賀神 (部活動指導係長)
(生徒会部長)	生徒会指導	齋藤 (生徒会指導係長)
(進路・学習部長)	学習指導	大澤 (学習係長)
(図書・視聴覚部長)	図書館教育	朝比奈 (生徒指導部長・司書教諭)
(国際企画部長)	総合的な学習	山本(EGG係長)
	国際交流	梶ヶ谷(学習指導部EGG係国際交流担当者)
(南高祭総務委員長)	南高祭総務委員会	○宇賀神 (舞台の部実行委員会顧問) 中山 (展示の部実行委員会顧問) 阿部 (展示の部実行委員会顧問) 齋藤 (展示の部実行委員会顧問) 間宮 (体育祭の部・舞台の部実行委員会顧問) 小野寺 (体育祭の部実行委員会顧問)
(防災委員長)	防災委員会	山本 (学校防災担当者)
(PT中山担当)	PTA	○青木・梶ヶ谷・蛭田・朝比奈(学年主任・PTA担当)
(同窓会担当)	同窓会	間宮 (同窓会担当)
(後援会担当)	後援会	宇賀神 (後援会担当)
(淡交会幹事)	淡交会	古谷知 中山 阿部 大澤 山本 齋藤

○部活動顧問

部活動	顧問	※高校の顧問
陸上部		阿部・間宮
(男子)野球部		山形・寒川
男子バレーボール部		小野寺
女子バレーボール部		宇賀神
(男女)ソフトテニス部		梶ヶ谷・中山
(男子)サッカー部		古谷知
女子バドミントン部		松藤
男子バスケットボール部		青木・大澤
女子バスケットボール部		大澤・青木
女子硬式テニス部		古谷佳・※下村
男子ハンドボール部		山本・鈴木古
演劇部		朝比奈・齋藤
科学部		蛭田
吹奏楽部		福田・※岩田・※小川
弦楽部		鈴木理・※箕輪・※岩田
茶道部		※菊池・※島袋・※今西
英会話部		海崎

4月		中学校予定		5月		中学校予定		6月		中学校予定		7月		中学校予定		8月		中学校予定		9月		中学校予定			
1	日			1	火			1	金			1	日			1	水			1	土				
2	月	会議日 AM中高全体会議		2	水	授業参観⑥・教育課程説明会		2	土	開港記念日 英検		2	月	平常授業	2	木			2	日					
3	火	会議日		3	木	憲法記念日		3	日			3	火	平常授業	3	金			3	月	平常授業	南高祭代表者会議			
4	水	会議日		4	金	みどりの日		4	月	生徒会各種委員会 尿検査②		4	水	平常授業 ←3年駿台進路保護者会	4	土			4	火	平常授業				
5	木	始業式・着任式 環境整備 午後 入学式		5	土	こどもの日		5	火			5	木	平常授業 生徒会各種委員会	5	日			5	水	午前授業	南高祭 午後準備			
6	金	生徒会オリエンテーション		6	日			6	水			6	金	平常授業 南高祭代表者会議・南高祭総務委員会	6	月	閉庁期間		6	木	南高祭全日準備				
7	土			7	月	生徒会各種委員会 教育実習(社会科1名)～26日		7	木			7	土		7	火			7	金	南高祭舞台の部				
8	日			8	火	生徒総会(6・7限)		8	金			8	日		8	水			8	土	南高祭展示の部				
9	月	離任・退任式		9	水	市教科・領域別総会		9	土	土曜EGG カナダ研修旅行保護者説明会		9	月	平常授業	9	木			9	日	南高祭展示の部				
10	火	懇談会全学年 学級写真撮影		10	木	1年コミュニケーション研修⑥⑦		10	日			10	火	平常授業	10	金			10	月	片づけ・閉会式 午後学活				
11	水	第1回 評議・各種委員会 (この日は6限まで7限カット)		11	金			11	月			11	水	特別時間割(午前授業) 個人面談(14時～17時)	11	土			11	火	代休				
12	木	PAA		12	土	土曜EGG 数検		12	火	合唱コンクール 港南区領域研		12	木	特別時間割(午前授業) 個人面談(14時～17時)	12	日			12	水	代休				
13	金	中高合同生徒会議長団会議 土曜EGG		13	日			13	水			13	金	特別時間割(午前授業) 個人面談(14時～17時)	13	月			13	木					
14	土			14	月	PTA実行委員会 南高祭総務委員会		14	木	火曜授業 南高祭総務委員会		14	土		14	火			14	金					
15	日			15	火			15	金			15	日		15	水			15	土	施設見学会・公開授業 生徒保護者合同カナダ研修旅行説明会				
16	月	中高合同研修会 中3全国学力学習状況調査		16	水	市総合体育大会開会式		16	土	土曜EGG 後援会総会		16	月		16	木			16	日					
17	火			17	木	1年コミュニケーション研修⑥⑦		17	日			17	火	特別時間割(午前授業) 個人面談(14時～17時)	17	金	市教育課程研究会(総則)		17	月	敬老の日				
18	水	南高祭総務委員会		18	金			18	月	南高祭展示代表会議・係別打ち合わせ		18	水	特別時間割(午前授業) 合同職員会議	18	土			18	火	代休				
19	木	健康診断 心電図(午後)		19	土			19	火			19	木	特別時間割(午前授業)	19	日			19	水					
20	金	生徒会各種委員会(総会議題確認) 土曜EGG		20	日			20	水			20	金	終業式 大掃除・ワックス	20	月	市教育課程研究会(特別支援)		20	木	第2回基礎力診断テスト 3年				
21	土			21	月	PTA総会		21	木			21	土		21	火	市教育課程研究会(各教科) 英語集中研修3年 ～8/24		21	金					
22	日			22	火	第1回基礎力診断テスト 尿検査①		22	金			22	日		22	水	市教育課程研究会(各教科)		22	土					
23	月	合同職員会議 不祥事防止研修		23	水			23	土			23	月		23	木			23	日					
24	火			24	木	体育祭予行(7限)		24	日			24	火		24	金			24	月	秋分の日				
25	水	第1回学力推移テスト 部活動オリエンテーション 港南区領域研理事会 PTA役員会		25	金	合同職員会議		25	月	職員会議		25	水		25	土			25	火	運営会議				
26	木			26	土	土曜EGG		26	火			26	木	学校説明会①in南公会堂	26	日			26	水					
27	金	体育祭 職員生徒合同係会 内科検診(午前)		27	日			27	水	期末テスト-1日目		27	金		27	月	始業式 防災訓練		27	木	生徒会各種委員会				
28	土			28	月	体育祭準備		28	木	期末テスト-2日目		28	土	学校説明会②in南公会堂	28	火	南高祭総務委員会		28	金	職員会議				
29	日	昭和の日		29	火	体育祭		29	金	期末テスト-3日目 学活(南高祭関連)		29	日		29	水			29	土					
30	月			30	水	体育祭予備日		30	土			30	月	英語集中研修1年 ～8/1 AM	30	木			30	日					
				31	木	体育祭予備日						31	火		31	金	生徒会各種委員会 南高祭関連 職員会議 中学総合学力調査(1・2年)								
備考				備考				備考				備考					備考			備考				備考	イングリッシュキャンプ保護者説明会 カナダ研修旅行保護者説明会

10月	中学校予定	11月	中学校予定	12月	中学校予定	1月	中学校予定	2月	中学校予定	3月	中学校予定
1	月	1	木 港南区教科研	1	土	1	火 元日	1	金	1	金 期末テスト3日目
2	火	2	金	2	日	2	水	2	土	2	土
3	水	3	土 文化の日	3	月	3	木	3	日 (附属中学適性検査) (採点)	3	日
4	木	4	日 志願説明会	4	火	4	金	4	月 (採点 生徒休業)	4	月 平常授業
5	金	5	月	5	水	5	土	5	火 (採点 生徒休業)	5	火 平常授業
6	土	6	火	6	木	6	日	6	水 生徒会各種委員会	6	水 平常授業
7	日	7	水 総合体育大会閉会式	7	金	7	月 始業式 環境整備 願書受付?	7	木 判定会議	7	木 平常授業
8	月	8	木 横浜市学力・学習状況調査3年 1年コミュニケーション研修⑥⑦	8	土	8	火	8	金 発表準備	8	金 平常授業
9	火	9	金 横浜市学力・学習状況調査3年	9	日	9	水	9	土	9	土 土曜EGG
10	水	10	土 授業参観・懇談会 土曜EGG	10	月	10	木	10	日 (附属中合格発表) (入学手続き)	10	日
11	木	11	日	11	火	11	金	11	月 建国記念の日 (入学手続き)	11	月 平常授業 生徒会各種委員会
12	金	12	月 代休	12	水	12	土	12	火 月曜授業	12	火 平常授業
13	土	13	火 11月選挙(立ち合い演説・投票)6・7限 生徒会各種委員会	13	木	13	日	13	水 (高校入試) (学力検査)	13	水 平常授業
14	日	14	水	14	金	14	月	14	木 (高校入試) (面接・採点)	14	木 特別時間割(午前授業)
15	月	15	木 1年コミュニケーション研修⑥⑦	15	土	15	火	15	金 基礎力診断テスト3年	15	金 生徒休業
16	火	16	金 公開授業研究会	16	日	16	水	16	土	16	土
17	水	17	土 中2イングリッシュキャンプ	17	月	17	木	17	日	17	日
18	木	18	日	18	火	18	金	18	月 合同職員会議	18	月 生徒総会
19	金	19	月 合同職員会議 不祥事防止研修	19	水	19	土	19	火 土曜EGG	19	火 特別時間割(午前授業)
20	土	20	火	20	木	20	日	20	水	20	水 特別時間割(午前授業) 合同職員会議(午後)
21	日	21	水	21	金	21	月	21	木 横浜市学力・学習状況調査1、2年	21	木 春分の日
22	月	22	木 生徒会各種委員会	22	土	22	火	22	金 横浜市学力・学習状況調査1、2年	22	金 中学校卒業式
23	火	23	金 勤労感謝の日	23	日	23	水	23	土 新入生保護者説明会 土曜EGG	23	土
24	水	24	土	24	月	24	木	24	日	24	日
25	木	25	日	25	火	25	金	25	月 2/23の代休	25	月 修了式 成績一覧表提出
26	金	26	月	26	水	26	土	26	火	26	火
27	土	27	火	27	木	27	日	27	水	27	水 期末テスト1日目
28	日	28	水 期末テスト-1日目	28	金	28	月	28	木	28	木 期末テスト2日目
29	月	29	木 期末テスト-2日目 合同保護者会	29	土	29	火			29	金
30	火	30	金 期末テスト-3日目	30	日	30	水			30	土
31	水			31	月	31	木			31	日
備考		備考	学校評価 職員防災訓練 中旬-姉妹校交流(ボイントレ-) 下旬-合同保護者会	備考		備考		備考		備考	

18 学校沿革

- 平成 22 年 5 月 横浜市立中高一貫校基本計画により、昭和 29 年開校の横浜市立南高等学校を改編し、同校の敷地内に附属中学校を設置することが決定。
- 平成 23 年 4 月 1 日 開設準備局設置 高橋正尚校長着任
- 平成 24 年 4 月 1 日 開校式、第 1 回入学式を挙 160 名入学
小藤俊樹副校長 横浜市立西金沢小中学校より着任
- 12 月 中高合同職員室改築工事完成
- 平成 25 年 3 月 14 日 開校記念樹ニュートンのリンゴの木植樹
- 4 月 5 日 第 2 回入学式を挙 160 名入学
- 平成 26 年 3 月 6 日 研究授業発表会実施 テーマ「各教科等における言語活動の充実～説明と
いう言語活動を盛り込んだ授業の実践と評価～」
- 4 月 7 日 第 3 回入学式を挙 160 名入学
- 9 月 3 日 南高等学校創立 60 周年式典挙
- 10 月 5～10 日 カナダ研修旅行実施(1 期生)
- 11 月 19 日 中高合同公開授業発表 テーマ「思考力・判断力・表現力を育成する授業」
- 平成 27 年 1 月 アリーナ吊天井改修工事終了
- 3 月 25 日 第 1 回卒業証書授与式挙
- 4 月 1 日 清田英美副校長 東部学校教育事務所より着任
- 4 月 6 日 第 4 回入学式を挙 160 名入学
- 10 月 4～9 日 カナダ研修旅行実施(2 期生)
- 11 月 17 日 中高合同公開授業発表 テーマ「思考力・判断力・表現力を育成する授業」
- 平成 28 年 3 月 25 日 第 2 回卒業証書授与式挙
- 4 月 1 日 磯部修一校長 横浜市立西中学校より着任
- 4 月 5 日 第 5 回入学式を挙 160 名入学
- 10 月 8～14 日 カナダ研修旅行実施(3 期生)
- 11 月 16 日 中高合同公開授業発表 テーマ「思考力・判断力・表現力を育成する授業」
- 平成 29 年 3 月 24 日 第 3 回卒業証書授与式挙
- 4 月 5 日 第 6 回入学式を挙 160 名入学
- 9 月 30 日～10 月 6 日 カナダ研修旅行実施(4 期生)
- 11 月 17 日 中高合同公開授業発表 テーマ「思考力・判断力・表現力を育成する授業」
- 平成 30 年 3 月 24 日 第 4 回卒業証書授与式挙
- 4 月 6 日 第 7 回入学式を挙 160 名入学